

U

S

A

**GSA**  
www.art.nihon-u.ac.jp

日本大学大学院芸術学研究科

## 芸術の新たな地平を切り拓く。



近年の芸術は、各分野がそれぞれ深化し、より高度な専門性が要求されるようになっていきます。

同時に、各分野のクロスオーバーする部分も大きくなるとともに、これまでの芸術の各領域を超えてマルチプル化しています。単独分野の研究を超えて、各分野が複雑にかかわり合うようになってきており、単独の芸術の深化をはかるだけでは十分といえない領域が多くなってきています。

本研究科は、以上のような芸術の現状を視野に置きながら、芸術の理論と歴史の研究と想像力を養い、併せて専門および学際的課題を含む応用領域の研究を行うことを目的としています。

このような理念を基に、博士前期(修士)課程は昭和26年に設置した文芸学専攻に加えて、平成5年に映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の4専攻を設置し、芸術の理論と高度な表現力を涵養することを主眼に構成しています。また、平成7年に開設された博士後期課程芸術専攻では、さらに自立した研究活動と高度な活動に従事するのに必要な表現能力と豊かな学識を持った人材の育成を目標としています。

Recently each field of art has become increasingly specialized, and students must acquire a higher level of knowledge and skills.

At the same time, each field of art has spread beyond its traditional range and borders between fields have become blurred.

The graduate school of art provides an opportunity to study the theory and history of art and to develop creativity while also developing skills in other applied areas.

Based on these ideas, the Literary Arts Master Course started in 1951 and the four other master courses (Image Arts, Fine Arts and Design, Musical Arts, and Performing Arts) became available in 1993. The doctoral course that started in 1995 offers an even higher level of research and study, and educates students to acquire deep knowledge and artistic expression.

### 【芸術学研究科 教育研究上の目的】

21世紀の芸術は、すべての領域における融合を必然としている。芸術の現状を視野に置きながら、芸術の理論と歴史の研究と想像力を養い、併せて専門及び学際的課題を含む応用領域の研究を行っている。専門分野の更なる研究と創作等を行うとともに、隣接領域の芸術と触れ合い、広い視野をもって芸術を理解することで、幅広い知識と技術を持った、次代の芸術をリードする人材を養成する。

The Message from **Masashi Kimura, Head of the Graduate School of Art**



**木村 政司**

日本大学大学院芸術学研究科長

学ぶ人たちへのメッセージ

日本大学大学院芸術学研究科は、昭和26年の文芸学専攻に始まり、平成5年の映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の増設へと、芸術研究の領域を広げてきました。そして平成7年には、博士後期課程芸術専攻を創設し、当研究科が目的とする総合的な芸術研究の場を整えました。

今、芸術は文化となり、領域を超えて共存と融合があたり前の時代へと変貌しています。メディアという言葉のもつ意味は人間の欲求によって劇的に変化し、「コミュニケーション」においてはかつてなかった革命が次々と起こる時代です。

学部8学科を基礎とした5つの芸術学研究科は、その自らが求める研究・創作のために芸術領域を超えた「知識と創造」にチャレンジし、発明・発見を大いに引き起こすことができる場といえるでしょう。

芸術学研究科が提供するの、研究・創作の場です。みなさんは、アーティスト的なセンスを発揮し、美を求めるセンスを持ち続け、美しさを感じるセンスを提供する研究・創作活動に情熱をもって打ち込んでください。あなたが未来の芸術研究をリードし、人々をインスパイアする存在になることを心から期待します。

Graduate School Courses at Nihon University College of Art began with the master's course in literary arts in 1951, and in 1993 four other master's courses were added, in image arts, fine art and design, musical arts, and performing arts. In 1995, a doctoral course for the arts was founded, providing a program for comprehensive research in the arts. This course completes the program for art education from undergraduate level through a doctoral course. Nowadays, the arts have a powerful place in culture and are in a constant state of flux, as various artistic fields coexist and fuse to create new artistic domains. The meaning of the word "media" is also changing drastically to reflect human needs, and the word "communication" has evolved to enable artistic and cultural revolutions.

The five graduate school courses, supported by eight faculties, offer you a space where you can invent and discover art beyond the "knowledge and creation" that you have already learned, through your own research and creation. The Graduate School of Art allows you to passionately pursue creative activities and research so that you can polish your aesthetic sense, continue seeking your own artistic vision, and create works that enhance the aesthetic sense of your audience.

I sincerely hope that you will take this opportunity to become a leader in art studies and to inspire people in the future.

68年の歴史を持つ  
芸術系総合大学院

68年の歴史を重ねる日本大学大学院芸術学研究科は、昭和26年に修士課程文芸学専攻からスタートしました。専門分野の更なる研究と創作を行うとともに、隣接領域の芸術と触れ合い、広い視野をもって芸術を理解することを目的として、平成5年度より映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の4専攻を増設し、学部8学科を基礎とした大学院として大きな一歩を踏み出しました。更に、平成7年度からは、博士後期課程芸術専攻を開設し、芸術系総合大学院として幅広い知識と技術を持った人を育成しています。

C O N T E N T S

芸術学部 College of Art	芸術学研究科 Master Course	芸術学研究科 Doctoral Course	芸術学研究科 Graduate School of Art	1
学部 【8学科】	博士前期課程 【5専攻】	博士後期課程 【1専攻】		
文芸	文芸学		—— 文芸学専攻 Literary Arts	4
写真 映画 放送	映像芸術		—— 映像芸術専攻 Image Arts	5
美術 デザイン	造形芸術		—— 造形芸術専攻 Fine Art and Design	6
音楽	音楽芸術		—— 音楽芸術専攻 Musical Arts	7
演劇	舞台芸術		—— 舞台芸術専攻 Performing Arts	8
		芸術	—— 芸術専攻 The Arts	9
			教員 Faculty Members	10 51
			校舎等案内図 Guide Maps & INDEX	52

(令和元年10月現在)

Literary Arts Course

新しい創造力は、広い視野から生まれる。

文芸学専攻は、他の4専攻設置の科目を含め、幅広い視点から、創作・評論・文芸学・ジャーナリズムに関する研究を行うことが可能です。

授業科目	授業担当
<b>A 理論部門</b>	
文芸学特論 I	上田 薫 植月恵一郎
文芸学特論 II	石崎 等
哲学特論	藤田一美
芸術心理学特論	野村康治
文芸情報学特論	ジュリアンマニング
マスコミュニケーション論	唐須教光
メディア論	此経啓助
文芸史特論	松本 洸
芸術社会学特論	立石弘道
	唐須教光
	三宅理一
文芸表現特論	浅沼 璞 佐藤洋二郎 山本雅男

**B 研究・創作部門**

外国文芸特殊研究	植月恵一郎 久保陽子
日本文芸特殊研究	浅沼 璞 上田 薫 ソコロフ山下聖美
文芸創作特殊研究	楊 逸
外国文芸特論 I	植月恵一郎 堀 邦維 山内 淳 山本雅男 久保陽子 立石弘道
外国文芸特論 II	久保陽子 堀 邦維 山内 淳 立石弘道
日本文芸特論 I	ソコロフ山下聖美 上坪裕介 谷村順一 清水 正 中村文昭
日本文芸特論 II	上田 薫 ソコロフ山下聖美 上坪裕介 谷村順一 中村文昭
文芸創作特論 I	青木敬士 佐藤洋二郎 楊 逸 中村文昭
文芸創作特論 II	青木敬士 佐藤洋二郎 楊 逸 中村文昭

**C 関連領域部門**

芸術学特論	鷺見洋一 前田富士男 村山匡一郎
リサーチ特殊研究 I	鈴木保彦
リサーチ特殊研究 II	松本 洸
映画史特論	田島良一 村山匡一郎
放送史特論	上滝徹也
日本美術史特論 I	大熊敏之 金子啓明
日本美術史特論 II	大熊敏之 金子啓明
西洋美術史特論 I	木村三郎 高橋幸次
西洋美術史特論 II	木村三郎 高橋幸次
日本音楽史特論 ※	
西洋音楽史特論	平野 昭
演劇史特論	織田紘二

**D 連携研究部門**

連携理論研究 I	
連携理論研究 II	
連携表現研究 I	
連携表現研究 II	
学位論文・作品	

※は令和元年度開講せず

【文芸学専攻 教育研究上の目的】

現代文学を研究・創作の両面から考え、隣接ジャンルとの関係で幅広くとらえて文学の未来を探らせる。文学のみならず広義の文化研究の領域でも新研究を求めている。そのためのあらゆる試みを可能にして、文壇・論壇・学界の新しい担い手を養成する。

文芸学専攻

This course was founded in 1951 and many talented people have graduated from it over the past half century. The course offers not only artistic theory and philosophy, but also the study of literature and literary theory. Moreover, students can also study journalism, communication, and creative writing.



文芸学専攻は、昭和26年に設置され、半世紀あまりの間に多くの人材を送り出しています。

文芸学専攻は、芸術学や芸術哲学を基礎とし、文学や文芸理論の研究、文芸作品の研究、作家研究を中心としたカリキュラムが組まれているのが特徴です。さらに、ジャーナリズムやコミュニケーションを対象とした研究・教育を行うとともに、創作実践および創作研究も取り入れていることは、他の文学専攻と異なった特徴のひとつです。

Image Arts Course

柔軟な感性、深い探究心が、映像芸術の新時代をとらえる。

【映像芸術専攻 教育研究上の目的】

今日の情報環境の中で役割が拡大してきている写真、映画、TV等各専門領域・専門分野の深化・総合化を図る。映像の各分野の歴史研究や作品研究、さらに各メディアの総合化の実験、他の芸術領域との統合を図るなど、高度な創作活動、理論的研究を通じて、より新しく専門的な表現実験に意欲的に取り組む人材、専門的な教育研究に従事する人材の養成と新たな総合的研究領域の形成を図る。



映像芸術専攻

Today image arts are becoming increasingly important forms of artistic expression and sources of information. Not only changes in the media such as photography, film, television and digital gadgets, but also a fusion of digital image processing technologies and communication technologies is expanding the scope of possibilities in audio-visual space. This course aims to develop an overall conceptual framework for image arts, encompassing these image-based media. The main concept of this course is that each image is essential for various media, and artistic images connect people with society. Image is regarded as a technological artistic expression and as a social function of communication. Therefore, education and research in this major requires knowledge of natural science, professional techniques and creative activities.

今日の芸術表現および情報環境の中で、映像の持つ役割は大きくなっています。写真、映画、テレビ、モバイル機器などのメディアの変化とデジタル映像処理技術や通信技術との融合で視聴覚空間は拡大しています。映像芸術専攻は、こうした映像のさまざまなメディアを総合化した理念でとらえています。また、それぞれのメディア領域の本質は映像であるということを中心に、人と社会をつなぐ芸術メディアとしてデザインする研究と創作活動を通じて専門的知識を追究することを目的としています。ことに映像は、技術によって成立する芸術表現であり、社会的機能つまり伝達特性を持っています。本専攻では、それを踏まえ科学的知識、専門的表現技術および創作研究を重要視しています。

写真・映画・放送の各領域に映像メディアを加え、芸術創造の研究機関の役割を果たすという構想のもと、映像メディアの本質の構造的な研究と創作を行っています。

授業科目	授業担当
<b>A 理論部門</b>	
映像特論	小笠原隆夫
写真史特論	小泉定弘
映画史特論	田島良一
	村山匡一郎
放送史特論	上滝徹也
映像構成特論	仲倉重郎
	月岡貞夫
映像技術特論 ※	橋本勝次
映像音響特論	
映像教育研究 ※	
<b>B 演習・実習部門</b>	
映像表現研究 I	浅井 謙
	西垣仁美
	齊藤裕人
	鳥山正晴
	松島哲也
	宮沢誠一
写真特殊研究 I ※	
映画特殊研究 I ※	兼高聖雄
放送特殊研究 I	奥野邦利
映像メディア特殊研究 I	西垣仁美
映像作品特殊研究 I	鳥山正晴
	中町綾子
映像技術特殊研究 I	甲田謙一
映像表現研究 II	浅井 謙
	田中里美
	服部一人
	上倉 泉
	大谷尚子
	松島哲也
	宮崎正弘
	増田治宏
	原 直久
	阪本善尚
	広沢文則
	南部英夫
	山田顕喜
	青木研次
	花柳貴答

写真特殊研究 II	高橋則英
映画特殊研究 II	古賀 太
	増田治宏
	橋本勝次
	村山匡一郎
放送特殊研究 II	兼高聖雄
映像メディア特殊研究 II	宮崎正弘
	瀬島久美子
映像作品特殊研究 II	横田正夫
	西垣仁美
	佐藤英裕
	鈴木康弘
	中町綾子
	野田慶人
	星野 裕
	森中慎也
	安部 裕
	茅原良平
	金 龍郎
映像技術特殊研究 II	小笠原隆夫
	寺脇 研
	野末敏明
	秋元貴美子
	甲田謙一
	上倉 泉
	玉木則順
	落合賢一
	松田義弘
	広沢文則

C 関連領域部門  
芸術学特論

	鷺見洋一
	前田富士男
	村山匡一郎
リサーチ特殊研究 I	鈴木保彦
リサーチ特殊研究 II	松本 洸
文芸学特論 I	上田 薫
	植月恵一郎
文芸学特論 II	石崎 等
哲学特論	藤田一美
芸術心理学特論	野村康治
文芸情報学特論	ジュリアンマニング
マスコミュニケーション論	唐須教光
メディア論	此経啓助
	松本 洸
文芸史特論	立石弘道
芸術社会学特論	唐須教光
	三宅理一
	大西若人
	山中敏正
	建築造形特論
	三宅理一
	デザイン史特論 I
	西川 潔
	小林昭世
	デザイン史特論 II
	西川 潔
	小林昭世
建築デザイン史特論 I	河東義之
建築デザイン史特論 II	河東義之
日本美術史特論 I	大熊敏之
	金子啓明
日本美術史特論 II	大熊敏之
	金子啓明
西洋美術史特論 I	木村三郎
	高橋幸次
西洋美術史特論 II	木村三郎
	高橋幸次
	笠羽幸次
	平野 昭
音楽芸術特論 I	平野 昭
音楽芸術特論 II	岩宮真一郎
日本音楽史特論 ※	土野研治
西洋音楽史特論	丸茂祐桂
情報音楽特論	織田紘二
音楽心理学特論	宮尾慈良
舞台芸術特論	丸茂祐佳
演劇史特論	貴 成人
民俗芸能特論	小田幸子
舞踊史特論	堀 邦維
	古典劇特論
	映像文献原典購読

D 連携研究部門

連携理論研究 I	
連携理論研究 II	
連携表現研究 I	
連携表現研究 II	
学位論文・作品・制作	

※は令和元年度開講せず



Fine Art and Design Course

知識の蓄積は、創造の可能性を広げる。

造形芸術専攻では、造形芸術に関する知識の修得とともに、高度な専門領域の研究と技術の修得を行います。

授業科目	授業担当
<b>A 理論部門</b>	
造形特論	大西若人 山中敏正
建築造形特論	三宅理一
日本美術史特論 I	大熊敏之 金子啓明
日本美術史特論 II	大熊敏之 金子啓明
西洋美術史特論 I	木村三郎 高橋幸次
西洋美術史特論 II	木村三郎 高橋幸次
デザイン史特論 I	西川 潔 小林昭世
デザイン史特論 II	西川 潔 小林昭世
建築デザイン史特論 I	河東義之
建築デザイン史特論 II	河東義之
美術教育研究 I	金澤健一
美術教育研究 II	金澤健一

【造形芸術専攻 教育研究上の目的】

デザイン、美術、美学美術史の分野における専門家を養成する。創作研究、作品分析研究、歴史研究を多角的に追求し、平面、立体、映像等表現の伝統的及び現代的技法を習得する。芸術の根源的な営為への想像力を馳せる力を養う一方で、文献学の基礎的方法も学ぶ。国際的な視野を持ち、社会との連携も視野に入れつつ、IT時代に即応した先端的表現領域や、造形関連分野境界領域での表現の獨創性も追求する。

造形芸術専攻



Takaaki Kondo

The primary goal of this course as an extension of the undergraduate course is to foster artistic as well as intellectual ability. It is assumed that the former is strengthened and given direction by the latter. Although training students in skills and technical knowledge in their respective fields of painting, sculpture, printmaking and design disciplines including communication, industrial and architectural designs -- along with the theory of plastic art that encompasses them -- is important, creative interactions among these fields is also strongly encouraged. This course aims to endow students with sensitivity to traditional culture as well as to the age of information and globalism, a prerequisite for the creation of visual culture in the future.



Ding Yilun

研究活動を通じて育まれた「知」と、「知」に支援された「感性」の両者を合わせつつ人材の育成こそが、学部課程の発展形としての博士前期課程の主たる教育目標です。より高度な専門性の涵養をめざす一方では、造形専攻を構成する絵画・彫刻・版画・造形理論・及びコミュニケーション、インダストリアル、建築のデザイン各分野が、領域をこえて、創造的な交流をはかるための多様な機会も用意されています。

伝統の知恵と、情報化・国際化という時代の趨勢を、独自のテーマ設定と方法論の構築を通じいかんして創造の糧として取り込むか。ここに、視覚文化の優れた担い手の養成をめざす造形芸術専攻の不断の目標があります。

<b>B 演習・実習部門</b>	
造形芸術研究 I (絵画・版画)	大庭英治 笹井祐子 福島唯史 瀬島 匠 大槻孝之 鞍掛純一 木村政司 熊谷廣己 佐藤 徹 森 香織 大熊敏之 熊谷廣己
造形芸術研究 I (彫刻)	大庭英治 笹井祐子 福島唯史 瀬島 匠 木下 晋 櫻井孝美 松下サトル
造形芸術研究 I (デザイン)	鞍掛純一 寺内隼子 木村政司 熊谷廣己 桑原淳司 森 香織 中島安貴輝 佐藤 徹 長瀬浩明 笠井則幸 大熊敏之 熊谷廣己 桑原淳司 木村三郎 高橋幸次 山中敏正 赤木範陸 吉岡正人 作田富幸 作田富幸 鞍掛純一 小倉洋一 海崎三郎 中島安貴輝 深谷基弘 肥田不二夫 西川 潔 深谷基弘 山本守和 土田 修 櫻井孝美 吉岡正人 河野 実 河野 実 鷹尾俊一 大槻孝之 熊谷廣己 肥田不二夫 熊谷廣己 土田 修 小林昭世 森 香織 熊谷廣己
造形理論研究 I	大熊敏之 熊谷廣己
造形芸術研究 II (絵画・版画)	大庭英治 笹井祐子 福島唯史 瀬島 匠 木下 晋 櫻井孝美 松下サトル
造形芸術研究 II (彫刻)	鞍掛純一 寺内隼子 木村政司 熊谷廣己 桑原淳司 森 香織 中島安貴輝 佐藤 徹 長瀬浩明 笠井則幸 大熊敏之 熊谷廣己 桑原淳司 木村三郎 高橋幸次 山中敏正
造形芸術研究 II (デザイン)	鞍掛純一 寺内隼子 木村政司 熊谷廣己 桑原淳司 作田富幸 作田富幸 鞍掛純一 小倉洋一 海崎三郎 中島安貴輝 深谷基弘 肥田不二夫 西川 潔 深谷基弘 山本守和 土田 修 櫻井孝美 吉岡正人 河野 実 河野 実 鷹尾俊一 大槻孝之 熊谷廣己 肥田不二夫 熊谷廣己 土田 修 小林昭世 森 香織 熊谷廣己
造形理論研究 II	大熊敏之 熊谷廣己
絵画特殊研究 I	赤木範陸
絵画特殊研究 II	吉岡正人
版画特殊研究 I	作田富幸
版画特殊研究 II	作田富幸
彫刻特殊研究 I	鞍掛純一
彫刻特殊研究 II	小倉洋一
デザイン特殊研究 I	海崎三郎 中島安貴輝 深谷基弘 肥田不二夫 西川 潔 深谷基弘 山本守和 土田 修 櫻井孝美 吉岡正人 河野 実 河野 実 鷹尾俊一 大槻孝之 熊谷廣己 肥田不二夫 熊谷廣己 土田 修 小林昭世 森 香織 熊谷廣己
デザイン特殊研究 II	海崎三郎 中島安貴輝 深谷基弘 肥田不二夫 西川 潔 深谷基弘 山本守和 土田 修 櫻井孝美 吉岡正人 河野 実 河野 実 鷹尾俊一 大槻孝之 熊谷廣己 肥田不二夫 熊谷廣己 土田 修 小林昭世 森 香織 熊谷廣己
デザイン特殊研究 III	山本守和 土田 修 櫻井孝美 吉岡正人 河野 実 河野 実 鷹尾俊一 大槻孝之 熊谷廣己 肥田不二夫 熊谷廣己 土田 修 小林昭世 森 香織 熊谷廣己
絵画作品研究 I	櫻井孝美
絵画作品研究 II	吉岡正人
版画作品研究 I	河野 実
版画作品研究 II	河野 実
彫刻作品研究 I	鷹尾俊一
彫刻作品研究 II	大槻孝之
デザイン作品研究 I	熊谷廣己 肥田不二夫 熊谷廣己 土田 修 小林昭世 森 香織 熊谷廣己
デザイン作品研究 II	熊谷廣己 土田 修 小林昭世 森 香織 熊谷廣己
デザイン作品研究 III	小林昭世
デザイン作品研究 IV	森 香織
デザイン実務研究	熊谷廣己
<b>C 関連領域部門</b>	
芸術学特論	鷺見洋一 前田富士男 村山匡一郎
リサーチ特殊研究 I	鈴木保彦
リサーチ特殊研究 II	松本 洸 上田 薫 植月恵一郎
文哲学特論 I	藤田一美 ジュリアン・マニング
文哲学特論 II	小笠原隆夫 小泉定弘 田島良一 村山匡一郎
放送史特論	上滝徹也 笠羽映子
音楽芸術特論 I	平野 昭 岩宮眞一郎
音楽芸術特論 II	土野研治 丸茂祐佳 織田純二 宮尾慈良 小田幸子 野村康治 唐須敦光 三宅理一 木村三郎
西洋音楽史特論	平野 昭
日本音楽史特論	岩宮眞一郎
情報音楽特論	土野研治
音楽心理学特論	丸茂祐佳
舞台芸術特論	織田純二
演劇史特論	宮尾慈良
民俗芸能特論	小田幸子
古典劇特論	野村康治
芸術心理学特論	唐須敦光
芸術社会学特論	三宅理一 木村三郎
造形文献原典購読	木村三郎
<b>D 連携研究部門</b>	
連携理論研究 I	
連携理論研究 II	
連携表現研究 I	
連携表現研究 II	
学位論文・作品・制作	

※は令和元年度開講せず



Musical Arts Course

時代に先駆けた音楽人を目指す。

【音楽芸術専攻 教育研究上の目的】

音楽は、芸術文化の中で重要な部分を形成するばかりでなく、社会がますます複雑化し、多様化するにつれて、演劇、舞踊、映画、放送などといった諸分野との結びつきも、さらに密接になってきている。文化の国際化にともなう、まったく新しい形の活動も、めざましい。現実を見据え、いっそう高度な演奏、創作、研究を実践し、あるいは教育に当たることのできる人材を養成する。

音楽芸術専攻

This course is grounded in the artistry built up over time through the many accomplishments of the College of Art in various fields. It aims at a scientific approach to the study of the essence and psychological aspects of music so that the students can attain higher levels of musical sensitivity and methodology. Goals are to conduct research on musical theories and train students to be capable of responding flexibly to the increasingly diverse needs of society.

多様化するニーズに応えるため、より高度な音楽的感性と、技法の向上を具体的に研究することを目的とした授業を行っています。

授業科目	授業担当
<b>A 理論部門</b>	
音楽芸術特論Ⅰ	笠羽映子
音楽芸術特論Ⅱ	平野 昭
日本音楽史特論※	
西洋音楽史特論	平野 昭
情報音楽特論	岩宮眞一郎
音楽教育特論	澤崎眞彦
音楽心理学特論	土野研治



音楽小ホール

音楽芸術専攻は、芸術学部の各領域の歴史的な蓄積による芸術性を根幹に据えながら、音楽の持つ芸術の本質および心理的側面を科学的に把握し、より高度な音楽的感性と技法の向上を目指します。同時に、理論的な研究を行うことを主眼として、多様化する社会的要求にも柔軟に対応できる人材の育成を目的としています。

**B 演習・実習部門**

作曲特殊研究	伊藤弘之
声楽特殊研究	齊田正子
器楽特殊研究	萩原貴子
	田代幸弘
音楽学研究	伊藤弘之
音楽教育研究	土野研治
情報音楽研究	川上 央
	高久 暁
音楽理論研究Ⅰ	伊藤弘之
	川上 央
	土野研治
	高久 暁
	大寺雅子
	三戸勇気
	岩宮眞一郎
音楽理論研究Ⅱ	伊藤弘之
	土野研治
	大寺雅子
	三戸勇気
	岩宮眞一郎
音楽表現研究Ⅰ	伊藤弘之
	齊田正子
	田代幸弘
	萩原貴子
	板倉駿夫
	稲川榮一
	佐々木 伸
	高木綾子
	寺田悦子
	袴田和泉
	原田 圭
	楊 麗貞
音楽表現研究Ⅱ	伊藤弘之
	齊田正子
	田代幸弘
	萩原貴子
	稲川榮一
	井上淑子
	楊 麗貞
	今泉 久
	齊田正子
	上原興隆
	今泉 久

**C 関連領域部門**

芸術学特論	鷲見洋一
	前田富士男
	村山匡一郎
リサーチ特殊研究Ⅰ	鈴木保彦
リサーチ特殊研究Ⅱ	松本 洸
造形特論	大西若人
	山中敏正
映像特論	小笠原隆夫
映像構成特論	仲倉重郎
	月岡貞夫
	橋本勝次
映像音響特論	上滝徹也
放送史特論	織田紘二
演劇史特論	丸茂祐佳
舞踊史特論	貫 成人
	宮尾慈良
民俗芸能特論	大熊敏之
日本美術史特論Ⅰ	金子啓明
	大熊敏之
日本美術史特論Ⅱ	金子啓明
	木村三郎
西洋美術史特論Ⅰ	高橋幸次
	木村三郎
西洋美術史特論Ⅱ	高橋幸次
	立石弘道
文芸史特論	藤田一美
哲学特論	北岡晃子
音楽文献原典購読	

**D 連携研究部門**

連携理論研究Ⅰ	
連携理論研究Ⅱ	
連携表現研究Ⅰ	
連携表現研究Ⅱ	
学位論文・作品・制作	

※は令和元年度開講せず

Performing Arts Course

舞台芸術を学び、創造力を育成する。

【舞台芸術専攻 教育研究上の目的】

演劇の実践教育及びその芸術表現を基盤に、戯曲、演出、舞台美術の空間表現と、演技、舞踊など身体表現の教育研究を主眼とする。ことに、映像メディアを活用した身体表現や創作実験の場の提供による表現など創造的研究を行う。従来の西洋演劇を中心にした学問体系のみならず日本の伝統芸能、民族芸術等を基盤として、これらの歴史研究、調査研究を実施し、高度な専門知識と実践的能力を有する人材を養成する。

舞台芸術専攻

The field of "performing arts" covers every artistic form using the human body as a medium of expression. This major gives students opportunities to learn the practical methods of, and to research, dramatic literature, directing, stage design, ethnic/folk performances, and the educational / therapeutic use of the performing arts. It is powerful, authentic expression from the heart that moves people and deepens research. This major welcomes students with brave, frontier spirits.



舞台芸術におけるより高度な研究には、固定概念に捉われず常に社会を観察する洞察力が必要です。先人たちが何を理想とし、また何を創造してきたのか、内外の歴史を知りそれを広く自らの研究領域に活用しなければなりません。言わば「温故知新」の姿勢が必要で、確固たる理論の研究や歴史への理解に加え、常に開拓者の精神で望む創造への挑戦は、理論研究であれ、それに基づく実践的研究であっても本質的に何も違いはありません。社会のニーズにあった研究者の育成はもちろん、専攻での研究成果を活かした様々なシーンで活躍できる優れた表現者の育成も行っています。

舞台芸術における、高度な理論および創造の研究・教育を目標に置いた授業を行っています。

授業科目	授業担当
<b>A 理論・歴史部門</b>	
舞台芸術特論	丸茂祐佳
演劇史特論	織田紘二
舞踊史特論	丸茂祐佳
	貴 成人
民俗芸能特論	宮尾慈良
古典劇特論	小田幸子
応用演劇特論	櫻井 歆
	小沢 徹
アート・マネージメント特論 ※	
<b>B 演習・実習部門</b>	
舞台表現研究	藤崎周平
	加藤みや子
舞踊特殊研究	丸茂祐佳
	范 旅
戯曲特殊研究 ※	
舞台演出特殊研究	藤崎周平
	神永光規
舞台美術特殊研究	大久保恵児
	千早正美
古典演劇特殊研究	原 一平
民俗芸能特殊研究	小林直弥
応用演劇特殊研究 ※	
<b>C 関連領域部門</b>	
芸術学特論	鷺見洋一
	前田富士男
	村山匡一郎
リサーチ特殊研究Ⅰ	鈴木保彦
リサーチ特殊研究Ⅱ	松本 洸
メディア論	此経啓助
	松本 洸
映像特論	小笠原隆夫
造形特論	大西若人
	山中敏正
音楽芸術特論Ⅰ	笠羽映子
音楽芸術特論Ⅱ	平野 昭
映画史特論	田島良一
	村山匡一郎
放送史特論	上滝徹也
映像音響特論	橋本勝次
音楽心理学特論	土野研治
演劇文献原典購読	植木恵一郎
<b>D 連携研究部門</b>	
連携理論研究Ⅰ	
連携理論研究Ⅱ	
連携表現研究Ⅰ	
連携表現研究Ⅱ	
学位論文・作品制作	

※は令和元年度開講せず

The Arts Course

研究心は、さらに高度な芸術を求める。

【芸術専攻 教育研究上の目的】

近年の芸術は、異なった分野・領域の芸術が、先端的なメディア等を介しながらクロスし、さらに密接な関係が成立している。専門の分野をより深く研究することを目的としつつ、どの分野からでも自らの研究に必要な他分野も研究し、新たな表現と理論の開発にも有効に機能するよう、芸術の学問と創作研究を確立し、自立した研究活動と高度な専門的活動に従事するに必要な高度な表現研究能力と豊かな学識を持った人材を養成する。

In recent artistic circumstances, fields of art have expanded beyond their traditional domains and are closely related through advanced media. The five master

芸術専攻

courses (Literary Arts, Image Arts, Fine Arts and Design, Musical Arts and Performing Arts) are united into one doctoral course. Students are able to study more specialized fields and interrelated fields as necessary. In the doctoral course students are encouraged to develop new artistic expression and theories. This course also offers working people the chance to study for doctoral degrees based on Act fourteen of the special law for the establishment of the graduate school. Working people can study during the day or in the late evening. Graduates from the master courses and doctoral course are engaged in educational and research institutions. Some of them continue their research in highly specialized fields, and others develop new fields.

授業科目	授業担当
<b>A 理論・歴史研究領域</b>	
芸術学特殊研究	鷲見洋一
映像理論特殊研究	藤田一美 古賀 太 村山匡一郎
写真史特殊研究	高橋則英
映画史特殊研究	小笠原隆夫
写真技術特殊研究 ※	
映像技術特殊研究	上倉 泉 山田顕喜
造形理論特殊研究	大熊敏之 小林昭世 西川 潔 山中敏正
美術史特殊研究	木村三郎 大熊敏之 前田富士男
デザイン史特殊研究 ※	
文芸理論特殊研究	上田 薫 植月恵一郎 堀 邦維
文芸史特殊研究	山内 淳 上田 薫 堀 邦維 此経啓助 清水 正 山本雅男
舞台芸術理論特殊研究 ※	
演劇史特殊研究 ※	
メディア・コミュニケーション特殊研究	此経啓助 松本 洸 草原真知子

音楽理論特殊研究 高久 暁  
土野研治  
赤澤立三  
平野 昭  
音楽史特殊研究 笠羽映子  
芸術教育特殊研究 鈴木保彦  
澤崎眞彦  
寺脇 研

**B 表現研究領域**  
映像表現特別研究

奥野邦利  
齊藤裕人  
鳥山正晴  
松島哲也  
鈴木康弘  
中町綾子  
野田慶人  
星野 裕  
森中慎也  
上滝徹也  
広沢文則  
福島唯史  
木村政司  
熊谷廣己  
森 香織  
中島安貴輝  
佐藤洋二郎  
楊 逸  
中村文昭  
立石弘道  
藤崎周平  
田代幸弘  
萩原貴子  
峰村澄子  
楊 麗貞

**C 特定研究領域**  
芸術研究特別演習

浅沼 瑛  
上田 薫  
植月恵一郎  
ソコロフ山下聖美  
楊 逸  
西垣仁美  
齊藤裕人  
鳥山正晴  
鈴木康弘  
兼高聖雄  
星野 裕  
森中慎也  
大熊敏之  
大庭英治  
熊谷廣己  
森 香織  
伊藤弘之  
川上 央  
田代幸弘  
萩原貴子  
藤崎周平  
山本雅男  
楊 麗貞

学位論文

※は令和元年度開講せず

近年の芸術環境は、異なった分野・領域の芸術が、先端的なメディア等を介させながらクロスオーバーしており、互いに密接な関係を結んでいます。博士後期課程の専攻を1専攻とし、博士前期課程の文芸学専攻、映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の5専攻を総合化したのは、そういった現代の芸術環境があつてのことです。そして、それは自らの専門分野の探究を目的としながら、他分野の研究を視野に入れて、新たな創造理論を構築する場として機能しています。社会人の入学枠を設け(大学院設置基準第14条による教育方法の特例)、昼夜開講制を取り入れたことも大きな特色です。すでに博士前期または修士課程を修了し、教育・研究機関や企業に従事しながら、より高度な芸術の専門領域について研究を継続したり、フィールドを越えて新たな芸術研究に取り組もうとする新進の研究者への門戸が開かれています。

Literary Arts

GSA

Faculty Members

Literary Arts

Image Arts

Fine Art and Design

Musical Arts

Performing Arts

The Arts



青木敬士

専任

生年月日  
昭和45年08月15日生

**略歴**  
平成05年03月  
日本大学芸術学部文芸学科卒業  
平成11年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成17年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成21年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成29年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
メディア芸術論・SF小説論：印刷された「紙面」と表示される「画面」の二面においてテキスト表現の進化を研究している。また、人工音声合成技術が肉体のしくみに依拠しない声を発するにもかかわらず、人がそこにキャラクターを感じてしまう現象を可視化する創作も行う。人類が自らを含む環境を把握するために、環境から切り離すことができた最初のテクノロジーを「文字」とするならば、ポーカーロイド等の人工音声文化の広がりは、一見「声の文化」的な姿をみせつつも「文字の文化」の本質を具象化するものであり、今後の文学にSF的な世界観の広がりを付与することになると考えられる。その行く末を見据えた研究を続けている。

**研究業績**  
「SF小説論講義——SFが現実には追い越されたって本当ですか」江古田文学会、2016年  
「世界はゴミ箱の中に」現代図書、2005年  
「アミドロイド～合成音声による「朗読」に架空の肉体を与える装置」芸術学部紀要創作編38

**社会活動**  
江古田文学会常任理事  
デジタルアーカイブ学会会員  
人工知能学会会員



浅沼 璞 (浅沼 博)

専任

生年月日  
昭和32年04月15日生

**略歴**  
昭和51年03月  
法政大学文学部日本文学科卒業  
昭和62年06月  
大谷学園専任教諭  
平成14年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成15年04月  
法政大学文学部日本文学科兼任講師  
平成17年04月  
武蔵野大学文学部兼任講師  
平成26年04月  
放送大学東京文京学習センター兼任勤講師  
平成30年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
近世における俳諧連歌を中心に研究活動を行っている。わけでも談林俳諧の雄・井原西鶴の独吟連句と浮世草子との相関関係を長くテーマとしてきた。また近現代俳句に関しても「連句への潜在的意欲」という視点から考察を続けている。  
近年は中世連歌へ遡行し、これまでの研究のバースペクティブの拡張を試みている。

**研究業績**  
「可能性としての連句」ワイズ出版  
「[超]連句入門」東京文献センター  
「西鶴という方法」鳥影社  
「西鶴という鬼才」新潮社  
「俳句・連句REMIX」東京四季出版(第12回日本詩歌句随筆評論大賞受賞)

**社会活動**  
俳文学会会員  
日本近世文学会会員  
日本連句協会理事



上田 薫

専任

生年月日  
昭和39年04月07日生

**略歴**  
昭和63年03月  
日本大学芸術学部文芸学科卒業  
平成02年03月  
日本大学芸術学部芸術研究所修了  
平成03年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成07年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成10年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成17年04月  
日本大学芸術学部助教  
平成19年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成21年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
思想・哲学(アラン論、森有正論、一遍上人論)  
ライフワークとしてのアラン研究を続けながら、森有正の「経験と体験」や、一遍上人の「遍歴」というテーマで研究している。

**研究業績**  
著書  
「布切れの思考—アラン哲学に倣いて—」  
「感性の哲学 アラン」  
「コギトへの思索—森有正論—」  
共著  
「一遍上人と遊行の旅」

**社会活動**  
江古田文学会常任理事・会長



## 植月 恵一郎

専任

### 生年月日

昭和31年01月22日生

### 略歴

昭和54年03月  
神戸大学理学部地球科学科卒業  
昭和57年03月  
千葉大学人文学部人文学科卒業  
昭和60年03月  
立教大学大学院文学研究科博士前期課程修了  
昭和63年03月  
学習院大学大学院博士後期課程満期退学  
平成元年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成07年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成13年04月  
日本大学芸術学部教授

### 研究領域

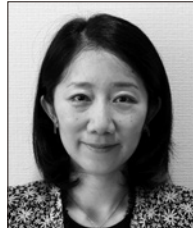
イギリス文学の自然文化誌を研究対象としている。特にイギリス・ルネサンスからロマン派までの200年くらいの間に書かれた韻文を中心に、そこに描かれた自然観の変遷、庭園・楽園表象、動物・植物表象、エコロジカルな観念などを中心に分析している。文学ジャンルで言えば、牧歌、農耕詩、地誌詩なども含む。最近児童文学も視野に入れて研究を進めている。キース・トマスの『人間と自然界—近代イギリスにおける自然観の変遷』を超えることが目標である。

### 研究業績

『博物誌の文化学—動物篇』共著、弓ブレス、2003年。  
『農耕詩の諸変奏』共著、英宝社、2008年。  
『文学と歴史の曲がり角』共著、英光社、2014年。  
『ロマン主義エコロジーの詩学』共著、鶴見書店、2015年。  
『旅と文化—英米文学の視点から』共著、鶴見書店、2018年。

### 社会活動

イギリス・ロマン派学会理事  
欧米言語文化学会顧問



## 久保 陽子

専任

### 生年月日

昭和48年07月07日生

### 略歴

平成08年03月  
学習院大学文学部英米文学科 卒業  
平成10年03月  
学習院大学大学院人文科学研究科イギリス文学専攻博士前期課程 修了  
平成13年03月  
学習院大学大学院人文科学研究科イギリス文学専攻博士後期課程単位取得満期退学  
平成13年04月  
東京理科大学 非常勤講師  
平成14年04月  
中央大学 兼任講師  
平成17年04月  
学習院大学文学部英米文学科 助教  
平成20年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成30年04月  
日本大学芸術学部教授

### 研究領域

イギリスとアイルランドの文学・文化。主に18世紀以降の女性たちの執筆活動や教育活動、芸術的関わりを含む社会活動について研究。ジェイン・オースティンを始めとするイギリスの家庭小説や結婚を描いた作品、フランス革命に影響を受けたジャコニン派の女性作家の作品、カントリ・ハウスでの地主の生活を描いた作品など。フェミニズムやジェンダー思想、及びアイルランド表象の様々な形を芸術作品に読み込むことを試みている。

### 研究業績

『チビ犬ボンベイ冒険譚』(共訳、彩流社、2017年。  
『ジェイン・オースティン研究の今 同時代のテクストも視野に入れて』(共著、彩流社、2017年。  
『イギリスを知るための60章』(共編著、明石書店、2016年。  
『イギリスの今 文化的アイデンティティ』(第四版)』(共訳、世界思想社、2013年。  
『二つのケルト その個別性と普遍性』(共著、世界思想社、2011年。

### 社会活動

イアシル・ジャパン(国際アイルランド文学協会日本支部) 運営委員  
日本アイルランド協会 会員  
日本オースティン協会 会員



## 佐藤 洋二郎

(佐藤洋二) 専任

### 生年月日

昭和24年06月28日生

### 略歴

昭和49年03月  
中央大学経済学部国際経済学科卒業  
平成10年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成14年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成19年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成29年04月  
日本大学芸術学部教授(再雇用)

### 研究領域

人間だけが持つ多様な思考と複雑な感情を文章でとらえるのが文学だと思っている。また、人間の一生は孤独を癒す作業ではないかとも考えている。その人間の生きていく孤独や哀しみをテーマに小説作品を発表しつづけている。学部では「文芸創作論」や「私小説論」を教えているが、大学院では教えることよりも育てることに重点をおき、どうしようふに小説を書くかの技術を伝えたい。

### 研究業績

「夏至祭」 講談社 野間文芸新人賞受賞  
「岬の蜚」 集英社 芸術選奨文部大臣新人賞受賞  
「イギリス山」 集英社 木山捷平文学賞受賞  
「猫の喪中」 集英社 芥川賞候補  
「ミセス順」 文藝春秋社  
「未完成の反情」 講談社  
「妻籠め」 小学館

### 社会活動

日本文芸協会常務理事  
日本近代文学館常務理事  
日中文化交流会常任理事  
日本ペンクラブ会員  
文芸誌「季刊文科」編集委員  
日大文芸賞選考委員  
日大付属高等学校コンクール審査委員  
舟橋聖一文学賞及び青年文学賞選考委員



## ジュリアン・マニング

専任

### 生年月日

昭和39年05月16日生

### 略歴

1986年ロンドン・メトロポリタン大学卒業(近代史および政治哲学)  
1992年ロンドン大学東洋アフリカ研究所(SOAS) 修士課程修了(日本研究)  
1998年シェフィールド大学東アジア研究所(SEAS) 修士課程修了(日本研究)  
2011年シェフィールド大学東アジア研究所(SEAS) 博士課程修了(在日ブラジル人の文化的アイデンティティに関する)

### 研究領域

日本の主流的なエスニック・アイデンティティのイデオロギーはどのように日本社会・政治文化と、さらに、在日マイノリティ・グループに影響をあたえるか。特に戦後日本社会・文化の歴史的な発展を調査。それから、一般的に、文化・カルチャーと多文化主義の概念は何か? 最近、今までの多文化主義の一つの欠点は個人より、団体のアイデンティティが優先されている。個人と団体アイデンティティはどのように関係を研究している。

### 研究業績

「21世紀とノーベール・エライアス」(共) 成文堂  
「Nikkeijin in Japan: A Challenge to Nationalist Discourses of Identity」 日本大学精神文化研究所紀要第37集  
「スティグマしゃかいかいについて」 日本大学精神文化研究所紀要第39集  
「ノーベール・エライアスという社会学者における、グローバル化、スポーツ、文化と歴史の始点からみる」(共) DTP出版社  
「多文化主義と多文化社会」(共) DTP出版社

### 社会活動

エスニシティとナショナルイズム学会(ASEN) 委員  
日本移民学会 委員



Literary Arts



須藤 温子 (香田温子) 専任

生年月日  
昭和47年12月09日生

**略歴**  
平成08年03月  
千葉大学文学部文学科独語独文学専攻卒業  
平成09年10月  
文部省留学推進制度にてゲッチンゲン大学ドイツ文献学科(ドイツ)留学  
平成12年04月  
日本学術振興会特別研究員DC2(千葉大学)  
平成14年10月  
ドイツ学術交流会奨学金制度にてポーフム大学ドイツ言語文化研究所(ドイツ)留学  
平成17年03月  
千葉大学大学院社会文化科学研究科博士課程修了(博士(文学))  
平成17年04月  
日本学術振興会特別研究員PD(東京大学)  
平成22年04月  
立教大学専任講師  
平成23年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成30年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
表象文化論・文学理論、ドイツ文学。主にヨーロッパにおける視覚的イメージの変遷、シンボル、表象と文学テキストとの関連を研究する。専門領域は、ユダヤ人作家エリ阿斯・カネッティとヴェーザ・カネッティの文学と思想の研究。

**研究業績**  
Übersetzung - Umformungsprozesse in/von Texten, Medien, Kulturen. (共著) Königshausen & Neumann (2010)  
『エリ阿斯・カネッティ伝記』上・下巻(共訳) SUP 上智大学出版(2013)  
『ウィーン1945-1966 オーストリア文学の「悪霊」たち』(共著) 日本独文学会(2016)  
『聞いて話そうドイツ語レッスン』(共著) 朝日出版社(2018)  
『エリ阿斯・カネッティ 生涯と著作』(単著) 月曜社(2019)

**社会活動**  
日本独文学会会員  
日本オーストリア文学会会員  
桜門ドイツ文学会理事



ソコワ山下聖美(山下聖美) 専任

生年月日  
昭和47年08月26日生

**略歴**  
平成07年03月  
日本女子大学文学部英文学科卒業  
平成12年04月  
日本大学芸術学部副手  
平成13年03月  
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程修了。博士(芸術学)取得  
平成14年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成19年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成23年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成27年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
・宮沢賢治、夏目漱石を中心とした日本近代文学  
・林芙美子、樋口一葉、平塚らいてう、尾崎翠、野上弥生子、群ようこなどを中心とした近現代女性作家研究  
・文学における共感覚  
特に最近では林芙美子の研究に専念している。

**研究業績**  
『女脳文学特講 芙美子・翠・晶子・らいてう・野枝・弥生子・みすゞ』三省堂  
『新書で入門 宮沢賢治のちから』新潮新書  
『賢治文学「呪い」の構造』三修社  
『一〇〇年の坊っちゃん』D文学研究会  
『検証・宮沢賢治の詩(2)』鳥影社  
『宮沢賢治を読む』D文学研究会

**社会活動**  
日本近代文学会会員



堀 邦維 専任

生年月日  
昭和29年07月13日生

**略歴**  
昭和55年03月  
早稲田大学第一文学部英文学科卒業  
昭和57年03月  
早稲田大学文学研究科英文学専攻修士課程修了  
昭和61年03月  
早稲田大学文学研究科英文学専攻博士課程満期退学  
昭和63年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成06年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成12年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
西洋文学・現代ユダヤ文化  
現代の欧米文学全般を広く研究。ここ15年ほどはユダヤ系知識人を中心に近現代文化の変遷を追う。その傍ら、比較文学の視点から戦後日本文学を研究している。

**研究業績**  
『ユダヤ人と大衆文化』(単著)ゆまに書房  
『ニューヨーク知識人——ユダヤ的知性とアメリカ文化』(単著)彩流社  
『マージナリア——隠れた文学／隠された文学』(共著) 鶴見書店  
『ノルベルト・エリ阿斯と21世紀』(共著) 成文堂  
『現代の英米作家100人』(共編著) 鷹書房弓プレス

**社会活動**  
米国言語学会(MLA)会員  
比較思想学会会員  
日本ユダヤ学会会員  
三田文学会会員



山内 淳 専任

生年月日  
昭和26年10月29日生

**略歴**  
昭和51年03月  
早稲田大学第一文学部仏文科卒業  
昭和60年12月  
ディジョン大学(現ブルゴーニュ大学)文学部大学院博士課程修了(文学博士号取得)  
昭和63年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成06年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成12年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成29年04月  
日本大学芸術学部教授(再雇用)

**研究領域**  
長い間フランスは、自らのアイデンティティをローマに求めてきたが、一方ではケルトの民としての伝統は途切れることなく受け継がれてきた。たとえばトリスタンとイゾー、アーサー王、蛇姫メリュジーヌなどをはじめとするケルト系の伝説は、シャトーブリアン、ノディエ、ネルヴァルなどのロマン派をはじめ、20世紀のブルースト、プルトン、グラックなどを深く魅了した。現代に続くケルトの精神を、フランス人作家の作品の中に見ていきたい。

**研究業績**  
Le Peuple chez Charles Nodier (Université de Dijon (Bourgogne))  
啓蒙のユートピア(共訳) 法政大学出版局  
フランス民話 ブルターニュ幻想集(共訳) 社会思想社  
フランス怪奇民話集(共訳) 社会思想社  
二つのケルト その個性性と普遍性(編著) 世界思想社  
ブルターニュ古謡集ノルヴェス＝ブレイス(監訳) 彩流社

**社会活動**  
日本フランス語フランス文学会  
日本フランス語教育学会  
日本18世紀学会  
比較文明学会





## 楊逸 (百木逸場)

専任

生年月日  
昭和39年06月18日生

**略歴**  
平成07年03月  
お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業  
平成21年04月  
関東学院大学文学部客員教授  
平成24年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成27年04月  
日本大学芸術学部特任教授  
平成28年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
創作・比較文学  
言語と生活習慣などによる「異」は、価値感や思想にどう影響を与え、またどう表現されるべきかについて研究し、異文化を一つのディテールとして創作活動をしている。授業では「外向けの目」を重視して指導している。

**研究業績**  
「ワンちゃん」 文藝春秋社 文学界新人賞受賞  
「時が参む朝」 文藝春秋社 芥川賞受賞  
「孔子さまへの進言」 文藝春秋社  
「楊逸が読む『聊齋志異』」 明治書院  
「すき・やき」 新潮社  
「流転の魔女」 文藝春秋社  
「蚕食鯨呑」 岩波書店  
「エーゲ海に強がりな月が」 潮出版社  
未来型ウェブ芸誌「トゥヌーブ」 主催

**社会活動**  
日本ペンクラブ会員  
日本文芸家協会会員  
お茶の水地理学会会員



## 上坪裕介

専任

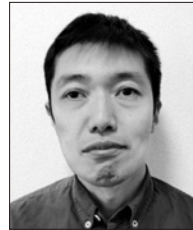
生年月日  
昭和55年06月17日生

**略歴**  
平成16年03月  
日本大学芸術学部文芸学科卒業  
平成18年03月  
日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了  
平成22年03月  
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程修了(博士(芸術学))  
平成22年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成25年04月  
日本大学芸術学部助教  
平成27年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成31年04月  
日本大学芸術学部准教授

**研究領域・概要**  
博士論文のテーマである庄野潤三の研究を継続しつつ、第三の新人の作家(特に小沼丹、小島信夫、安岡章太郎、吉行淳之介、遠藤周作、島尾敏雄)を中心に研究。その他に、三浦哲郎など「私小説」に関する考察。

**研究業績**  
「庄野潤三研究－場所論的考察」 江古田文学74号  
「庄野潤三の本 山の上の家」(共著)夏葉社  
「庄野潤三の世界」(共著)徳島県立文学書道館  
「三浦哲郎『忍ぶ川』試論」 日本大学芸術学部紀要58号  
「多種多様な作家たち－庄野潤三から第三の新人を紐解く」 三田文学108号

**社会活動**  
日本近代文学会会員  
帝塚山派文学学会運営委員  
江古田文学会常任理事



## 谷村順一

専任

生年月日  
昭和48年06月01日生

**略歴**  
平成10年03月  
日本大学芸術学部文芸学科卒業  
平成10年04月  
日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程入学  
平成12年03月  
日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了  
平成12年04月  
日本大学芸術学部副手  
平成17年11月  
日本大学芸術学部臨時職員  
平成19年09月  
法政大学文学部日本文学科兼任講師  
平成21年04月  
日本大学芸術学部助教  
平成25年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成30年04月  
日本大学芸術学部准教授

**研究領域・概要**  
文芸同人雑誌掲載作品で扱われるテーマや発行動向の分析を通して、現代日本文学の潮流について考察している

**研究業績**  
「同人雑誌季評」『季刊文科』(平成26年01月)から 鳥影社  
「同人雑誌」『文藝年鑑2017』『文藝年鑑2018』『文藝年鑑2019』 日本文藝家協会編 新潮社

**社会活動**  
日本文学協会  
あしへいの会



## 此経啓助

非常勤

生年月日  
昭和17年07月02日生

**略歴**  
昭和41年03月  
日本大学芸術学部文芸学科卒業  
昭和45年04月  
日本大学芸術学部助手  
昭和51年08月  
インド国ビハール州立マガダ大学大学院講師  
昭和60年05月  
宗教考現学研究所所長  
平成13年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成15年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成24年07月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
メディア研究。とくにメディアの現場である「いま・ここ」の研究方法をさぐる。そのために、今和次郎の「考現学」と葬式や墓参りなどの「生活仏教」で用いられている民間学の方法論を重点におき、前者ではその方法論の研究を、後者では具体的な事例の採集を実践している。目的は「いま・ここ」における事件性や個性性を客観的に記述することである。

**研究業績**  
学術論文  
「明治時代の葬列とその社会的象徴性」 日本大学芸術学部紀要第40号  
「明治時代の文化政策と宗教政策」 日本大学芸術学部紀要第41号  
「神道式墳墓とは何か」(一)～(十四) 日本大学芸術学部紀要第42号～55号  
出版  
『明治人のお葬式』  
現代書館発行  
『日本人のお墓』(共著)  
日本石材産業協会発行

Literary Arts



清水 正

非常勤

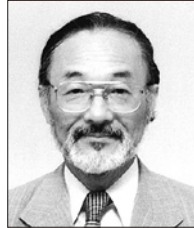
生年月日  
昭和24年02月08日生

**略歴**  
昭和46年03月  
日本大学芸術学部文芸学科卒業  
昭和55年04月  
日本大学芸術学部助手  
昭和57年03月  
日本大学芸術学部専任講師  
昭和63年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成06年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成29年04月  
日本大学芸術学部教授(再雇用)  
平成31年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
ドストエフスキーの全作品、宮沢賢治の童話作品を研究、批評してきた。近年はつげ義春、浦沢直樹、望月峯太郎、業田良家、白土三平、日野日出志などの漫画作品に関する批評、また北野武、今村昌平、宮崎駿などの映画作品に関する批評、暗黒舞踏家土方巽についての批評、グリム童話や阿部定に関する批評も展開してきた。最近興味をもっている日本の作家に遠藤周作・志賀直哉・萩原朔太郎・椎名麟三・林芙美子などがいる。これらの作家をドストエフスキーとの比較において論じている。

**研究業績**  
「清水正・ドストエフスキー論全集」D文学研究会  
「つげ義春を読む」現代書館  
「宮沢賢治とドストエフスキー」創樹社  
「今村昌平を読む」鳥影社  
「ウラ読みドストエフスキー」清流出版

**社会活動**  
D文学研究会主宰  
日本文芸家協会会員



立石弘道

非常勤

生年月日  
昭和16年07月04日生

**略歴**  
昭和40年03月  
東北大学文学部英文学科卒業  
昭和45年03月  
慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了  
昭和46年04月  
日本医科大学専任講師  
昭和50年~52年  
ケンブリッジ大学大学院(クリア・ホール)  
同大学東洋学科日本語スーパーバイザー(講師)  
昭和55年04月  
日本医科大学助教授  
昭和63年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成23年7月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
D.H. ロレンスを中心にした現代イギリス文学、比較文化・文学を文学理論をもとにして研究。トポス(空間)という概念をキーワードにして英・米・日本の文化・文学を広い視点で研究。

**研究業績**  
『教師の歴史』(翻訳)国書刊行会 2018  
『現代イギリス文学と場所の移動』(共編著) 2010  
『D.H. ロレンスとアメリカ/帝国』(共編著) 慶應義塾大学出版会 2008  
『階級社会の変貌』(共編著) 金星堂 2006  
『D.H. Lawrence: Literature Culture, History』(英文編著) 国書刊行会 2005  
『D.H. ロレンスと新理論』(編著) 国書刊行会 1999  
『現代イギリス文学と同性愛』(共著) 金星堂 1996  
『D.H. ロレンスと現代』国書刊行会 1995  
『D.H. ロレンス「狐」とテキスト』国書刊行会 1994

**社会活動**  
日本英文学会会員  
日本ロレンス協会元会長・現顧問  
国際D.H. ロレンス学会会長(第9回)  
北米ロレンス協会会員  
20世紀英文学研究会会員(元会長)  
ケンブリッジ大学クリア・ホール日本同窓会会長



唐須教光

非常勤

生年月日  
昭和17年04月30日生

**略歴**  
昭和40年03月31日  
慶應義塾大学文学部哲学科卒業  
昭和44年03月31日  
東京大学教養学部教養学科卒業  
昭和47年06月01日  
ブラウン大学大学院修士課程修了  
昭和49年04月01日  
イエール大学大学院博士課程修了  
昭和49年04月01日  
聖心女子大学文学部客員講師  
昭和51年04月01日  
玉川大学文学部専任講師  
昭和52年03月01日  
広島大学総合科学部専任講師  
昭和55年04月01日  
慶應義塾大学文学部助教授  
昭和60年04月01日  
慶應義塾大学文学部教授  
平成20年04月01日  
日本大学芸術学部教授  
平成24年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
意味論、社会言語学、言語人類学、記号論、具体的には、認知意味論的視点からみた、語の多義性、バイリンガリズム、言語の起源を中心とした言語人類学、文化や芸術の記号論に関心を持っています。

**研究業績**  
『文化記号論への招待』(共) 講談社学術文庫 1983  
『文化への言語学』類草書房 1988  
『バイリンガルの子供達』丸善 1992  
『言語学II』(編著) 研究社 2001  
『何故こどもの英語なのか』NHKブックス 2003  
『英語と文化』慶応出版 2006  
『開放系言語学への招待』(編著) 慶應出版 2009

**社会活動**  
地球ことば村顧問  
日本英語学会会員  
日本記号論学会会員  
日本言語学会会員  
三田哲学会会員



中村文昭

非常勤

生年月日  
昭和19年12月18日生

**略歴**  
昭和42年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
昭和62年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成04年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成10年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成27年01月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
近代詩と言葉(カラダ)の関係を探る。これは、必然的に日本語(国語)が歴史的に蓄積してきた表現能力と価値を根本から検討することである。1世紀頃、文字をもたなかった日本語に中国大陸から漢字とその文化が入ってきた。悪戦苦闘の果てに、日本語(国語)は12世紀頃、「漢字まじり仮名文」という日本語(国語)の不動の文体をつくりあげた。この文体が、明治以後から大正・昭和という流れの中で、いかに文学的な成熟をとげたかを問う。

**研究業績**  
『現代詩研究』第1巻明治篇・第2巻大正篇・第3巻昭和篇・第4巻現代篇 ノーサイド企画室  
『舞踏の水際』思潮社  
『童話の宮沢賢治』洋々社  
『中原中也の経験』冬樹社  
『「土方巽」研究序説』ノーサイド企画室

**社会活動**  
江古田詩人会(えごし会)主宰  
「歴史」同人  
日本バンクラブ会員  
日本文芸家協会会員  
江古田文学会理事



## 野村康治

非常勤

生年月日  
昭和41年03月28日生

略歴  
昭和63年03月  
日本大学文理学部心理学科卒業  
平成02年03月  
日本大学大学院文学研究科博士前期課程修了  
平成08年03月  
日本大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学  
平成09年04月  
日本大学文理学部助手  
平成13年04月  
日本大学文理学部非常勤講師  
平成22年09月  
沖縄県立芸術大学非常勤講師  
平成27年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成29年04月  
松蔭大学講師

研究領域  
認知心理学ならびに感覚・知覚心理学的なアプローチにより主に映像表現に関する研究を専門とする。アマチュアの写真撮影に関する実態と意識調査、アニメーションに関する印象評定調査などを行ってきた。現在は映像に限らず、広く芸術表現に関する心理学的諸問題に関心を持っている。

研究業績  
著書  
「アニメーションの事典」(共著)朝倉書店  
([アニメーションの発達心理学(2)子供向けアニメーション]、「友情と恋愛のアニメーション」)、「アニメーションにおける「動き」表現の検討」執筆担当)  
論文  
「ビデオ撮影時における時間評価」心理学研究 第68巻第3号  
「写真撮影時の記憶について—静物を被写体として—」(共著)日本大学心理学研究 第23号  
「アニメーションにおける「歩き」表現の検討」(共著)アニメーション研究 第6巻第1号

社会活動  
日本アニメーション学会理事



## 藤田一美

非常勤

生年月日  
昭和19年07月20日生

略歴  
昭和43年03月  
東京大学法学部政治学科卒業  
昭和47年03月  
東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退  
昭和47年04月  
東京大学文学部助手(美学)  
昭和49年04月  
南山大学文学部講師(哲学)  
昭和53年04月  
南山大学文学部助教授(哲学)  
昭和55年10月  
東京大学文学部助教授(美学)  
平成03年12月～平成19年03月  
東京大学文学部教授(美学)

研究領域  
西洋古典古代から現代に及び哲学・美学、中国古代から宋代にかけての経学・詩論、日本の歌論・能楽論・俳論、明治初期啓蒙思想(特に西周)。方法的には、東西の思想を、世界学と人間学の双方を包括する動的な全体としての〈存在〉の解釈という観点から、認識論、存在論、価値論、芸術論(とくに文芸論)を相関させてゆく。

研究業績  
\* 藝術の存在論、多賀出版、1995年  
\* 存在論としての価値論1-3、科学研究費報告、美学藝術学研究13、14号、'95-'96年  
\* 啓蒙思想における〈為国家之用〉の論理、美学藝術学研究22、23号、'05-'06年  
\* 詩論の系譜、美学藝術学研究24号、'07年  
\* 詩作術の正当性と詩学の位置、GPS(ギリシア哲学セミナー)2010  
\* ニーチェの「他様に解釈される」について、藝文攷17  
\* ディオニュソスのなるものの変貌—藝術衝動から哲学概念へ—(一)(二)、藝文攷18、19  
\* 存在と意味をめぐって—美的現象としての世界の是認、哲学132号、2014年  
\* 「署名の間」銘文小攷、藝文攷20、22-24

社会活動  
東大哲学会、美学会、GPS、学術振興会専門委員、福祉活動従事



## 松本 洸

非常勤

生年月日  
昭和22年01月16日生

略歴  
昭和44年03月  
日本大学文理学部心理学科卒業  
昭和46年03月  
日本大学大学院文学研究科修士課程修了  
昭和49年03月  
日本大学大学院文学研究科博士課程満期退学  
昭和49年04月  
社団法人社会開発統計研究所主任研究員  
昭和52年08月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成02年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成29年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域  
クオリティ・オブ・ライフ(QOL)における指標化が主要なテーマである。心理学研究法、環境心理学が専門分野であるため、芸術作品の印象測定、癒しの心理尺度化などに取り組んでいる。これまでの研究領域として環境心理学サイドからの住民意識と自治体行政との関連分析を長く研究していたため、社会調査法、コミュニケーション論などへのアプローチも行なっている。

研究業績  
「社会開発政策」(共著)青林書院新社  
「老年心理学」(共著)朝倉書店  
「クオリティ・オブ・ライフ」(編著)福村出版  
「人間関係と生徒指導」(共著)学術図書出版  
「発達と学習」(共著)八千代出版  
「応用心理学事典」(映像コミュニケーション)、「ロハス」項目執筆)丸善

社会活動  
日本心理学会会員  
日本応用心理学会会員  
日本老年社会科学会会員(論文査読委員)  
日本芸術療法学会会員  
臨床心理士



## 三宅理一

非常勤

生年月日  
昭和23年12月23日生

略歴  
昭和47年05月  
東京大学工学部建築学科卒業  
昭和49年03月  
東京大学大学院工学系研究科修士課程修了  
昭和54年12月  
パブリック・エコー・デ・ボザール卒業  
昭和56年03月  
東京大学大学院工学系研究科博士課程修了(工学博士)  
平成02年04月  
芝浦工業大学工学部教授  
平成11年09月  
慶應義塾大学大学院政策メディア研究科教授  
平成20年10月  
パリ国立工芸院教授  
平成24年04月  
藤女子大学副学長  
平成29年04月  
東京理科大学客員教授

研究領域  
建築史・地域計画・デザイン理論  
建築デザインの美学を中心とした芸術理論が専門である。主に西洋の環境デザインが中心であるが、西洋から日本、そして中東と世界的な規模で、社会・環境・都市の中における芸術表現を研究している。

研究業績  
「世紀末建築」(全6巻)講談社  
「エビキュリアンたちの首都」学藝書林  
「都市と建築コンペティション」(全7巻)講談社  
「次世代街区への提案」鹿島出版会  
「秋葉原は今」芸術新聞社  
「パリのグランド・デザイン」中央公論新社  
「限界デザイン」TOTO出版

社会活動  
日仏工業技術会理事  
瀋陽市栄誉市民  
日本エチオピア協会理事  
日本建築学会建築博物館幹事  
日本建築文化保存協会理事  
都市化研究公室理事

## Literary Arts



### 山本雅男

非常勤

#### 生年月日

昭和25年07月25日生

#### 略歴

昭和49年03月  
中央大学文学部哲学科卒業  
昭和51年03月  
日本大学大学院文学研究科修士課程修了  
昭和55年03月  
日本大学大学院文学研究科博士課程満期退学  
昭和55年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成06年04月  
静岡県立大学国際関係学部助教授(大学院兼任)  
平成09年10月  
日本大学芸術学部助教授  
平成14年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成31年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師

#### 研究領域

現代のイギリス社会や文化の核心部分は18世紀に形づくられたと考えられる。とりわけ社会生活や文化活動の末端にまで浸透している階級性の端緒を、当時のジェントルマン層の動向に焦点を当てつつイギリス文化の全体像を見通そうとしている。

文化の現象と基層を貫く基本的構造の分析が当面の課題である。近代文化の批判的考察を通し、文化基礎論の構築を目指す新たな視点を模索中である。

#### 研究業績

『ヨーロッパ「近代」の終焉』 講談社  
『ダービー卿のイギリス』 PHP研究所  
『競馬の文化誌』 松柏社  
『近代文化の終焉』 彩流社  
『イギリス文化と近代競馬』 彩流社  
『倫敦路地裏犯科帖』(翻訳) 東洋書林  
『英国競馬事典』(編訳) 競馬国際交流協会

#### 社会活動

日本シェイクスピア協会会員  
日本スポーツ社会学会会員  
日本ウマ科学会会員  
(社)日英協会会員  
日本文藝家協会会員  
日本中央競馬会委員会委員  
(公財)競馬国際交流協会評議員

Image Arts



秋元貴美子

専任

生年月日  
昭和45年04月06日生

**略歴**  
平成06年03月  
日本大学芸術学部写真学科卒業  
平成08年03月  
日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程映像芸術専攻 修了  
平成11年03月  
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程芸術専攻 単位修得退学  
平成28年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
写真表現研究・写真表現文化研究

**研究業績**  
(作品)  
「化する光景」ポートレートギャラリー／2012年10月  
「都市に生きるii」ポートレートギャラリー／2016年6月  
「遠い記憶」, 「白い木」, 「斜陽の中で」魚沼ベストショット展 Part VI 池田記念美術館 2017年1月  
「クララの街」写真展「My Works」アイテムフォトギャラリー「シリウス」／2018年5月 アイテムフォトギャラリー「シリウス」  
「Light's Edge」Nikon 新宿フォトプロムナード／2018年6月  
(論文)  
「社会における写真の機能の考察」(日本写真芸術学会誌1996年12月)  
「社会における写真の機能の考察(2) 一広告写真表現にみる社会一」(日本写真芸術学会誌1997年5月)  
「写真療法の可能性」(日本写真芸術学会誌1997年12月)  
「高校生の写真活動と教育に関する研究」(日本写真芸術学会誌1999年12月)  
「大学入学以前における写真活動の現況」(日本大学芸術学部紀要論文篇 2013年10月)  
「土門拳、そのリアリズムとメンタリティ」(日本大学芸術学部紀要論文篇2015年10月)

**社会活動**  
日本写真家協会会員  
日本写真芸術学会理事  
日本映像学会会員  
美学会会員



浅井 譲

専任

生年月日  
昭和31年11月02日生

**略歴**  
1980年03月  
日本大学芸術学部写真学科卒業  
1980年04月  
(株)ポーラ化粧品入社 宣伝部制作室フォトグラファー  
1995年10月  
(株)ポーラ化粧品 宣伝部制作アートディレクター(フォトグラファー兼務)  
2002年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
2004年01月  
ポーラ化成工業(株)デザイン研究所 転籍  
2004年03月  
ポーラ化成工業(株)デザイン研究所 退社  
2004年04月  
日本大学芸術学部助教授  
2007年04月  
日本大学芸術学部准教授(呼称変更)  
2009年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
写真表現研究・広告写真研究

**研究業績**  
・浅井譲写真展「対話」愉しむ写真へ 銀座コダックフォトサロン2004-5/26～6/1  
・浅井譲写真展「対話」愉しむ写真へⅡ 銀座コダックフォトサロン2007-6/6～12  
・浅井譲写真展 「take a picture」愉しむ写真へ 富士フィルムフォトサロン(東京) 2011・4/22-/28  
・Jing展(共同)  
桜・夏・いろいろ・特別展 年3～4回  
Space Jing(渋谷・神宮前)2015-3～  
・日本大学芸術学部紀要(創作篇)29～33号・35号～39号・41号～43号

**社会活動**  
公益社団法人日本広告写真家協会 正会員  
日本写真芸術学会



甲田謙一

専任

生年月日  
昭和24年12月16日生

**略歴**  
昭和47年03月  
日本大学芸術学部写真学科卒業  
昭和60年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成06年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成12年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成29年04月  
日本大学芸術学部教授(再雇用)

**研究領域**  
カラーデジタル写真技術研究  
写真制作は技術的理解無しには語れない。20世紀末にピークを迎えた銀塩写真によるカラー写真を凌駕し、21世紀に本格化した若いデジタル写真の技術を中心に、写真技術及び画質の追求による、高度な写真作品制作を目標に置く。

**研究業績**  
個展  
「野の花・足もとの妖精たち」ミュゼオ・ピクトリコ  
「野の花・足もとの妖精たち2」アイテムフォトギャラリー「シリウス」  
出版  
「デジタル写真学入門」電波新聞社  
「デジタル写真の基礎」コロナ社  
「Photoshop Elements で始めるデジタルカメラ写真入門」MDNコーポレーション  
「デジタル写真入門」コロナ社

**社会活動**  
日本写真学会会員  
日本写真芸術学会会員



佐藤英裕

専任

生年月日  
昭和37年12月04日生

**略歴**  
1985年03月  
早稲田大学法学部卒業  
1996年03月  
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻修了  
1999年03月  
日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻満期退学  
2000年04月  
日本大学芸術学部助手  
2004年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
2008年04月  
日本大学芸術学部准教授  
2014年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
現代写真表現研究、及び写真の表現構造研究

**研究業績**  
・写真に於ける視覚経験の構造に関する一考察 日本写真芸術学会誌第6巻第1号  
・写真における作者の存在とその機能に関する一考察 日本写真芸術学会誌第10巻第2号  
・写真表現における記憶の機能に関する一考察 日本写真芸術学会誌第17巻第1号  
・現代写真作品表現にみる「リアル」と「オリジナル」の変容に関する一考察 日本写真芸術学会誌第21巻第1号  
・写真史及び写真論におけるモダニズムとポストモダニズムの相違に関する一考察 日本写真芸術学会誌第22巻第1号

**社会活動**  
日本写真芸術学会理事  
日本映像学会会員



Image Arts



高橋則英

専任

生年月日  
昭和28年12月09日生

**略歴**  
昭和53年03月  
日本大学芸術学部写真学科卒業  
昭和61年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成02年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成08年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成14年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成26年04月  
東京大学史料編纂所画像史料解析センター共同研究員

**研究領域**  
写真芸術学、写真史および画像保存。  
19世紀の発明から今日へと至る歴史的経過の分析を通じて写真の芸術性を研究する。写真は日本および欧米の写真史全般であるが、とくに幕末の導入期から明治における発展期に至る日本初期写真史に重点を置く。またコロジオン湿板法や鶏卵紙など、初期写真技法の復元再生の研究も実施。同時に記録や芸術作品としての歴史的に貴重な写真画像を次世代に確実に継承するため、その保存方法や保存環境、修復などの研究を継続して行う。

**研究業績**  
『文化財としてのガラス乾板—写真が紡ぎなおす歴史像』(編著) 勉誠出版、2017年  
『写真技法と保存の知識 デジタル以前の写真—その誕生からカラーフィルムまで』(翻訳監修) 青幻舎、2017年  
『レンズが撮らえた 日本人カメラマンの見た幕末明治』(編著) 山川出版社、2015年  
『E・ブラウン・ジュニアのタゲレオタイプ』(研究論文)『日本写真芸術学会誌』、1998年  
『写真の保存・展示・修復』(日本写真学会画像保存研究会編著) 武蔵野クリエイティブ、1996年

**社会活動**  
日本写真芸術学会会長  
日本写真学会代議員・画像保存研究会委員  
日本写真家協会・写真保存センター調査委員  
文化庁文化審議会専門調査委員



西垣仁美

専任

生年月日  
昭和36年06月07日生

**略歴**  
昭和59年03月  
日本大学芸術学部写真学科卒業  
昭和61年03月  
日本大学大学院芸術学研究科文芸学専攻修了  
平成02年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成07年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成14年04月  
日本大学芸術学部助教授(現 准教授)  
平成21年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
近代および現代写真の写真思潮、表現研究。20世紀以降の写真作品の表現と作者の思想研究。過去の作品研究と同時に現代写真を日本の作家を中心に研究している。研究が主であるが創作活動も作家の心を考えるために続けている。

**研究業績**  
学術論文  
・ 建築家・山脇巖の写真に関する試論(日本大学芸術学部紀要第02号)  
・ マン・レイの写真作品における現代性の考察(日本写真芸術学会誌第17巻第2号)  
評論  
・ 『2018年写真の動向』11 写真芸術 日本写真学会誌第82巻第3号(2005年~2019年毎年執筆)  
出版  
・ 『50冊で学ぶ写真表現入門』(共著) 日本カメラ社、2019年  
・ 『写真の百科事典』(共著) 朝倉書店、2014年  
作品発表  
・ 日本大学芸術学部写真学科女子卒業生有志の会 あじさい会写真展に出品(1984年~2019年)  
・ 日本大学芸術学部紀要(創作篇)に発表(1987年~2019年)

**社会活動**  
日本写真芸術学会副会長  
日本写真学会会員  
日本映像学会理事



田中里実

専任

生年月日  
昭和35年05月25日生

**略歴**  
平成17年03月  
日本大学芸術学部写真学科卒業  
平成19年03月  
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻博士前期課程修了  
平成21年01月  
日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻博士後期課程中退  
平成21年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成24年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成28年04月  
日本大学芸術学部准教授

**研究領域**  
写真表現研究・写真表現・写真技術史  
19世紀の写真技法の研究とその再現を試み、初期写真技法が写真表現へ与えた影響を考察研究している。また現代において19世紀写真技法を用いた写真表現に取り組んでいる。

**研究業績**  
個展  
・ 『Typology Series No.1 "Entrance"』 GALLERY STORKS  
・ 『a flower is not a flower』 練馬区立美術館  
・ 『鉄・彫・写』 星と森の詩美術館  
・ 『35×35 写真史の旅』 GALLERY STORKS  
他  
論文  
・ 『舎密局必携』前篇三付録「撮形術ボタラヒー」—現代語訳— 日本写真芸術学会誌—第17巻・第1号—  
・ 柳川春三著『写真鏡図説』二巻—現代語訳 日本写真芸術学会誌—第18巻・第1号—  
・ 『遠西奇器術』直写影鏡ダゲウロテービー—現代語訳— 日本大学芸術学部 紀要第56号

**社会活動**  
日本写真学会員  
日本写真芸術学会員



服部一人

専任

生年月日  
昭和36年05月07日生

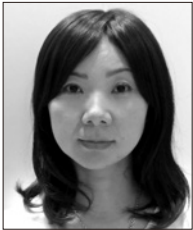
**略歴**  
昭和59年03月  
日本大学芸術学部写真学科卒業  
昭和59年04月  
(株)日本デザインセンター入社  
制作局写真部フォトグラファー  
平成05年04月  
独立行政法人国際協力機構(JICA)によりケニア国ナイロビ市ケニア国立博物館へ派遣  
平成14年12月  
タイ国チェンマイ山岳民族博物館へ派遣  
平成18年03月  
タイ国アユタヤ歴史研究センターへ派遣  
平成27年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成31年04月  
日本大学芸術学部准教授

**研究領域**  
タイ北部、ラオス北部の少数民族を対象とした映像人類学研究。この地域で継続してフィールドワークを実施し、記録映像を通じて生活の変化を調査している。特に農耕儀礼、キリスト教布教による影響などを重点的に研究し民族誌映像を制作している。  
他にスナップショットの写真表現に取り組み、研究の一環として自身もアジア、ヨーロッパ、アフリカ地域でのストリートスナップショットを実践して写真展で作品発表している。

**研究業績**  
[民族誌映像]  
・ 『森の再生 言葉の再生』2013(NPO法人メコン・ウォッチ共同制作)  
・ 『ソングラウン 新年を迎える儀式 タイチェンマイ』2012(金沢大学共同制作)  
[写真展]  
・ 『駅・雑踏・トラム』2019/ソニーイメージングギャラリー  
・ 『ジェニファーの結婚式・モゴの結婚記念日』2018/ギャラリーストークス  
・ 『窓の向こうに』2016/ギャラリーストークス

**社会活動**  
日本写真芸術学会会員  
(公社)日本写真協会会員  
東京都写真美術館外部評価委員会委員





## 大谷尚子

専任

生年月日  
昭和48年11月27日生

**略歴**  
平成09年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
平成10年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成15年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成22年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成27年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
映画演技。主に映像と演劇の演技の特徴、相違について俳優の視点から実践に基づき研究している。また、映画俳優論についての研究も行っている。さらには俳優にとって必要不可欠である発声、発音について、人体構造の仕組みに基づき、無理のない発声や発音、滑舌法の研究を行っている。

**研究業績**  
「とことこ所沢探偵社」(ケーブルテレビメディアアツィ所沢(現J.COM) 太田ひばり役  
「土井さんの不幸」(劇場用映画 女子女子over8) 幸江役  
「それぞれの立場 それぞれの気持ち ~職場で考えるダイバーシティと人権~」(東映教育ビデオ) 岡真理子役  
「即身仏を訪ねて一涅槃の考古学」ナレーション  
トランス☆プロジェクト第6回公演「カミングアウト」出演  
劇団おしやれ大学第8回公演「リア王」ゴネリル役

**社会活動**  
言語聴覚士(病院、福祉施設において言語指導)  
日本語聴覚士協会会員  
国際パフォーマンス学会会員  
言語発達障害研究会会員



## 奥野邦利

専任

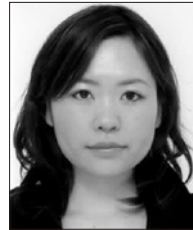
生年月日  
昭和44年04月18日生

**略歴**  
平成05年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
平成07年03月  
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻修了  
平成07年04月  
日本大学芸術学部補助員  
平成08年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成10年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成15年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成19年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成23年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
メディアアートを中心とした映像表現  
1960年代に登場したビデオアートが、現在のメディアアートへと拡大して行くプロセスに光を当て、エレクトロニクスとアートの関係、マスメディアとパーソナルメディアの関係、コンテンツと物語の関係などを探求している。創作としてはシングルチャンネルのビデオ作品の他、インスタレーションも手掛けており、近年はコンサートや演劇とのコラボレーションにも積極的にアプローチしている。

**研究業績**  
評論  
「ビル・ヴィオラ考一思考する映像一」日本大学芸術学部映画学科研究誌映像研究第26号  
創作  
オムニバス映画「見るということ」(共同監督)  
山形国際ドキュメンタリー映画祭・企画上映(2009)  
映像作品「喪失の記憶」(監督)  
ブルックリン国際映画祭正式上映(2010)  
実験映画・ビデオフェスティバル イン ソウル 正式上映(2010)

**社会活動**  
日本映像学会総務委員  
日本アニメーション学会会員  
日本映画テレビ技術協会会員



## 上倉 泉

専任

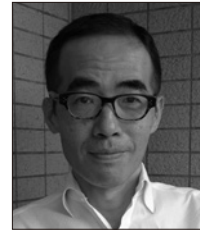
生年月日  
昭和47年03月20日生

**略歴**  
平成06年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
平成11年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成16年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成19年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成24年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
映画技術、おもに映画の録音の研究。各国のエンジニアとディスカッションをしながら映画のアナログサウンドトラック、シアンダイトラックの研究を主に行い、さらに年間数十本の映像作品を制作している。

**研究業績**  
「アナログシアンダイトラックの再生に関する諸問題」(映画テレビ技術誌)  
「ふるさとをください」富永憲治監督 ジェームス三木脚本 文部科学省選定映画 ステレオ/モノミックスミキサー  
「喪失の記憶」録音・ミキサー  
「Pray for Japan Film」Stu Levy監督 ミキサー  
「Little kyota Neon Hood」Satsuki Okawa監督 ミキサー  
「旅するボール」Jリーグ20周年記念特別ショートフィルム 大川五月監督 ミキサー

**社会活動**  
日本映画テレビ録音協会会員  
日本映像学会会員  
日本映画テレビ技術協会評議員  
ISO(国際標準化機構) / TC36国内委員



## 古賀 太

専任

生年月日  
昭和36年06月15日生

**略歴**  
昭和61年03月  
九州大学文学部仏文学科卒業  
昭和62年03月  
早稲田大学文学部大学院芸術学専攻修士課程中退  
昭和62年04月 - 平成05年09月  
国際交流基金勤務  
平成05年10月 - 平成21年03月  
朝日新聞社勤務(文化事業部企画委員及び文化部記者)  
平成09年04月 - 平成16年03月  
東京大学非常勤講師(表象文化論)  
平成21年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
映画史の新たな読解をテーマとする。現在は、初期映画の図象学的解釈や海外における日本映画の評価の歴史、戦時中の日本映画などを調査中。  
また映画興行や映画祭など映画上映のマネジメント面からの研究をサブテーマとする。

**研究業績**  
主な著書  
「映画伝来」(共著)岩波書店  
「魔術師メリエス」(翻訳)フィルムアート社  
「リュミエール元年」(共訳)筑摩書房  
「日本映画史叢書(15) 日本映画の誕生」(共著)森話社  
「日本映画の海外進出」(共著)森話社  
「日本戦前映画論集」(共著)ゆまに書房  
そのほか、朝日新聞社において「ジャン・ルノワール、映画のすべて」「イタリア映画祭」など20以上の映画祭を企画・運営し、カタログを編集・執筆。  
また「朝日新聞」紙面に多数記事を書く。

**社会活動**  
フランス政府より国家功労勲章シュヴァリエ(騎士)章  
イタリア政府より「イタリアの星」勲章カヴァリエーレ(騎士)章  
日本映像学会常任理事

Image Arts



齊藤裕人

専任

生年月日

昭和40年12月25日生

略歴

平成02年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
平成07年03月  
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了  
平成07年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成10年03月  
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程満期退学  
平成10年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成15年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成19年04月  
日本大学芸術学部教授

研究領域

専門分野: 映画演出・映画制作  
物語の構成や画面構成、カメラワークなどにおける映画演出の研究を主として、映画制作の創作的なあり方を研究テーマとしている。また、デジタル技術の発展などにより激変している映画界の動向に注目しつつ、これからの映像制作法を考察することもテーマの一つである。

研究業績

「酒中日記」劇映画(編集)  
「こころ豊かに」PRビデオ(構成・演出・編集)  
「幸せの黄色い自転車」広報ビデオ(構成・演出・編集)  
「星になったおじいちゃん」ビデオ作品(共同脚本・監督・編集)  
「Gyraton」ミュージッククリップ(ライブアクションディレクター)  
「シネマ・ヨーロッパ#1~6」テレビ番組(日本語版監修)

社会活動

日本映像学会会員  
美学学会員



田島良一

専任

生年月日

昭和25年05月15日生

略歴

昭和48年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
昭和51年03月  
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了  
昭和55年04月  
日本大学芸術学部助手  
昭和59年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成03年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成09年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成29年04月  
日本大学芸術学部教授(再雇用)

研究領域

専攻は日本映画史。これまでは戦前の日本映画史の研究に重点を置いてきたが、現在は、新東宝末期の社長で、映画プロデューサーでもあった元弁士の大蔵貢の再評価に取り組んでいる。

研究業績

「世界映画大事典」日本図書センター(分担執筆)  
「日本映画史叢書④時代劇伝説—チャンバラ映画の輝き」森話社(共著)  
「日本映画史叢書⑤日本映画の誕生」森話社(共著)  
「日本映画の海外進出—文化戦略の歴史」森話社(共著)

社会活動

日本映像学会会員  
美学学会員



玉木則順

専任

生年月日

昭和37年07月20日生

略歴

昭和62年03月  
京都教育大学教育学部特修理学科卒業  
以後、中学校理科教員、プラネタリウム解説員、CG制作会社、ノンリニア編集機メーカー、海外映像機器の輸入代理店を経て、国内の撮影所、放送局、ポストプロダクションのデジタルシステムの構築に関わる  
平成23年04月  
日本大学芸術学部特任教授  
平成23年09月  
日本映画大学非常勤講師  
平成26年04月  
日本大学芸術学部任期制教授

研究領域

ポストプロダクションのデジタル技術全般  
フィルムが作り上げた色彩表現の遺産をデジタル技術で引き継ぐとともに、その先の表現の可能性について、カラーマネージメント技術を基盤に人間の知覚特性(記憶色)に適合した手法を考察している

研究業績

東宝スタジオ 新ポストプロダクションセンター構築(映像&ネットワーク担当)  
REDカメラ・RAW現象ソフトウェア  
「simple@post」プロトタイプ制作  
「Avidでの24p編集と音処理」録音166号  
「Avidでの24p編集—最近の動向—」録音170号



鳥山正晴

専任

生年月日

昭和36年05月14日生

略歴

昭和60年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
平成03年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成07年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成12年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成18年04月  
日本大学芸術学部教授

研究領域

映画を主とする映像作品の演出と研究、及びそれに関わるシナリオの創作。古今東西の映画作家たちの映画演出法の共通点を、作家と観客という枠組みの中でアプローチしている。また、映画を専攻しはじめた頃から実験映画/アヴァンギャルドムービーを研究し、それまでの資料等をもとに、それらを系統的に分類し、演出手法・内包するメッセージ等の研究をしている。

研究業績

シナリオ「もりもりぼっくん」  
東映テレビ・フジテレビ放映  
PRビデオ(19分)「モクネット21 二つ井」  
構成脚本・演出  
論文  
「映画少年はなぜ巨匠になり得たか? ~ピーター・ジャクソン論~」  
(映像研究第33号)  
「現代ファンタジー映画ストーリー考」  
(日本大学芸術学部紀要第55号)  
「映像ストーリー配信サービスの現状と今後」  
(日本大学芸術学部紀要第69号)  
・Global Chinese Univ. Student Film and Television Festival (香港) 審査員(2009年)  
・2009 Taipei Country Film Festival, International Student Film Golden Lion Award (台湾) 審査員(2009年)

社会活動

日本映像学会会員  
日本映画テレビ技術協会員



## 増田治宏

専任

**生年月日**  
昭和55年1月28日生

**略歴**  
平成14年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
平成18年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成19年04月  
日本大学芸術学部助教  
平成21年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成24年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成30年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
映画製作における撮影、照明、映画技術を研究しているが、創作を主にしている。撮影機材、機器の発達により、新たな映像表現へのアプローチをしている。

**研究業績**  
短編映画  
「青い魚」「夢に向かって」の撮影。  
「米粒の神様」の照明。  
ドキュメンタリー  
「A Hundred-year Journey of the Family」  
カラーコレクション担当。  
映画  
「酒中日記」カラーグレーディング担当。  
他PRビデオ、記録映像、撮影、カラーコレクション担当。

**社会活動**  
日本映画撮影監督協会会員  
映画テレビ技術協会会員  
日本映像学会会員



## 松島哲也

専任

**生年月日**  
昭和35年05月11日生

**略歴**  
昭和57年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
昭和57年04月  
映画テレビ制作会社ティンダーボックス入社  
平成05年03月  
フリーとなり、映画、テレビドラマ、ドキュメンタリーの監督、脚本に従事  
平成11年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成18年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
映画演出及び脚本表現研究  
劇場用映画の脚本・監督を行っている。  
多様化する映像メディアの作術・演出術を研究しながら、進化を遂げるデジタルシネマの制作も行っている。  
テレビドラマの変遷を研究し、新たな企画立案から制作・プロデュースに至る表現研究を行っている。

**研究業績**  
作品  
テレビドラマ「ぬくもり」  
日本テレビ火曜サスペンス劇場  
劇場用映画「新しい風」  
松竹全国公開作品 ヒューストン国際映画祭  
グランプリ  
テレビドラマ「親子弁護士の探偵帖」  
TBS月曜ドラマスペシャル  
劇場用映画「ゴーヤちゃんぶるー」  
東京都写真美術館公開作品  
劇場用映画「ソ満国境15歳の夏」  
全国公開作品

**社会活動**  
日本映像学会員  
日本映画監督協会常務理事



## 宮崎正弘

専任

**生年月日**  
昭和30年04月13日生

**略歴**  
昭和53年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
以後フリーの企画・脚本・演出家、スーパーバイザーとして映画、ビデオ、イベント、博覧会、マルチメディア等の映像作品の制作に従事  
平成07年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成10年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成16年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
専攻分野:映像  
映画・ビデオ・TV・展示映像、そしてインターネットを含むデジタル映像などのメディア研究をおとして映像コンテンツの創造及び表現について研究を進めている。現在、デジタルによるアナログ的表現について考察している。

**研究業績**  
鈴木自動車 85'モーターショー 16面マルチ映像、コンセプトカーイメージ映像  
日産自動車 安全広報映像「豊かさ楽しさを支える安全思想」(経団連 映像コンクール入賞)  
電源開発株式会社創立40周年記念映画企画・脚本  
94'世界リゾート博覧会 和歌山市パビリオン3D映像「THYMOS」企画・脚本  
CD-ROM 徳永英明「Tony's Village」企画・脚本・演出

**社会活動**  
映像情報メディア学会



## 宮沢誠一

専任

**生年月日**  
昭和24年08月18日生

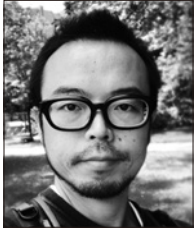
**略歴**  
昭和47年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
平成06年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成17年09月  
日本大学芸術学部次長  
平成29年04月  
日本大学芸術学部教授(再雇用)

**研究領域**  
映画監督・製作・編集を行なっているが、特に創作が中心である。創作領域は、劇場用映画・ドキュメント・PR・CM・TV・ミュージッククリップなど広範囲にわたり、デジタルシネマの製作にも取り組んでいる。

**研究業績**  
「夏の別れ」35mm劇場用映画 編集担当  
1981年上映  
「TECHNO ADVENTURE」16mmPR映画  
脚本・監督・編集担当  
1981年度産業映画コンクール奨励賞  
「絵の中のぼくの村」35mm劇場用映画  
ネガ編集担当  
1996年度ベルリン国際映画祭銀熊賞  
「田中純一郎〜人と仕事 映画にかけた生涯〜」16mm記録映画 監督・編集担当  
1999年度産業映画コンクール奨励賞  
「宇宙の夏」デジタルシネマ(30分) 劇場用  
製作・編集担当 2003年度WORLD FEST  
HOUSTON GOLD SPECIAL JURY  
AWARD(審査員特別賞)  
「飛べ!タコタ」2013年劇場用映画、DCP上映作品、118分、編集担当  
「ソ満国境15歳の夏」2015年劇場用映画、DCP上映作品、94分、編集・制作担当

**社会活動**  
日本映画・テレビ編集協会  
日本映画テレビ技術協会

Image Arts



清水和貴

専任

生年月日  
昭和54年05月08日生

**略歴**  
平成14年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
平成18年04月  
日本大学芸術学部副手  
平成19年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成23年04月  
日本大学芸術学部助教  
平成26年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成30年04月  
日本大学芸術学部准教授

**研究領域**  
創作を主とし映画制作における演出・編集を研究テーマとしている。

**研究業績**  
作品  
「米粒の神さま」  
短編映画(脚本・監督・編集)  
SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2009  
国内コンペティション短編部門ノミネート  
「いい日々を届けてくれる人がいる」  
ショートムービー(脚本・監督・編集)  
一般社団法人日本新聞協会 第22回新聞配達に関するエッセーコンテスト受賞作品の映像化  
「いつでも どこでも」  
ショートムービー(脚本・監督・編集)  
一般社団法人日本新聞協会 第23回新聞配達に関するエッセーコンテスト受賞作品の映像化  
「飛べ!ダコタ」  
劇場用映画(編集)  
2013年劇場公開  
「ソ満国境15歳の夏」  
劇場用映画(編集)  
2015年劇場公開

**社会活動**  
日本映画テレビ技術協会会員  
日本映像学会会員



落合賢一

専任

生年月日  
昭和24年08月04日生

**略歴**  
昭和47年03月  
日本大学芸術学部放送学科卒業  
昭和54年04月  
日本大学芸術学部助手  
昭和56年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
昭和63年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成07年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成29年04月  
日本大学芸術学部教授(再雇用)

**研究領域**  
テレビ映像技術全般が専攻分野であるが、その中で特にテレビ映像の記録及び保存技術を主な研究対象としている。VTRやHD、メモリーに代表されるテレビ映像の保存技術は長期保存に疑問がある。テレビ映像は文化遺産として極めて価値が高い。従って、その保存性は長期間、安定なものではないと考えている。さらに、4K、8Kなどの高画質化が、テレビ番組制作や、視聴者にどのような変革や影響をもたらしているかについても研究 중이다。

**研究業績**  
著書  
「新版ニューメディア用語辞典」(共著)  
「図解テレビ制作ハンドブック」(共訳)  
「科学技術用語辞典」(共著)  
論文  
「音声情報記録とその保存性についての一考察」日本大学芸術学部紀要

**社会活動**  
日本音響学会会員  
映像メディア情報学会会員  
日本映像学会



兼高聖雄

専任

生年月日  
昭和35年02月02日生

**略歴**  
昭和57年03月  
慶應義塾大学文学部心理学専攻卒業  
昭和59年03月  
慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程修了  
平成02年03月  
慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了(社会学博士取得)  
平成02年04月  
尚美学園短期大学専任講師  
平成05年04月  
尚美学園短期大学助教授  
平成12年04月  
尚美学園大学総合政策学部助教授  
平成16年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成19年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
現実の広告表現とその効果について、消費者の心理プロセスを軸にして考えている。できるだけ表現そのものについて、コミュニケーションの枠組みからとらえている。また、メディアによる表現全般や文化・社会現象について、実証的な社会心理学的手法で研究している。

**研究業績**  
「広告表現の制作プロセスの心理学的検討」放送と表現Vol.1  
「受け手の特性から見た広告メッセージのリーチについて」放送と表現Vol.2  
「広告コミュニケーションにおける受容者の自己過程について」広告科学Vol.27  
「若年層の広告接触と消費態度」平成国際大学論集3  
「活字表現の印象:書体・字体・サイズの効果」尚美学園短期大学研究紀要10

**社会活動**  
放送批評懇談会会員  
FMナックファイブ番組審議委員



鈴木康弘

専任

生年月日  
昭和33年09月06日生

**略歴**  
昭和57年03月  
日本大学芸術学部放送学科卒業  
昭和63年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成04年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成08年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成15年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
映像演出、映像作品制作及び作品研究。研究テーマとして扱っている作品分野は、ドキュメンタリーやテレビドラマである。ドキュメンタリーについては、テレビ・ドキュメンタリーの問題と可能性について探っている。また、映像人類学や映像文化の視点からのアプローチも試みている。テレビドラマについては、テレビの発展史を概観しながら社会との相関関係を考察している。

**研究業績**  
「テレビ・ドキュメンタリー論再考〜知のドキュメンタリーの構築に向けて〜」日本大学芸術学部紀要第37号  
「編集技法指南〜映像編集の基本的な考え方を学ぶ」12回シリーズ 写真工業出版社  
「日本のテレビ放送におけるドキュメンタリー番組の位置」日本大学芸術学部紀要第60号  
ドキュメンタリー作品  
「秘境の村のくらし〜パキスタン・シムシャル村〜」NHK教育テレビ  
「道と電気が変えた村の風景〜秘境の村は近代化をどう受け入れるか〜パキスタン・シムシャル村」、『カンテムス少年少女合唱団』、『入善四季物語』、『カンテムスファミリー〜その成功と秘密に迫る〜』ほか

**社会活動**  
ハンガリー音楽教育の取材活動およびそれに関するドキュメンタリー作品等ビデオ作品の制作(日本ハンガリー合唱交流委員会)  
日本映像学会会員





## 中町綾子

専任

生年月日  
昭和46年08月生

**略歴**  
平成06年03月  
日本大学芸術学部放送学科卒業  
平成08年03月  
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻博士前期課程修了  
平成08年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成12年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成16年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成19年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成21年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
テレビ番組の分析を行う。  
主として、テレビドラマの脚本領域、および映像（演技、演出、ストーリーを含む）を分析・読解する。テレビドラマは制作される時代の影響を強くうけるメディアである。時代的な制約、あるいは表現技法（技術）の制約を前提として、そこに表現されるメッセージを読み解く。

**研究業績**  
「なぜ取り調べにはカツ丼が出るのか？」（メディアファクトリー新書）  
「ニッポンのテレビドラマ21の名セリフ」（弘文堂）  
「テレビドラマに見る食の諸相」『放送と表現』Vol.1  
「あの軽やかさを再び～バブル期のテレビ番組～」『AURA』（フジテレビ調査部）  
「日本のテレビドラマにおけるメロドラマ概観」日本大学芸術学部紀要  
「あのドラマこのセリフ」日本経済新聞（連載）

**社会活動**  
日本マス・コミュニケーション学会  
放送批評懇談会  
WOWOW番組審議委員  
ファミリー劇場番組審議委員



## 野田慶人

専任

生年月日  
昭和25年05月12日生

**略歴**  
昭和50年03月  
日本大学芸術学部放送学科卒業  
昭和57年04月  
日本大学芸術学部助手  
昭和60年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成04年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成10年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成21年04月～平成26年03月31日  
日本大学総合学術情報センター長  
平成17年09月～平成29年09月  
日本大学理事・評議員  
日本大学芸術学部長・日本大学大学院芸術学研究科長  
平成29年09月  
日本大学芸術学部教授（再雇用）

**研究領域**  
テレビCMの発想法、表現法の研究。  
日本のテレビCMを中心に、今日までの変遷をふり返ると共に、諸外国のCMと比較して、多角的にその発想法、表現法を考察することにより、日本のテレビCM表現の課題と可能性を追究したい。

**研究業績**  
「20世紀放送史」（共著）  
日本放送協会  
「広告白書」（共著）  
日経広告研究所  
「テレビ史ハンドブック改訂増補版」（共著）  
自由国民社  
「メディアと情報のマトリクス」（共著）  
弘文堂  
「不可解な成熟期を迎えたテレビCM」（単著）  
日経広告研究所報175号

**社会活動**  
（社）衛星放送協会理事  
（株）スーパーネットワーク（Super! ドラマTV番組審議委員長）  
（株）囲碁将棋チャンネル放送番組審議委員  
エーアンドイーネットワークジャパン合同会社番組審議委員  
公益財団法人 板橋区文化・交流財団理事



## 星野 裕

専任

生年月日  
昭和36年04月24日生

**略歴**  
昭和60年03月  
日本大学芸術学部放送学科卒業  
昭和60年04月  
第一企画株式会社入社 CMプランナー、コピーライター、プロデューサー  
平成元年08月  
株式会社電通入社 CMプランナー  
その後クリエイティブディレクター、シニアクリエイティブディレクター  
平成17年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成25年04月  
株式会社電通クリエイティブX 執行役員  
平成27年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
広告ビジネスにおけるコミュニケーション全般。現場経験を活かした視点からの考察を得意とする。  
放送広告の表現と社会的役割の変遷に関する研究、広告表現のクリエイティブなアイデア発想の源泉についての研究などを行う。

**研究業績**  
カタログハウス「通販生活」  
再春館製薬所「ドモホルンリンクル」  
イトーヨーカドー「いってみヨーカドー！」  
ニベア花王「ニベアクリーム」など  
わかりやすく広告効果の高いテレビCM等広告作品を多数企画、制作。  
ACC賞、電通賞、読売広告大賞、カンヌ国際広告祭銀賞、IBA等国内外広告賞多数受賞。

**社会活動**  
日本広告学会  
日本映像学会  
放送批評懇談会CM部門選奨委員



## 森中慎也

専任

生年月日  
昭和35年08月05日生

**略歴**  
昭和60年03月  
日本大学芸術学部放送学科卒業  
昭和60年04月  
札幌テレビ放送株式会社入社  
アナウンサーとして主に情報番組、ニュースに従事。  
平成25年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
現代マスメディアにおけるテレビ報道分析および情報番組の音声表現法の考察による現代キャスター論。テレビ史。

**研究業績**  
日本テレビ系列共同制作「ズームイン！！朝！」「ズームイン！SUPER」「ズームイン！サタデー」、「第1回北方領土ビザなし渡航」取材・報道、「第4回世界陸上競技選手権シントゥットガルト大会」取材・報道  
「東日本大震災」NNN取材班にて報道  
「生放送～最高権力者との6分間～」放送と表現 Vol.18  
産学共同制作番組TOKYO FM「バス旅スト」メインパーソナリティー

**社会活動**  
日本映像学会会員  
文化庁芸術祭執行委員会委員

Image Arts



安部 裕

専任

生年月日

昭和42年05月09日生

略歴

平成03年03月  
日本大学芸術学部放送学科卒業  
平成03年04月  
株式会社共同テレビジョン入社  
取材技術部配属 カメラマン  
平成08年07月  
アトランタ五輪フジテレビ取材団カメラマン  
平成09年10月  
フジテレビ報道局取材撮影部に出向  
報道カメラマン  
平成10年04月  
共同テレビジョン映像取材部  
テレビカメラマンとしてドキュメンタリー、情報、バラエティー番組に従事  
平成26年04月  
日本大学芸術学部准教授

研究領域

テレビ番組をテーマにした映像技術・音響技術・照明技術の研究及び最新システムを利用した放送技術全般の研究

研究業績

『ザ・ノンフィクション』フジテレビ、撮影多数  
『めざましテレビ』『とくダネ!』フジテレビ、撮影多数  
『NONFIX〜松下浩二の卓球』フジテレビ、企画・演出・撮影  
「放送番組における、簡易スタジオシステムー考察」芸術学部紀要第61号  
「フジテレビの報道番組・情報番組から見る簡易IP中継技術」芸術学部紀要第66号  
大地の芸術祭「日芸フェスティバル」奴奈川放送局開設  
「東日本大震災取材備忘録～災害取材に挑むカメラマンの辛苦」映画テレビ技術誌  
「日本のテレビ放送はどこへ向かうのか」日本映像学会報

社会活動

日本映像学会理事  
文化庁芸術祭執行委員会委員  
日本映画テレビ技術協会会員



茅原良平

専任

生年月日

1980年02月27日生

略歴

平成14年03月  
日本大学芸術学部放送学科卒業  
平成14年04月  
日本大学芸術学部副手  
平成18年04月  
日本大学大学院芸術学研究所映像芸術専攻入学  
平成20年03月  
同上修了  
平成20年04月  
日本大学芸術学部助教  
平成24年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成29年04月  
日本大学芸術学部准教授

研究領域

ラジオ番組、ラジオドラマを中心に、音響演出、作品制作、作品研究を専門としている。また、ラジオの社会的機能の変遷、番組の功績を辿り、後世への教訓を見出す中で、ラジオの将来や可能性を考えるラジオ史の研究もしている。

研究業績

JFN38局「バス旅スト」演出  
「AM深夜放送の変遷にみる『笑い』の一考察」放送と表現 Vol.8  
「サウンド研究(1)、(2)、(3)」芸術学部紀要第49号、51号、54号  
「若者向けラジオ番組研究(1)、(2)」芸術学部紀要第64号、67号  
「ラジオ放送の現状と課題 手掛けなければならぬこと」GALAC2015年4月号

社会活動

放送批評懇談会会員(理事、ラジオ部門選奨委員)  
日本音響学会会員



金 龍郎

専任

生年月日

昭和35年07月09日生

略歴

昭和60年03月  
日本大学芸術学部放送学科卒業  
平成09年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成12年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成18年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成19年04月  
日本大学芸術学部准教授

研究領域

テレビ番組の企画構成および放送表現と人権の研究。各種番組作品の企画構成に着目し、表現手法・演出手法、制作のスタンス、番組枠としての特徴等を検証・考察している。また、「表の自由」「報道の自由」と人権との調整につて、主に差別表現や報道被害の事例研究を通して可能性を探っている。

研究業績

「興行としての格闘技イベントとそのテレビ中継に関する一考察」芸術学部紀要第40号  
「バラエティ番組における放送作家の役割とポジション」放送と表現 vol.8  
「報道の品性に関する一考察～報道不信の要因として」芸術学部紀要第43号  
「スタジオ・ドキュメンタリー番組の可能性に関する一考察」芸術学部紀要第49号  
「ドキュメンタリー番組におけるナレーションの演出的側面」芸術学部紀要第64号  
創作(ゲームソフト、番組企画構成等)  
「バス旅スト」TOKYO FM  
「アंकク2～ツタンカーメン王の謎」レイ・コーポレーション  
「新格闘技伝説」TBS  
「小椋佳 青春のかほり・ほのかに」NHK衛星第二  
「木内みどりの元気診断」日本テレビ 等多数

社会活動

日本映像学会会員



青木研次

非常勤

生年月日

昭和33年01月31日生

略歴

昭和55年03月 日本大学芸術学部映画学科卒業。昭和60年より放送作家として数多くのテレビ番組を手がける。  
平成10年より映画脚本を手がける。  
平成19年より日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

映画映像に於ける脚本という言葉による表現についての分析、研究。コンストラクションとテーマの関係についてのプロット論。ストーリーとドラマツルギーの関係についての研究分析。

研究実績

映画  
「独立少年合唱団」ベルリン国際映画祭アルフレート・パウアー賞受賞作  
「いつか読書する日」モンテリオール映画祭審査員特別賞受賞作 菊島隆三賞 ヨコハマ映画祭脚本賞 芸術選奨文部科学大臣新人賞  
「家路」新藤兼人賞受賞作  
「友だちと歩こう」テレビ  
「私立探偵濱マイク」(売売テレビ)  
「青い眼の少年兵」(NHK)  
「この街の命に」(WOWOW)日本民間放送連盟賞最優秀ドラマ など  
著作  
小説「独立少年合唱団」(角川書店)  
シナリオ本「いつか読書する日」(愛育社)

社会活動

協同組合日本シナリオ作家協会会員  
日本脚本家連盟会員





## 小泉定弘

非常勤

生年月日  
昭和16年09月26日生

**略歴**  
昭和42年03月  
日本大学芸術学部写真学科卒業  
昭和45年03月  
日本大学大学院芸術学研究所修士課程修了  
昭和49年01月  
日本大学芸術学部専任講師  
昭和56年11月  
日本大学芸術学部助教授  
昭和62年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成23年09月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
日常周辺を撮り続ける一方で写真の歴史と古今の作家について広範な研究を行っている。昭和50年には往時の文献を手掛かりに、日本では作ることが難しいと言われていたダゲレオタイプ(銀板写真)の再現に成功した。このように基本的な考察と制作を両輪に写真の基礎研究を重視している。  
約半世紀の自分の写真をまとめること自体が研究領域になりつつある。オリジナルプリントの制作をほぼ終え、目下その索引となる写真集を制作している。

**研究業績**  
「現代のダゲレオタイプ」(ニコンサロン)  
小泉定弘作品展「浦安1965-1972」(JCII フォトサロン)  
「Time & Space」(富士フォトサロン)  
『庭にて 東尾久8-14-3 vol. VI』(リトルギャラリーブックス3)  
『神田川』(リトルギャラリーブックス4)  
『1964-1972』(リトルギャラリーブックス6)  
『わがまち下町荒川』(リトルギャラリーブックス7)  
『Time & Space』(リトルギャラリーブックス8)

**社会活動**  
東京都荒川区顧問  
(公財)荒川区芸術文化振興財団芸術監督  
東京ケーブルネットワーク放送番組審議委員長  
都電荒川線写真コンテスト審査委員長  
ドラマチック フォトコンテスト審査委員長



## 上滝徹也

非常勤

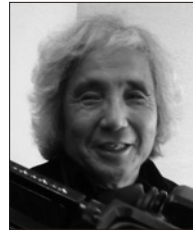
生年月日  
昭和17年09月13日生

**略歴**  
昭和41年03月  
日本大学芸術学部放送学科卒業  
昭和44年05月  
日本大学芸術学部助手  
昭和53年01月  
日本大学芸術学部専任講師  
昭和56年11月  
日本大学芸術学部助教授  
昭和63年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成24年09月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
〈テレビ文化史〉  
テレビドラマに記述される戦後思想史を、メッセージと方法論、作家の原風景、編成・制作システムの変容過程に解読する。現在の研究対象は、テレビドラマ史の解読と、テレビドラマ変革の検証。

**研究業績**  
『連ドラ考現学』『AURA』Vol99, 101  
『娯楽番組の思想』『メディアと情報のマトリクス』弘文堂  
『テレビ史ハンドブック』自由国民社  
『90年代テレビ作家論①～⑩』『GALAC』  
『マスコミとくらし百科③テレビ・ラジオ』日本図書センター  
『世界映画大辞典』日本図書センター  
『テレビ作家たちの50年』NHK出版  
『テレビドラマ史』『ドラマ』①～⑤  
『テレビドラマ変革の証言史』『民放』①～⑨  
『昭和ドラマ史』映人社

**社会活動**  
放送批評懇談会理事  
国際ドラマフェスティバル特別顧問  
放送番組収集諮問委員会委員  
日本脚本アーカイブス・コンソーシアム副代表理事



## 阪本善尚

非常勤

生年月日  
昭和17年02月14日生

**略歴**  
昭和39年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
以後フリーのカメラマンとして活動し、その後撮影監督として大林宣彦監督、原田真人監督などの劇映画、Vシネマ、TV映画作品等に携わる。

**研究領域**  
専門分野 映画撮影 映画映像技術  
撮影監督として劇映画の他、コマーシャルやテレビ映画を多数手がけ、1990年代に富士フィルムの講演を聴き、「ケミカルフィルムが10年程で終焉を迎えるのでは」と強く感じ、映画の映像表現を支えてきたフィルムが持つ色の豊かさ(画質)をデジタル技術で造れないか、とカメラメーカーと共に研究を積み重ねてきた。日本で最初のデジタルカメラ撮影の「突入せよ、あさま山荘事件」を仕上げる。今や世界的にデジタルカメラでの映画撮影が一般化し、フィルム画質への変換テーブルの研究により、ほぼフィルムと同等の映像画質での撮影が可能となった。更なる満足を目指し本校の最新鋭の機材環境で研究をしている。

**研究業績**  
劇映画・Vシネマ  
大林宣彦監督作品「時をかける少女」など  
原田真人監督作品「金蝕肉列島・呪縛」「突入せよ!あさま山荘事件」など  
佐藤純彌監督作品「男たちの大和/YAMATO 日本アカデミー賞優秀撮影賞、毎日映画コンクール撮影賞、第53回日本映画技術賞など受賞  
日本・香港・中国・韓国合作映画ジェイコブ・チャン監督作品「墨攻」  
香港映画ツイ・ハーク監督作品「Missing」  
瀧本智行監督作品「はやぶさ 遥かなる帰還」  
「グラスホッパー」  
TVコマーシャル  
「資生堂」など  
ACC賞、ADC賞、クリオ賞、Venise Lion D'Argent賞受賞



## 鈴木保彦

非常勤

生年月日  
昭和21年03月31日生

**略歴**  
昭和43年03月  
日本大学文理学部 史学科 卒業  
昭和45年03月  
日本大学大学院文学研究科修士課程修了  
昭和46年03月  
立教大学博物館学講座 聴講修了(学芸員資格取得)

昭和46年08月～昭和56年03月  
神奈川県教育庁社会教育部文化財保護課  
昭和52年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
昭和56年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
昭和62年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成06年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成18年03月  
博士(歴史学)(國學院大学)  
平成28年03月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
日本の先史文化のうち、縄文時代を主として研究している。最近では縄文時代の集落をテーマとし、縄文集落の変遷、縄文集落における祭祀と墓、縄文集落と配石墓、縄文集落における遺構群の構成と構造などについて総合的に研究をしている。また、考古学・歴史学等の研究成果をいかに社会的に還元するかという観点から博物館学も研究対象としている。

**研究業績**  
『縄文土器大観』第2巻(共著) 小学館  
『縄文集落の隆盛と双環状集落・鼎立状環状集落の出現』『長野県考古学会誌』118号  
『縄文時代集落の研究』雄山閣  
『集落の変遷と地域性』(共著) 雄山閣  
『歌舞伎舞踊衣裳の博物館資料化と情報公開』『博物館学雑誌』32巻2号

**社会活動**  
縄文時代文化研究会 代表  
日本考古学協会  
日本考古学会

Image Arts



瀬島久美子

非常勤

生年月日  
昭和25年06月26日生

略歴  
1973年03月  
東京音楽大学芸術学士取得卒業  
2006年～2007年  
名古屋学芸大学講師  
2008年～2014年  
名古屋学芸大学特任教授

研究領域  
現代美術としての音・映像・情報の研究。

研究業績  
1970年代:音・映像による Art & Designの  
企画制作多数。  
1980年代:Sound Designのためのオブジェ  
企画制作展示  
1988-1992年映像空間から建築、都市へと活動  
領域を拡げ、都市開発、商業地形成事業に参画  
1990年代:音・映像・情報のInstallation研究。  
「Installation Age」展、インсталレーション  
シリーズ「EIZO EXPLORER」展、「Video  
Art The First 25years」など。  
2000年代:日韓共催 FIFA ワールドカップ記念  
文化催事映像制作  
「愛・地球博」瀬戸日本館ギャラリーのキュレ  
ーション

社会活動  
1989:通産省デザイナー企画調整委員  
1993:東京都「東京フロンティアへの市民参  
加の有効実施に関する調査」研究委員  
1996～2000:農林水産省日本農村システム協  
会地域活性化情報映像検討委員会専門委員  
1999:地域創造アドバイザー会議アドバ  
イザー  
1986～ 日本映像学会会員



寺脇 研

非常勤

生年月日  
昭和27年07月13日生

略歴  
昭和50年03月  
東京大学法学部卒業  
昭和50年04月  
文部省入省  
平成11年04月  
文部省大臣官房政策課長  
平成13年01月  
文部科学省大臣官房審議官生涯学習政策担当  
平成14年08月  
文化庁文化部長  
平成16年04月  
日本大学芸術学部研究所教授(非常勤)  
平成26年  
日本大学芸術学部客員教授

研究領域  
映画をはじめとする文化行政を担当した立場  
から、日本の文化政策の全体像及びその中で  
映画を取り巻く行政的環境と今後の方向性。  
韓国との文化交流に携わる立場から韓国映画  
の状況、産業構造及び日本映画との関係。映画  
評論家として8千本を超す日本映画を観てき  
た立場から、観客の側から見た映画の在り方  
について。ジャパンフィルムコミッション前理  
事長の立場から、日本及びアジアのフィルム  
コミッションの状況。近年プロデューサーとし  
て映画製作に当たる立場から、現在の日本映  
画の制作、配給、興行の状況。

研究業績  
「映画を追いかけて」 弘文出版  
「映画を見つめて」 弘文出版  
「映画に恋して」 弘文出版  
「韓国映画ベスト100」 朝日新書  
「ロマンポルノの時代」 光文社新書

社会活動  
一般社団法人落語協会外部顧問  
NPO日本映画映像文化振興センター顧問  
公益社団法人「小さな親切」運動本部理事



仲倉重郎

非常勤

生年月日  
昭和16年08月21日生

略歴  
昭和40年03月  
東京大学文学部国史学科卒業  
昭和40年04月  
松竹株式会社大船撮影所の助監督となる  
昭和58年06月  
映画「きつね」で監督となる  
昭和62年09月  
フリーとなり、脚本家としての活動も始める  
平成06年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成28年04月  
日本大学芸術学部大学院非常勤講師

研究領域  
松竹大船撮影所で、野村芳太郎、加藤泰、斎藤  
耕一監督の助監督として映画を学んだ。  
コント55号のドタバタ、ハナ肇の為五郎もの、  
グループサウンズの青春もの等、さまざまな  
人たちの繰り広げる人間喜劇の世界である。  
喜劇映画とは何か？  
敬愛するビリー・ワイルダーが「お熱いのがお  
好き」と言っている。「完全な人間はいない」。

研究業績  
監督作品  
映画  
「きつね」(83・松竹)  
「マンガと赤い椅子」(14・ISF)  
テレビドラマ  
「天平の王道～真備と清麻呂」(86・OHK)  
「別れの予感」(87・KTV)  
脚本作品  
映画  
「江戸川乱歩の陰謀」(77・松竹)  
「ざ・鬼太鼓座」(91・松竹)  
テレビドラマ  
「銀行～男たちのサバイバル」(94・NHK)  
「官僚たちの夏」(96・NHK)  
FMドラマ  
「幽界彷徨・桂木孝介の冒険」(00・NHK)

社会活動  
日本映画監督協会会員  
日本脚本家連盟会員  
JASRAC会員



野末敏明

非常勤

生年月日  
昭和18年02月19日生

略歴  
昭和43年03月  
東京大学文学部比較文学・文化学科卒業  
昭和43年04月  
(株)電通入社  
平成08年11月  
(株)電通クリエイティブ局長  
平成11年06月  
(株)電通常務執行役員  
平成13年06月  
(株)電通常務取締役  
平成16年06月  
(株)電通顧問(株)電通総研副会長  
平成22年05月  
JAC理事長

研究領域  
広告クリエイティブに関する全領域。日本の  
みならず、世界に(カンヌ、クリオ、NY-ADC等の  
海外広告賞審査の経験を活かし)通用するクリエ  
ティブ・アイデアの開発、ならびにその実践を  
通しての啓蒙。

研究業績  
受賞  
カンヌ国際広告祭金賞4度受賞「小さなグ  
ランドピアノ」篇「シンバル」篇「留守番電話が  
来た日」篇「のっぽのムルワカさん」篇  
論文  
「ローカルからグローバルへ」(吉田秀雄記念事業  
財団広報研究誌「AO STUDIES」16巻)  
出版  
「コトバのイメージ学」(電通刊)  
「新CMプランナー入門」(監修 電通刊)  
「THE CM」(宣伝会議刊)  
「パロディ108句」(中央公論事業出版)

社会活動  
JAC(顧問)  
ニューヨークADC会員  
ADFEST(アジアパシフィックアウトバタイシングフェ  
スティバル)理事(2005～9会長)  
日本化粧品工業連合会審査員



## 橋本勝次

非常勤

生年月日  
昭和20年08月15日生

**略歴**  
昭和43年02月  
アオイスタジオ株式会社 入社  
録音技術部 勤務  
昭和43年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
昭和52年04月  
録音技師  
平成07年04月  
技術部次長  
平成08年04月  
映画学科非常勤講師  
平成09年03月  
アオイスタジオ退社  
平成14年  
日本映画テレビ録音協会事務局長  
平成14年  
PAS（プロフェッショナルオーディオソサエ  
ティ）事務局長  
平成16年  
録音協会退会  
平成28年  
PAS事務局長退任

**研究領域**  
録音技術者として数々の作品を担当、映画に  
おける表現方法等の検証をする。

**研究業績**  
各プロダクションの作品の録音を担当、産業  
映画祭、CM作品等の賞にも、貢献した。



## 花柳貴答 (鈴木 昭) 非常勤

生年月日  
昭和25年12月13日生

**略歴**  
昭和45年06月  
国立劇場歌舞伎俳優養成所入所 第一期生  
昭和47年04月  
同所卒業 歌舞伎俳優となる  
昭和48年02月  
花柳流名取試験合格 花柳貴答を名乗る  
昭和48年05月  
八世坂東三津五郎師に入門  
昭和50年02月  
八世逝去の為、九世坂東三津五郎師に入門  
昭和53年02月  
歌舞伎俳優から日本舞踊家に転業  
昭和58年02月  
花柳流師範合格  
平成23年11月  
久留米市功労者の称号を贈られる

**研究領域**  
日本の伝統的な演劇・舞踊の表現様式。能・狂  
言、民族芸能、歌舞伎、文楽=人形浄瑠璃、新派、  
新国劇、日本舞踊、また、講談、落語、浪曲、近年  
では映画、西洋の演劇・舞踊などとの関係性。  
ことに歌舞伎はその演出法や演技の所作・台  
詞廻しなどが上記の他のジャンルとの関係が  
深く、大きく影響を与えられ、また与えている。  
その表現方法の関係性の体得の仕方と伝達の  
仕方、刻々と変わる時代と共に探っていく。

**研究業績**  
H4 日中国交回復20周年記念北京公演出演  
H5 文化庁派遣歌舞伎レクチャー欧州巡業  
公演出演  
H14 会津田島屋台歌舞伎 演出振付  
H14 京わらべ唄ミュージカル「優女」振付  
H20 NHKBS「写楽」演出、振付  
H20 真贋絵金現世話 演出、振付  
H21 本物の舞台芸術体験授業「二人袴」脚本  
補綴、演出、振付、出演  
H27 東大レクチャー 神田祭の舞踊「三番叟  
常磐色揚」振付  
その他、各地の舞踊界出演多数、各地の地芸居  
の脚本、演出、振付多数。

**社会活動**  
日本舞踊協会会員  
全日本郷土芸能協会会員



## 原 直久

非常勤

生年月日  
昭和21年08月16日生

**略歴**  
昭和44年03月  
日本大学芸術学部写真学科卒業  
昭和47年06月  
日本大学芸術学部助手  
昭和55年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
昭和61年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成06年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成28年08月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
写真表現及び写真表現研究  
写真表現の原点であるオリジナルプリントの  
価値と芸術性を追求し、ハイクオリティーな  
作品作りのため、特に大型カメラでの制作を  
中心に行い、ファインプリントによるパライタ  
紙やブラチナプリントでのイメージ表現の可  
能性を探究している。写真表現研究はE.アッ  
ジェをはじめ20世紀前半のバリを中心に活  
躍した写真家の研究。

**研究業績**  
個展  
「ヴェネツィア」虎の門・P. G. I 他多数  
学術論文  
「アッジェの撮影機材（レンズ）に関する研究」  
日本写真芸術学会誌第5巻第1号  
「アッジェの仕事とその方法についての考察」  
日本写真芸術学会誌第9巻第1号  
「アッジェ研究Ⅲ」  
日本写真芸術学会誌第9巻第1号  
出版  
「時の遺産=ヨーロッパとの出会い」  
光村印刷(株)発行

**社会活動**  
日本写真芸術学会理事  
日本写真学会会員  
日本映像学会会員  
日本写真協会顧問



## 広沢文則

非常勤

生年月日  
昭和15年08月29日生

**略歴**  
昭和38年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
昭和38年04月  
日本大学芸術学部非常勤助手  
昭和51年08月  
日本大学芸術学部専任講師  
昭和58年05月  
日本大学芸術学部助教授  
平成02年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成22年08月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
映画制作における諸技術、撮影、照明、現像等  
の歴史、発達史を研究テーマにしている。こ  
のこをふまえて、映像表現の新たな可能性  
もあわせ研究テーマとしている。また、フィル  
ムレスの映画・デジタルシネマが登場したが、  
フィルムの持っている表現領域を現像技術者  
として映像表現へアプローチしている。

**研究業績**  
「カラー映画フィルム技術史(1~8)」日本大学  
芸術学部紀要  
「カメラマンから見た映画技術史(1~4)」日本  
大学芸術学部紀要  
「個人別領域別・談話収録による映画史大系」  
ビデオ・16mmフィルム PR・記録映画撮影  
「映画制作のすべて」(共著)写真工業

**社会活動**  
日本映画テレビ技術協会会員

Image Arts



松田義弘

非常勤

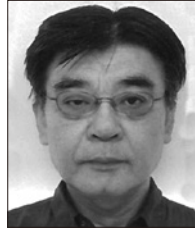
生年月日  
昭和21年04月03日生

**略歴**  
昭和44年03月  
日本大学芸術学部写真学科卒業  
昭和47年06月  
日本大学芸術学部助手  
昭和55年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
昭和57年04月  
千葉大学工学部客員助教授  
昭和61年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成06年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成28年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
黑白写真の調子再現を中心に、感光材料の特性についての評価・研究を行うとともに、「私的時空間の表現」をテーマに心象風景の制作を行っている。  
最近では、デジタル写真の研究を中心に、心象風景のイメージを視覚化するために、コンピュータによる画像処理を行った制作に取り組んでいる。

**研究業績**  
「写真－写真の技術・カメラとレンズ」(共著)ブリタニカ国際大百科事典8巻 TBSブリタニカ「黒白フィルムの世界」(共著)新アサヒカメラ講座4「撮影機材と暗室現像編」朝日新聞社「ファインプリントのための露出と現像」(共著)ファインプリントテクニック 写真工業出版社「ファインプリント制作の立場から見た黒白感光材料」日本写真芸術学会誌 第1巻第2号「日常の光景－Half Dome (CA)」日本写真芸術学会誌第11巻第2号(創作篇)

**社会活動**  
日本写真学会評議員  
日本写真芸術学会理事  
日本広告写真家協会学術会員  
中央技能検定委員(写真職種)



村山匡一郎

非常勤

生年月日  
昭和22年11月27日生

**略歴**  
昭和46年03月  
早稲田大学第一政治経済学部経済学科卒業  
昭和48年10月  
早稲田大学大学院文学研究科芸術学専攻修士課程(演劇)修了  
昭和55年04月  
フリーの映画評論家、研究者として本格的に活動を始める  
平成12年04月  
武蔵野美術大学造形学部映像学科非常勤講師  
平成15年04月  
多摩美術大学美術学部芸術学科非常勤講師  
平成19年04月  
多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科客員教授  
平成21年04月  
東北芸術工科大学デザイン工学部情報デザイン学科非常勤講師  
平成25年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成29年11月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
劇映画・ドキュメンタリー・アニメーション・実験映像などの分野を問わず、映画史・映画理論・映画批評を横断しながら映画のあり方を研究。近年は映画と時代の関係に焦点を当てドキュメンタリー映画やアヴァンギャルド映画に関心を寄せている。

**研究業績**  
「世界映画全史」(12巻、共訳)国書刊行会  
「映画100年STORYまるかじり」朝日新聞社「映画史を学ぶクリティカル・ワーズ」(編著)フィルムアート社  
「映画における意味作用に関する試論」(共訳)水声社  
「日本映画叢書③映画は世界を記録する」(編著)森話社

**社会活動**  
日本映像学会会員  
NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭理事  
一般社団法人コミュニティシネマセンター顧問



山田顕喜

非常勤

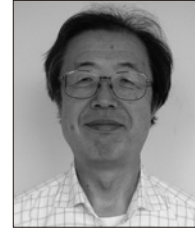
生年月日  
昭和16年08月10日生

**略歴**  
昭和39年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
昭和39年04月  
NHK 入局・カメラマン  
昭和63年07月  
NHK 照明副部長  
平成03年06月  
NHK 撮影副部長  
平成08年06月  
NHK 撮影部長  
平成11年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成23年09月  
定年退職  
平成23年10月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
映画、ドラマ及びドキュメンタリーの撮影全般にわたる、歴史の変遷と表現技術の発展をさぐり、映像技術の現状を通してメディアとしての映像文化を考察。

**研究業績**  
主な撮影担当作品  
NHK総合テレビ「あすへの記録－鹿渡」科学放送賞受賞  
NHK総合テレビ「NHK特集・日本の条件－教育」日本ジャーナリスト会議賞・テレビ大賞受賞  
NHK教育テレビ「日曜美術館・いくさ世の画譜」地方の時代賞特別賞受賞  
NHK総合テレビ「NHKスペシャル・野村万作<狐>に挑む」日本映画照明協会優秀賞受賞  
NHK総合テレビ「NHKスペシャル・戦後50年その時日本は」橋田寿賀子賞・放送批評懇談会特別賞受賞  
「映画製作のすべて」(共著)写真工業出版  
「テレビ番組制作技術の基礎」(共著)映画テレビ技術協会

**社会活動**  
日本映画テレビ技術協会会員  
社会福祉法人・那須若葉会理事  
ディズニーチャンネル番組審議委員長  
すかがわ国際短編映画祭実行委員  
文化庁記録映画賞選考委員



横田正夫

非常勤

生年月日  
昭和29年01月28日生

**略歴**  
昭和51年03月  
日本大学芸術学部映画学科卒業  
昭和54年03月  
日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士前期課程修了  
昭和57年03月  
日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程満期退学  
昭和57年04月  
群馬大学医学部精神神経医学教室教務員  
平成04年03月  
日本大学文理学部専任講師  
平成06年03月  
日本大学文理学部助教授  
平成12年03月  
日本大学文理学部教授

**研究領域**  
アニメーションの心理学的研究を行っている。たとえば、キャラクターの好み、悪玉の印象評価の検討や作り手と創造性、ライフ・サイクルの関係などに。

**研究業績**  
「大ヒットアニメで語る心理学：『感情の谷』から解き明かす日本アニメの特質」(単著、新曜社、2017)  
「メディアから読み解く臨床心理学 漫画・アニメを愛し、健康なこころを育む」(単著、サイエンス社、2016)  
Japanese Animation: East Asian Perspective. (共編著、University Press of Mississippi, 2013)  
「アニメーションの事典」(共編著、朝倉書店、2012)  
「日韓アニメーションの心理分析」(単著、臨川書店、2009)  
「アニメーションとライフサイクルの心理学」(単著、臨川書店、2008)

**社会活動**  
一般社団法人日本心理学諸学会連合理事長  
日本アニメーション学会理事



Fine Art and Design



大熊敏之

専任

生年月日

昭和34年01月01日生

略歴

昭和57年03月  
早稲田大学美術史学専攻卒業  
昭和58年04月  
北海道立近代美術館学芸員  
平成04年04月  
北海道立近代美術館主任学芸員  
平成05年04月  
宮内庁三の丸尚蔵館研究員  
平成10年01月  
宮内庁三の丸尚蔵館主任研究官  
平成17年10月  
富山大学芸術文化学部准教授  
平成23年04月  
富山大学大学院芸術文化学研究所准教授  
平成26年01月  
富山大学大学院芸術文化学研究所教授  
平成31年04月  
日本大学芸術学部教授

研究領域

日欧近世近代美術交流史と伝統的造形技法史を主な研究分野とする。江戸後期以降の日本美術を対象とした歴史研究にみられる記述手法の問題点を多角的に検証する一方、置物やレリーフ画、額縁等のこれまで日本美術史では論じられることの少なかった複数の造形分野の境界線上に存立する造型物や書、生花、盆栽、人形、模型、手芸など美術史記述の枠外に排除されてきた多様な視覚・造型領域を史的に位置づけ直す試みを研究課題としている。

研究業績

「美術のゆくえ、美術史の現在－日本・近代・美術」(共著) 平凡社  
「感覚と構成のはざまで－1930年代の日本画のモダニズム」(日本美術院百年史第6巻)  
日本美術院  
「工芸と美術史学：絵画性と彫刻性の相克－近代日本における浮彫表現の位相をめぐって」(日本における美術史学の成立と展開) 東京国立文化財研究所  
第4回 倫雅美術奨励賞・美術史研究評論部門受賞

社会活動

富山県立近代美術館収蔵作品評価委員ほか



大槻孝之

専任

生年月日

昭和32年01月03日生

略歴

昭和54年03月  
日本大学芸術学部美術学科卒業  
平成03年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成07年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成11年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成17年04月  
日本大学芸術学部教授

研究領域

主に鉄を素材として彫刻の制作発表を行っている。現在、彫刻と場との関係性について興味をもっている。無機的なホワイトキューブの美術の展示のために用意された空間や公園などの認知された公共の場ではなくて、日々移り変わる自然の中であるとか、歴史や文化を紡いできた日常の空間に直接に関わり、彫刻を通して特定の場を意識化していくことに彫刻の新たな可能性を探っている。

研究業績

「満ち潮を待つーⅡ」個展 メタルアートミュージアム光の谷  
「水の風景」第22回現代日本彫刻展—07  
宇部市野外彫刻美術館  
「満潮を待つ」個展 ギャラリーGAN  
「風をのせて」NEW HEAVY展 神戸市CAP HOUSE  
「迷宮の小径」雨引の里と彫刻展 茨城県大和村

社会活動

鉄の造形ワークショップ(神戸市CAP HOUSE)  
N+N展ワークショップ(練馬区立美術館)  
日本美術家連盟会員



大庭英治

専任

生年月日

昭和25年05月30日生

略歴

昭和49年03月  
東京芸術大学美術学部絵画科卒業  
昭和51年03月  
東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了  
昭和52年06月  
フランス政府給費留学  
(国立マルセイユ高等美術学校)  
平成16年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成17年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成19年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成22年04月  
日本大学芸術学部教授

研究領域

専攻分野: 絵画  
多種多様にわたる現代絵画の表現の中で、古い時代から用いられてきた油彩絵の具を材料として、その古典的な技法をベースに、自らの「造形意識」の表現を試みている。  
具体的な形に拘らず、色彩の響きあい、コンポジション、マチエールなどを探究し、抽象的絵画の中に人の気配のする生活空間を描きたいと、その試行を続けている。

研究業績

個展「ヌーヴェル・ギャラリー」(フランス、1979年)  
個展「ムゼウムドルフ」(ドイツ、1988年)  
個展「東急Bunkamuraギャラリー」(1994年)  
個展「高島屋美術画廊」(1996、1999、2001、2005、2008、2011、2015、2018年)  
その他、個展、グループ展、立軌展等で発表

社会活動

日本美術家連盟会員  
立軌会同人  
日本ガラス絵協会会員  
ABC(文化系フランス政府給費留学生)の会幹事



鞍掛純一

専任

生年月日

昭和42年09月24日生

略歴

平成元年03月  
日本大学芸術学部美術学科卒業  
平成03年04月  
跡見学園短期大学生生活造形科実習助手  
平成04年04月  
日本大学芸術学部学科補助員  
平成06年04月  
日本大学芸術学部非常勤助手  
平成07年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成09年04月  
武蔵野美術大学特別講師  
平成13年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成16年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成19年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成24年04月  
日本大学芸術学部教授

研究領域

鉄を主な表現素材とし、自然から受け取るものを作品に置き換えることを日常制作の元に行っている。近年は個人の制作活動のみならず、ワークショップをはじめ、多くの人数で一つのものを作り上げる制作方法も同時に行っており、過疎化地域におけるアート制作による地域活性化を目標としている。

研究業績

柳瀬荘アート・教育プロジェクト  
大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ／脱皮する家2006／コロケハウス2009／やまのうえした2012／大地のおくりもの2015  
大地のおくりもの2018／はなするべ  
瀬戸内国際芸術祭2013夏

社会活動

KEENアンバサダー  
星峠の棚田を守る会



Fine Art and Design



菅井祐子 (奥村祐子)

専任

生年月日

昭和41年12月19日生

略歴

平成02年03月  
日本大学芸術学部美術学科卒業  
平成07年04月  
日本大学芸術学部副手  
平成12年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成16年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成19年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成27年04月  
日本大学芸術学部教授

研究領域

平面による版画・絵画表現を専門としている。絵画表現では、線によるドローイングを中心に植物や人物といった生命力をかたちに表現している。版画表現では、版を使って「写す」ことをテーマに凹版、凸版、平版といった様々な版種を使い表現している。特に版画と活字を組み合わせた表現の研究を試みている。

研究業績

「現代日本の美術の動勢 版/写すこと/の試み」  
富山県立近代美術館  
「現代版画の潮流展」町田市立国際版画美術館・松本市美術館  
「ドローイングをめぐる」茨城県つくば美術館  
「一期一会」メキシコ自治大学チョッポ美術館  
「第28回損保ジャパン美術財団選抜奨励展」  
損保ジャパン東郷青児美術館  
「第77回日本版画協会展 招待作家」東京都美術館

社会活動

版画学会



瀬島 匠

専任

生年月日

昭和37年08月05日生

略歴

平成元年03月  
武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業  
平成元年04月  
武蔵野美術大学短期大学部美術科助手  
平成08年04月  
武蔵野美術大学短期大学部通信美術科コース非常勤講師  
平成14年04月  
武蔵野美術大学造形学部通信教育課程油絵学科絵画コース非常勤講師  
平成22年04月  
横浜美術大学絵画コース非常勤講師  
平成23年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成24年04月  
東北芸術工科大学芸術学部洋画非常勤講師  
平成25年04月  
東北芸術工科大学芸術学部洋画コース准教授

研究領域

多様化する表現素材の研究  
科学の進歩にともない、絵具となる素材も幅広く開発され、様々な表現方法が生まれてきた。伝統的な素材と新素材を組み合わせる中で、新たな可能性を持った独創的な絵画空間を追求していく。

研究業績

瀬島匠個展 落石岬 無線局跡 根室市  
北海道「90」  
「表現としての場」6人展 広島現代美術館「93」  
瀬島匠個展 シテ・インターナショナル・デザイン・パリ フランス「95」  
62回独立展 安田火災美術財団奨励賞「95」  
瀬島匠個展 ピカソ洗濯船 バトラーポアール・モンマルトル パリ フランス「2000」  
71回独立展独立賞受賞 東京都美術館「03」  
損保ジャパン大賞展 東郷青児美術館「11」  
29回上野の森美術館大賞展 大賞受賞「11」  
都美セレクション新鋭美術作家作品展「15」  
第五回 蔵と現代美術展 「響き合う空間」招待作家 川崎市「07」

社会活動

フランス美術家協会会員「99～01」  
独立美術協会会員「04～」



福島唯史

専任

生年月日

昭和42年03月28日生

略歴

平成01年03月  
日本大学芸術学部美術学科卒業  
平成04年04月  
日本大学芸術学部実習助手  
平成07年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成08年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成12年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成16年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成19年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成27年04月  
日本大学芸術学部教授

研究領域

油彩画による絵画制作。  
特に基底材及び溶材の研究が、油彩画の技法やマテリアルに与える影響を試みている。油彩画の生命線とも言える堅牢な絵具のつぎ、それに伴う絵具の美しさを大切に思いながら、特に色面、空間感、コンポジションに重きを置いて制作している。

研究業績

昭和会展招待出品(日動画廊)「92～94」  
第29回昭和会展日動美術財団賞受賞「94」  
福島唯史展(日動画廊 東京/名古屋)「97」  
前田寛治大賞展(日本橋高島屋)「98 '01 '04」  
和の会招待出品(銀座和光)「99～01」  
立軸展招待出品「99 '00」  
立軸会同人となる「01～」  
日本現代洋画の精鋭(笠間日動美術館)「01」  
福島唯史展(日動画廊)「07」  
昭和会受賞作家選抜展(笠間日動美術館)「11」  
福島唯史展「PARIS-MAROC」(日動画廊)「11」  
N+N展 油絵の魅力(練馬区立美術館)「14」  
福島唯史展「GRIS CHIC」(日動画廊)「16」  
その他、個展、グループ展

社会活動

立軸会運営委員  
前田寛治大賞展推薦委員(倉吉博物館主催)  
未来展実行委員、審査委員(日動画廊主催)



笠井則幸

専任

生年月日

昭和47年03月24日生

略歴

平成07年03月  
日本大学芸術学部美術学科卒業  
平成07年04月  
株式会社 アド・ギルド入社  
平成08年10月  
株式会社 日本デザインセンター入社  
平成19年04月  
和光大学表現学部専任講師  
平成23年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成25年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成30年04月  
日本大学芸術学部教授

研究領域

専攻: グラフィックデザイン  
近年、グラフィックデザインは平面のみならず、あらゆるメディアを媒介としたコミュニケーションデザインとして必要性を増している。特にタイポグラフィはメディアにより視認性が大きく変化するので、美しいデザインと時代性に沿った情報伝達の在り方を考え、実践しなければならぬ。

研究業績

文化庁メディア芸術祭推薦作品推挙  
東京モーターショー トヨタブースカタログ、  
サインデザイン SDA賞 準優秀賞  
ミッドランドスクエア名古屋 ワールドマップ  
デザイン(トヨタ自動車) SDA賞 最優秀賞  
Graphis Poster Annual 2012 Platinum  
award (最高賞) 受賞(NY)  
第64回全国カレンダー展 日本商工会議所会  
頭賞/第3部門金賞受賞  
日本タイポグラフィ年鑑2017 研究実験部門  
ベストワーク受賞

社会活動

日本グラフィックデザイナー協会会員  
日本タイポグラフィ協会会員  
日本デザイン学会会員  
ANBD JAPAN 常任理事  
China International Design Educator  
Association 会員  
Asia Designer Communication Platform 会員



## 木村政司

専任

生年月日  
昭和30年11月29日生

**略歴**  
昭和54年03月  
日本大学芸術学部美術学科卒業  
昭和59年06月  
米国ワシントン州立大学大学院修士課程修了  
MFA取得  
昭和60年12月  
米国スミソニアン協会国立人類歴史博物館インターン修了  
昭和63年10月  
(株)アーリーバード設立(代表取締役 現在非常勤)  
平成05年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成10年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成16年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成29年09月  
日本大学理事・評議員  
日本大学芸術学部長・日本大学大学院芸術学  
研究科長  
平成30年04月  
金沢工業大学コンテンツ&テクノロジー融合  
研究所客員教授  
令和元年09月  
日本大学副学長

**研究領域**  
科学の知をわかりやすく表現するためのサイ  
エンスコミュニケーションデザインを専門と  
する。特にミュージアムデザインにおけるサイ  
エンスとデザインの融合を目指す。

**研究業績**  
○角川武蔵野ミュージアムプロジェクト「妖怪  
伏魔殿」企画展「驚異の部屋」常設展の総合  
アートディレクション

**社会活動**  
○JSTサイエンスウインドウ委員会委員  
○一般財団法人ワンアジア財団顧問  
○日本サイエンスコミュニケーション協会会員  
○日本グラフィックデザイナー協会会員  
○文部科学省科学技術・学術政策研究所客員  
研究官  
○所沢市文化振興事業団評議員



## 熊谷廣己

専任

生年月日  
昭和30年10月08日生

**略歴**  
昭和54年03月  
日本大学生産工学部建築学科卒業  
昭和56年03月  
日本大学大学院生産工学研究科修士課程修了  
昭和57年04月  
内井昭蔵建築設計事務所勤務  
平成02年04月  
前川建築設計事務所勤務  
平成12年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成18年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
専攻分野:建築設計  
建築デザインにおける設計過程に着目した方  
法論を主な研究領域とする。創造的なデザイ  
ンプロセスのプログラムや開発を実践活動を通  
じながら取り組んでいる。

**研究業績**  
作品  
CURIOSITY  
小丘舎  
渡辺整形外科医院  
論文  
「混構造建築物における構造デザイン」日本大  
学芸術学部紀要42号  
「生活拠点施設としてのサービスステーション  
に関する研究」委託研究

**社会活動**  
日本建築学会  
東京建築士会  
日本デザイン学会  
建築家・前川國男生誕100年記念展覧会発起人



## 桑原淳司

専任

生年月日  
昭和27年12月07日生

**略歴**  
昭和50年03月  
日本大学芸術学部美術学科卒業  
昭和50年04月  
(株)環境デザイン研究所勤務  
昭和59年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成10年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成16年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成30年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
日本の子ども達のあそび環境はあまりにも  
著しく変化し豊かさを失っている。時代に相  
応した新しいあそび環境を構築するため、遊  
具の開発と遊び環境を主な研究領域としてい  
る。常に等身大のスケール感を意識した社会  
的な提案を行いながら、遊具・家具・建築・造  
園・環境といったあらゆる分野を串刺しにす  
るデザインのあり方を追求し、実験的な試作  
や実践的な開発研究の展開を試みている。

**研究業績**  
練馬区立美術の森緑地 動物感覚をときすま  
す道 2015年4月  
ワークショップ+講演  
メモリーKISD(ドイツ・ケルン) 2014年5月  
ワークショップ+展示  
大きな迷路の遊具ジャイアントメイズをみん  
なで作って遊ぼう  
練馬区立美術館 N+N展 2012年7月  
個展  
A BOY IN MY MIND 私の原風景展  
江古田校舎 A&Dギャラリー 2011年6月  
論文  
大型複合遊具の安全性と安全委員会の役割  
大規模屋根付複合遊具における子どもと親の  
行動特性  
幼児施設の園庭遊具における事故とその安全  
性について  
**社会活動**  
こども環境学会会員  
日本建築学会会員  
日本造園学会会員



## 肥田不二夫

専任

生年月日  
昭和28年10月16日生

**略歴**  
昭和52年03月  
日本大学芸術学部美術学科卒業  
昭和52年04月  
赤井電機株式会社勤務  
平成05年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
早稲田大学理工学部非常勤講師  
平成10年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成16年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
専攻分野:インダストリアルデザイン  
医療機器、福祉機器等これからの高齢社会に  
おける道具、機器をはじめとし、生活に関わる  
様々なものをユニバーサルデザインの視点から  
調査分析を行ない、新たな製品開発及びその  
デザイン手法、方法論を研究。また併せて、  
企業からの委託研究、産学共同研究等、実践的  
の研究を行っている。

**研究業績**  
「産学コラボレーションに於けるデザイン教育  
効果」第58回日本デザイン学会研究発表大会  
「ハンドドライヤーから考える衛生環境」第61  
回日本デザイン学会研究発表大会  
「医学とデザイン学の融合による次世代型呼  
吸器診断ツールの開発」日本大学学術研究助  
成金総合研究(2015.4~2017.3)  
産学連携デザインプロジェクト 16「車載オー  
ディオ&エアコン操作システムのデザイン開  
発」(株)ナガシマ化学工業所(2017.3)  
「呼吸器プロダクトの新たな可能性について(2)」  
日本大学芸術学部紀要第69号(2019.3)  
「UD視点による呼吸器プロダクトの可能性  
について-5」第66回日本デザイン学会発表  
大会(2019.6.30)

**社会活動**  
日本デザイン学会会員  
人間工学会アーゴデザイン部会会員  
(財)共用品推進機構メンバー  
香りマーケティング協会理事

Fine Art and Design



佐藤 徹

専任

生年月日  
昭和43年11月29日生

**略歴**  
平成03年03月  
日本大学芸術学部美術学科卒業  
平成03年04月  
三菱電気デザイン研究所勤務  
平成11年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成15年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成20年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成27年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
持続可能なライフスタイルの実現に向けて、工業製品による環境負荷やエコロジー素材、再利用法などをエコデザインの観点から研究。JIDA環境委員会にて学生指導や主催展示も行っている。また工業デザインの現場におけるコンピュータの活用状況を調査し、3Dデータによる模型製作などを実践、検証している。

**研究業績**  
「美しい椅子がわかる本」(共著)成美堂出版社  
「エコデザイン」(共著)日本デザイン学会誌特集号  
「conof.シリーズ」シュレッダー、電話機、デスクライトのシリーズ  
「Slow coffee styleシリーズ」ドリッパー、カラフェ、マグ等のシリーズデザイン  
「libroシリーズ」ソファベンチ、ソファテーブル等のシリーズデザイン

**社会活動**  
日本デザイン学会会員  
日本インダストリアルデザイナー協会 環境委員会副委員長



長瀬浩明

専任

生年月日  
昭和38年08月17日生

**略歴**  
平成元年03月  
日本大学芸術学部美術学科卒業  
平成元年04月  
日本大学芸術学部美術学科補助員  
平成04年04月  
東京都立工業技術センター研究員  
平成07年04月  
長野県情報技術試験場研究員  
平成17年04月  
長野県工業技術総合センター研究員  
平成22年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成30年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
感性工学や人間工学に基づくユーザー志向のものづくり(プロダクトデザイン、UXデザイン)を専門としている。筋電計やモーションキャプチャ等の生体計測技術を応用した製品や試作品等の定量的検証を通じ、福祉機器や生活支援用具等の研究開発を実践している。また企業や地域と連携して製品開発やブランド構築の支援やプロデュースを手掛けている。

**研究業績**  
「姿勢調節障害のリハビリテーション装置の開発—実証試験方法の確立のための予備的検討—」人間生活工学. Vol.9, No.1 (2008)  
「Lateral Inclination of the Trunk and Falling Frequency in Parkinson's Disease Patients」Electromyography and Clinical Neurophysiology. 50 (2010)  
「Postural Control While Sitting and Its Association with Risk of Falls in Patients with Parkinson's Disease」INTECH. (2011)  
「動作解析とインタビューによる起立補助椅子の有効性評価」日本感性工学会論文誌. Vol.11, No.1 (2012)  
「欧州における福祉機器の市場動向 — REHACARE INTERNATIONALの調査から—」日本大学芸術学部紀要第66号 (2017)

**社会活動**  
日本感性工学会会員  
日本人間工学会会員



森 香織

専任

生年月日  
昭和36年01月27日生

**略歴**  
昭和62年03月  
筑波大学大学院芸術研究科修士課程修了  
昭和63年03月  
筑波大学大学院芸術研究科博士課程研究生修了  
昭和63年04月  
東京純心女子短期大学美術科助手  
平成01年04月  
東京純心女子短期大学美術科専任講師  
平成06年04月  
東京純心女子短期大学美術科助教授  
平成08年04月  
東京純心女子短期大学現代文化学部助教授  
平成15年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成19年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成21年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
専攻分野:基礎デザイン・視覚伝達デザイン  
デザイン:造形の基盤となる形態や色彩の研究を通して美的秩序や構成を、歴史的・地域的・文化的などの多方面から探求する。特に日本の伝統的造形を対象にその「かたち」の結実された背景や造形思考を探るとともに、西欧の造形理論と比較対比しながら、新しい視点からの日本の造形論の組み立てがテーマである。

**研究業績**  
○「グラフィックデザイン全史」(共訳) 淡交社  
○「日本のかたちⅠ—構成要因と分類—」東京純心女子短期大学紀要3  
○「日本のかたちⅡ—連続と間—」東京純心女子短期大学紀要4  
○エディトリアルデザイン:雑誌「アイデア」  
「MJ無線と実験」(誠文堂新光社)、雑誌「Agora」(日本航空)  
○「造形基礎と基礎デザイン—デザイン分野における基礎教育の目的と可能性」日本大学芸術学部紀要48号

**社会活動**  
○日本デザイン学会代議員(教育部会幹事)  
○基礎デザイン学会理事(運営委員)  
○基礎造形学会会員



山本守和

専任

生年月日  
昭和46年08月18日生

**略歴**  
平成06年03月  
日本大学理工学部海洋建築工学科卒業  
平成08年03月  
日本大学大学院理工学研究科修士課程修了  
平成08年04月  
大日本コンサルタント株式会社勤務  
平成14年03月  
日本大学大学院理工学研究科博士課程修了  
平成15年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成19年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成28年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
津波発生時における避難行動に関する研究を行っている。災害時の状況、避難手法に関して、統計データや地理データなどを、地理情報システム(GIS)及びコンピュータシミュレーションを用いて、分析している。また、コンピュータに関連する研究として、芸術作品作成を目的としたWebサイトの構築及び運用・管理、教育におけるWebサイトの利用なども行っている。

**研究業績**  
津波発生時における自動車避難シミュレーションによる避難経路の分析 千葉県長生郡一宮町を対象として、日本建築学会環境系論文集  
津波災害時における自動車避難の対象地域に関する分析、日本建築学会大会  
津波災害に対する防災計画を考慮した集落の分類手法に関する研究、日本建築学会大会  
芸術学部における情報講義の授業改善に関する取り組み、日本大学FD研究

**社会活動**  
日本建築学会会員  
情報処理学会会員



## 赤木範陸

非常勤

生年月日  
昭和36年09月29日生

**略歴**  
 昭和63年03月  
 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業  
 平成02年03月  
 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了  
 平成07年09月  
 ドイツ政府給費 (DAAD)/ミュンヘン国立芸術大学満期卒業 Dipl.M.A.取得、マイスターシユレー称号授与  
 平成08年04月  
 広島市立大学芸術学部非常勤講師(平成14年迄/平成24年～現在)  
 平成14年04月  
 尾道大学芸術文化学部非常勤講師(現在に至る)  
 平成16年04月  
 横浜国立大学教育人間科学部助教授  
 平成19年04月  
 横浜国立大学教育人間科学部准教授  
 平成24年04月  
 横浜国立大学教育人間科学部教授

**研究領域**  
 古代、及び古典絵画技法、材料に於ける当時の使用方法に関する文献研究を基礎研究と位置づけている。金地テンペラではボリスの代替品として蜜蝋を用いる研究、エンカウスティークに於いては、下層画きに色を排除した技法研究をしている。メチエとしての使用には換骨奪胎が必要であり、私たちが生きる時代にふさわしい肉付けの後、後代に伝える価値が生まれる。古典技法の自己作品への応用では西洋の過去の真似にしかならない。

**研究業績**  
 美術館企画展：  
 赤木範陸展(由布院美術館、1991年)  
 EXHIBITION-Landshuter Hochzeit-N.AKAGI (ドイツ、ランツフート市庁舎ギャラリー、2001年)  
 赤木範陸—錬金術師の軌跡—展(大分市美術館、2001年)  
 赤木範陸—湯あみ—展(浅倉文夫記念美術館、2002年)  
 赤木範陸展:濡れ色の神秘—ENKAUSTIK (MOU 尾道市立大学美術館、2012年)

**社会活動**  
 日本美術家連盟会員、UNESCO 国際美術家連盟会員、大学美術教育学会会員、DAAD (ドイツ学術交流会) 会員、教育大学協会美術会員



## 大西若人

非常勤

生年月日  
昭和37年05月13日生

**略歴**  
 昭和61年03月  
 東京大学工学部都市工学科(都市デザイン研究室)卒  
 昭和62年03月  
 東京大学大学院修士課程中退  
 昭和62年04月  
 朝日新聞社に入社、宮崎支局記者  
 平成02年04月  
 朝日新聞西部本社学芸部記者  
 平成06年04月  
 朝日新聞東京本社学芸部記者  
 平成11年05月  
 朝日新聞大阪本社学芸部記者  
 平成13年09月  
 朝日新聞東京本社学芸部(のち文化部)記者  
 平成16年09月  
 朝日新聞東京本社文化部次長  
 平成19年09月  
 朝日新聞東京本社文化部記者  
 平成22年04月  
 朝日新聞編集委員

**研究領域**  
 美術、建築、写真などの領域に関し、長年取材・執筆してきた経験を踏まえ、こうした視覚表現を現代文化、社会全体のなかに位置づけることを目指す。とりわけ、領域を横断する軸として、「身体」を巡る表現に着目。一方、こうした表現が生まれる背景となっている様々なシステムや文化的、社会的意志の存在も注視している。

**研究業績**  
 朝日新聞紙上での執筆のほか、『大地の芸術祭—越後妻有アートトリエンナーレ』(現代企画室)、『リファイン建築へ—青木茂の全仕事』(建築資料研究社)、『文藝別冊 〔永久保存版〕荒木経推』(河出書房新社)などに寄稿。シンポジウムなどへの参加も多数。

**社会活動**  
 ヒロシマ賞選考委員



## 小倉洋一

非常勤

生年月日  
昭和18年01月15日生

**略歴**  
 昭和41年03月  
 慶應義塾大学経済学部卒業  
 昭和45年09月  
 彫刻家助手、造形職人として各種の造形制作に従事、その後イタリアに滞在し制作活動  
 昭和53年08月  
 伊国立カラーラ・アカデミア彫刻科卒業  
 帰国後国内にて制作活動  
 平成05年04月  
 日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
 専門分野:彫刻  
 人間を作りたいと思って始めた彫刻制作もずいぶん違った様相になってしまった。それでも「人間」の領域を、手を通して確認する作業を続けていることに変わりはない。また、制作者の視点から彫刻史及び近・現代美術の検証も行なっている。

**研究業績**  
 「人・ERODING」、「道」から「ロトの妻」彫刻的植物学」にいたる一連の個展(愛宕山画廊・他)。「体感する美術'96」(佐倉市立美術館)、「ロダン大賞マケット秀作展」(箱根彫刻の森美術館)等。「デイヴィッド・スミス」訳(美術出版/アベヴィル・プレス)、「『西洋の美術』展」等の寄稿(三田評論)、「彫刻家の対話—カロ・チリダ」(彫刻研究室)等。

**社会活動**  
 美術館でのワークショップや公開制作相談会。大学や社会人セミナーでの特別講義。



## 海崎三郎

非常勤

生年月日  
昭和27年04月03日生

**略歴**  
 昭和50年03月  
 日本大学芸術学部美術学科卒業  
 昭和59年04月  
 日本大学芸術学部非常勤講師  
 平成12年09月  
 東北芸術工科大学非常勤講師  
 平成16年04月  
 跡見学園女子大学短期大学部非常勤講師  
 平成16年04月  
 共立女子大学非常勤講師

**研究領域**  
 専攻分野は彫刻であり、表現素材は鉄である。扱ひ方の比較的自在である鉄に対して、負の無垢性とそこから生じるエネルギーに焦点を置きその在り方を探求している。また、野外空間においては彫刻がもつ内と外の関係を空と大地、場所の特殊性も含めて作品化し、内側に対する志向性と現代彫刻の可能性の接点について試行している。

**研究業績**  
 「ROVER02-5」個展 ギャラリーOM  
 「熱より08-6」個展 ギャラリーせいほう  
 「左手の能力より」ねりまの美術'91—彫刻の現在— 練馬区立美術館  
 「ROVER03-1」TUKUBA 現代美術の磁場 2003展 茨城県つくば美術館  
 「ROVER03-2」NEW HEAVY 展 神戸市CAP HOUSE  
 「ROVER05-1」麻生の道彫刻展 川崎市「能力I」雨引の里と彫刻2008 桜川市茨城

**社会活動**  
 第12回全国健康福祉祭ふくい大会美術展 彫刻部門審査員  
 ワークショップ 福井市立美術館



Fine Art and Design



金澤健一

非常勤

生年月日  
昭和31年02月11日生

**略歴**  
昭和54年03月  
東京藝術大学美術学部工芸科卒業  
昭和56年03月  
東京藝術大学大学院美術研究科修了  
昭和56年～平成08年  
株式会社オーヤマデザイン研究所に照明デザイナーとして勤務  
平成元年～03年  
東京藝術大学美術学部デザイン科非常勤講師  
平成24年04月  
多摩美術大学美術学部工芸学科非常勤講師  
平成24年04月  
東北芸術工科大学美術科非常勤講師  
平成28年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
工業製品としての金属を出発点とし、幾何学的な構成作品では規則性や偶然性による造形とそれに関わる空間を考え、形と音の関わりをテーマとした作品では科学的、物理的な側面から素材を捉え制作している。ともに金属という素材をいろいろな視点から観察し、その造形の可能性を思考しているといえるだろう。専攻の美術教育研究では、美術と他分野との接点、音楽、科学、身体表現など幅広い視点を持つことを基礎に置く教育の可能性を探っている。

**研究業績**  
「第1回岡本太郎記念現代芸術大賞」準大賞  
「はがねの変相—金澤健一の仕事」川崎市岡本太郎美術館  
「共鳴する空間 金澤健一 音のかけら」新潟市新津美術館  
「第20回記念 現代日本彫刻展」宇部市野外彫刻美術館 毎日新聞社賞、市民賞  
「金澤健一「音のかけら」とワークショップ展」川崎市立美術館  
「金澤健一展 出発点としての鉄 1982—2011」川崎市立美術館

**社会活動**  
美術館、小学校、科学館におけるワークショップ及び大学の特別講義。



金子啓明

非常勤

生年月日  
昭和22年生03月01日生

**略歴**  
昭和48年03月  
慶應義塾大学文学研究科修士課程修了  
昭和51年05月  
東京国立博物館美術課彫刻室研究員  
平成07年04月  
東京国立博物館法隆寺宝物室長  
平成15年04月  
東京国立博物館事業部長  
平成18年09月  
東京国立博物館副館長  
平成20年04月  
興福寺国宝館長  
平成22年04月  
慶應義塾大学教授(有期)、日本大学芸術学部客員教授

**研究領域**  
日本彫刻史を中心とする日本美術史の研究。文化史の新しいデザインの企画。博物館・美術館等における企画事業(実績:「東京国立博物館・法隆寺宝物館設立事業」、特別展「仏像 一木にこめられた折り」,「国宝 業師寺展」,「国宝 阿修羅展」,「国宝 仏頭展」他)

**研究業績**  
(著書)『運慶と快慶』小学館、「文殊菩薩」至文堂、「興福寺の仏たち」東京美術、「法隆寺の仏たち」東京美術、「仏像のかたちと心—白鳳から天平へ—」岩波書店、「運慶のまなざし」岩波書店、他。

**社会活動**  
デジタル文化財創出機構理事、MOA美術館・箱根美術館理事、他。



河東義之

非常勤

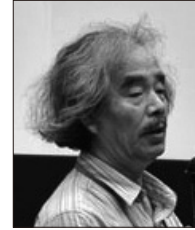
生年月日  
昭和18年03月22日生

**略歴**  
昭和42年03月  
東京工業大学理工学部建築学科卒業  
昭和42年07月  
東京工業大学理工学部助手  
昭和51年04月  
国立小山工業高等専門学校助教授  
昭和64年10月  
国立小山工業高等専門学校教授  
平成02年03月  
工学博士(東京工業大学)  
平成11年04月  
千葉工業大学教授  
平成11年07月  
国立小山工業高等専門学校名誉教授  
平成19年04月  
日本大学大学院生産工学研究科非常勤講師  
平成20年03月  
千葉工業大学定年退職  
平成23年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成25年04月  
日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師

**研究領域**  
近代日本建築史。特に、「わが国建築界の父」と呼ばれたジョサイア・コンドルに関する研究、明治以降の上流住宅に関する研究など。文化財保存。特に近世・近代の歴史的建造物の調査研究、伝統的町並みの調査研究など。

**研究業績**  
「明治の西洋館」新人物往来社  
「ジョサイア・コンドル建築図面集Ⅰ～Ⅲ」中央公論美術出版  
「建築探偵術入門」(共著)文芸春秋社  
「図説日本建築年表」(共著)彰国社  
日本建築学会賞(業績)平成14年

**社会活動**  
東京都文化財庭園の保存・復元・管理等に関する専門委員会委員  
千葉市、我孫子市、青梅市、栃木市、小山市等の文化財保護審議会委員



木下 晋 (木下 進)

非常勤

生年月日  
昭和22年06月04日生

**略歴**  
平成11年04月  
東京大学工学部建築学科非常勤講師  
平成13年04月  
武蔵野美術大学造形学部非常勤講師  
平成21年04月  
金沢美術工芸大学大学院教授  
平成25年04月  
武蔵野美術大学造形学部客員教授  
平成26年04月  
金沢美術工芸大学客員教授  
平成27年04月  
日本大学芸術学部・日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師  
平成29年04月  
金沢美術工芸大学名誉客員教授

**研究領域**  
私の作品は鉛筆画材10Hから10Bも2段階の濃淡を使い分けて制作している。だが美術の分野では、油絵の具より古い伝統ながらデッサン等の補足的画材の域を出ていないだろう。未だに文房具が主流なのだ。しかし最近画材としての鉛筆が見直され、今年から高校3年生の美術教科書にも紹介されている。私も携わるものとして啓蒙したいと思うのだ。

**研究業績**  
個展・池田20世紀美術館、平塚美術館、沖縄県立博物館美術館  
グループ展—「瀬戸内芸術祭」豊島/香川、「東京+ベルリンコミュニケーション展」FREIES美術館/ベルリン、「鉛筆のチカラ」木下晋・吉村芳生展」熊本市現代美術館/熊本  
北日本新聞芸術選奨(富山県)受賞、紺綬褒章  
横浜トリエンナーレ展出品





## 木村三郎

非常勤

**生年月日**  
昭和23年03月21日生

**略歴**  
昭和47年03月  
東京大学文学部仏文学科卒業  
昭和50年03月  
東京大学大学院美術史学専攻修士課程修了  
昭和56年01月  
パリIV大学(ソルボンヌ)文学博士取得  
平成03年04月  
放送大学客員教授(平成11年まで)  
平成04年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成07年04月  
コレージュ・ド・フランス招聘客員研究員  
平成10年04月  
東京大学文学部講師  
平成28年04月  
金沢美術工芸大学客員教授  
平成30年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
西洋美術史。その中でも、フランスの画家ブッサンを中心とした西洋・日本のバロック時代の図像学とアート・ドキュメンテーションを専門とする。特に、学部で、各学科の諸芸術や、文学などの人文科学を先に学んで来た学生諸君たちに、短期・集中的に西洋美術史の基礎を習得させるための方法論を特色としている。

**研究業績**  
「ダヴィッド」美術出版社 渋沢クロード賞  
《La source écrite du Miracle de saint François-Xavier de Poussin》, La Revue du Louvre,1988,no.5-6  
「西洋絵画作品名事典」三省堂  
「名画を読み解くアトリビュート」淡交社  
「ニコラ・ブッサンとイエズス会図像の研究」中央公論美術出版  
「17世紀フランスにおけるオウイディウスの挿絵と絵画についての総合的研究」(科研報告書・<http://www.ovidmeta.jp> アートドキュメンテーション学会同僚推薦)  
「西洋近代絵画の見方・学び方」左右社  
「フランス近代の図像学」中央公論美術出版  
「イメージ制作の場と環境—西洋近世・近代美術史における図像学と美術理論」中央公論美術出版

**社会活動**  
デジタル情報記録管理協会理事  
金沢美術工芸大学名誉客員教授



## 河野 実

非常勤

**生年月日**  
昭和22年02月11日生

**略歴**  
昭和46年03月  
国学院大学文学部史学科卒業  
昭和48年07月  
町田市立博物館学芸員  
昭和59年11月  
町田市立国際版画美術館学芸係長  
平成12年04月  
町田市立国際版画美術館主幹兼学芸係長  
平成22年03月  
町田市立国際版画美術館退職  
平成23年04月01日  
鹿沼市立川上澄生美術館館長

**研究領域**  
日本の近世・近代の版画史を専攻する。近世においては、錦絵の登場を技術的側面からの中に求めて、実証研究を行っている。近代については、版画が芸術活動の一端を担うことになる明治時代後期から大正、昭和までの間を、版画家達の動向を骨格に、当時の各種版画運動とその時代的背景についても言及しながら近代版画史を研究している。現在は、昭和前期の版画界の動向について調査を進めている。

**研究業績**  
「版の絵から絵画への萌芽」中央公論美術出版(「近代日本版画の諸相」収録)  
「小川破笠画『風のすゑ』の挿図と詩箋」ペリかん社(「江戸文学」収録)  
「文学」岩波書店(「第6巻第2号」)  
「再考」小川破笠画『風のすゑ』の挿図と詩箋  
「詩歌とイメージ—江戸の版本・一枚摺に見る夢—」編・著



## 小林昭世

非常勤

**生年月日**  
昭和30年10月21日生

**略歴**  
昭和56年03月  
武蔵野美術大学大学院修士課程修了  
平成04年04月  
武蔵野美術大学専任講師  
平成08年04月  
武蔵野美術大学助教授  
平成12年04月  
武蔵野美術大学教授  
この間、(株)三菱総合研究所社会システム部、育英工業高等専門学校講師、イリノイ工科大学研究員、日本大学、名古屋大学大学院、慶応義塾大学大学院、早稲田大学等非常勤講師。

**研究領域**  
デザイン、特に、情報デザインやインタラクティブデザインを対象とするデザイン方法論とその理論。また記号論に基づくデザイン理論研究。デザインという概念の成立と変遷に関する歴史、デザイン史。色と形についての、美術、表象文化、生物学等の学際的な思想とその歴史。

**研究業績**  
「意味論的転回—デザインの新しい基礎理論」共訳、「プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ」共著、「現代デザイン事典2010」-「現代デザイン事典2015」共著、「かたち・機能のデザイン事典」共著、「グラフィックデザイン」共著、等

**社会活動**  
日本デザイン学会、日本記号学会、ANBD (Asia Network Beyond Design) 等。



## 作田富幸

非常勤

**生年月日**  
昭和35年01月22日生

**略歴**  
昭和59年03月  
東京造形大学美術学部版画専攻卒業  
平成09年04月  
共立女子大学非常勤講師  
平成12年04月  
創形美術学校非常勤講師  
平成19年04月  
横浜美術短期大学非常勤講師  
平成21年04月  
東京藝術大学非常勤講師  
平成26年04月  
女子美術大学非常勤講師  
平成30年04月  
東京造形大学非常勤講師

**研究領域**  
専攻分野:版画  
銅版画を中心にした制作をしている。個人的な経験や思考をもとに、人がみな感じている喜びや悲しみや孤独感などに肉薄し、昇華しようと考えている。

**研究業績**  
第53回日本版画協会展、協会賞  
第6回高知国際版画トリエンナーレ、大賞  
第16回中華民国国際版画・素描ビエンナーレ、銀賞  
第17回バルナ国際版画ビエンナーレ(ブルガリア)1等賞  
個展 東急Bunkamuraギャラリー(2015)  
個展 エカテリーンブルグ美術館(ロシア)(2018)

**社会活動**  
日本版画協会会員  
日本美術家連盟会員

Fine Art and Design



櫻井孝美

非常勤

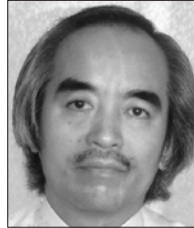
生年月日  
昭和19年11月16日生

**略歴**  
昭和43年03月  
日本大学芸術学部美術学科卒業  
昭和43年04月  
山梨県繊維工業試験場勤務(研究員・研究職)  
平成07年04月  
常葉短期大学非常勤講師  
平成18年04月  
了徳寺大学日本文化芸術学部教授  
平成22年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成27年04月  
日本大学客員教授

**研究領域**  
油彩による絵画制作であるが、時には日本画の材料である顔料・岩絵具・紙等を用いた制作研究も行っている。テーマとして意識することは、人間賛歌・自然賛歌・緑と水と太陽であり、更には言えどんなことがあっても人生に「イエス」と言うような絵を描きたいと願っている。具体的には目に見えない空気・気配・太陽・大地・水等であり、私の生活する富士山とそこに生きる人々を表現する研究制作を行っている。

**研究業績**  
第31回安井賞受賞  
第22回昭和会賞受賞  
85' 東京セントラル美術館油絵大賞展大賞受賞  
IBM I&P展大賞受賞  
現代美術の祭典準大賞受賞  
山梨県立美術館新人選抜展美術館賞受賞  
富士吉田市文化功労者賞受賞  
櫻井孝美展(葺崎大村美術館)  
紺綬褒章

**社会活動**  
社団法人日本美術家連盟会員  
社団法人日本建築美術工芸協会会員  
公益社団法人山梨科学アカデミー協会会員  
土日会員  
富士吉田市文化協合理事長  
富士吉田文化振興協会評議員



鷲見洋一

非常勤

生年月日  
昭和16年12月11日生

**略歴**  
1972年03月  
モンペリエ大学文学博士号取得  
1973年04月より2007年まで慶応義塾大学に勤務

**研究領域**  
ヨーロッパ18世紀思想・文化史。フランス『百科全書』研究。文化現象を領域横断的方法で複合的・重層的に解釈・解読する態度を貫いている。

**研究業績**  
Le Neveu de Rameau: caprices et logiques du jeu. Librairie France Toshi. 1975 (モンペリエ大学博士論文)。  
『翻訳仏文法』上・下、新装改版。ちくま学芸文庫、筑摩書房、2003年。  
『18世紀: 近代の臨界—ティドロとモーツァルト』、ぶねうま舎、2018年。  
『いま・このポリフォニー』、ぶねうま舎より近刊予定。  
『「百科全書」と世界図絵』、岩波書店、2009年。  
シル・ラプージュ「ワグラムの戦い」(翻訳)、新潮社、1989年。  
A・コルビエほか監修「身体の歴史I」(監訳)、藤原書店、2010年。同「男らしさの歴史I」(監訳)、藤原書店、2017年

**社会活動**  
日本アート・ドキュメンテーション学会会員。



鷹尾俊一

非常勤

生年月日  
昭和25年02月18日生

**略歴**  
昭和48年03月  
日本大学芸術学部美術学科中退  
昭和48年04月  
彫刻家  
平成10年10月  
創価大学教育学部非常勤講師  
平成13年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成27年04月  
日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師

**研究領域**  
人体彫刻、人間像を主たる研究分野としている。素材はブロンズ及び樹脂を中心に制作している。彫刻の長い歴史の中で人間像は、多くの作品と経験を持っているが、彫刻としての人間像はその内に内包される生命とその形の問題、それを形作る物質の問題、それが存在する空間の問題として捉えることが出来るだろう。この問題を変化と関係性という視点から見つめ、現代における人間像の新たな意味と可能性について探っている。

**研究業績**  
第16回昭和会展 優秀賞 日動画廊 東京  
神戸具像彫刻大賞展 優秀賞 神戸ポートアイランドパーク 兵庫  
第3回高村光太郎大賞展 特別優秀賞 美ヶ原高原美術館 長野  
「秘められたフォルムを刻む」鷹尾俊一彫刻展 西武アートフォーラム 東京  
丸の内仲通り彫刻展 有楽町 東京  
TUES1996 鷹尾俊一彫刻展 美ヶ原高原美術館 長野  
鷹尾俊一彫刻展「像」 A&Dギャラリー、アートギャラリー 日本大学芸術学部 東京

**社会活動**  
公益財団法人 東京富士美術館 理事



高橋幸次

非常勤

生年月日  
昭和28年08月12日

**略歴**  
昭和54年03月  
東京大学文学部第1類(文化学)卒業  
昭和59年03月  
東京大学大学院美術史学専攻修士課程修了  
昭和60年04月  
東京国立近代美術館勤務(文部技官・研究職)  
平成03年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成11年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成31年04月  
国際ファッション専門職大学教授

**研究領域**  
専攻は近代・現代美術史。もともとは特にロダンをはじめとする19世紀以降現代までの彫刻・立体作品の研究であるが、現代の芸術を考える際に、美術という制度やジャンルを越え出る領域に広く関心を持っている。例えば、セザンヌと現代美術の平面作品の問題、ダダイズム・シュルレアリスムの今日性、現代美術における映像・舞台・音楽などと美術のコラボレーション的領域等。専門領域の展覧会企画も行っている。

**研究業績**  
『ロマン主義時代の彫刻』『世界美術大全集 西洋編 第20巻 ロマン主義』小学館  
『新潮美術 ROM ロダン』(日本語版監修・翻訳) 新潮社  
『【日本でみる】西洋名画の鑑賞ブック』淡交社  
『未来のカメラユヘ』『カメラユ・クロードル展』カタログ、軽井沢メルシャン美術館ほか  
『「ロダンの言葉」とは何か』三元社

**社会活動**  
財団法人イサム・ノグチ日本財団評議員  
練馬区立美術館運営協議会委員  
屋外彫刻調査保存研究会運営委員  
財務省関税等不服審査会委員  
岩手県美術品収集評価委員会委員



## 土田 修

非常勤

生年月日  
昭和18年01月02日生

**略歴**  
昭和41年03月  
日本大学芸術学部美術学科工業デザイン専攻卒業  
昭和41年04月  
(有)古川卓一デザイン事務所勤務  
昭和47年01月  
デザインオフィス デコム設立に参画  
昭和48年04月  
赤井電機株式会社デザイン部長  
昭和63年09月  
カシオ計算機株式会社デザインセンター長  
平成03年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成16年04月  
カシオ計算機株式会社デザインセンター長退任後  
日本大学芸術学部研究所教授(非常勤)  
平成25年01月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
デザインオフィス、製造業のデザイン部門等の物作りの現場勤務の経験から「使い手側の要件を、作り手側の限られた条件で如何に満たすか(含、商品企画開発)」を、実践的工業デザインで追求する。また工業デザインと言う行為から生ずる文化的、社会的、経済的效果に対しても強い関心を持つ。産学協同研究、デザイン研究委託業務にも積極的に関わりを持つ。

**研究業績**  
(財)関西自転車産業協会デザインコンペティション 特選  
ユーゴスラビア国際デザインコンペティション 特選1席  
(財)日本産業デザイン振興会国際デザインコンペティション 特選2席  
(財)日本産業デザイン振興会グッドデザイン賞金賞  
英国 D&AD 賞  
昭和48年~63年 赤井電機株式会社オーディオ、ビデオ、電子楽器等の同社製品全てをデザイン・ディレクション  
昭和63年~平成16年 カシオ計算機株式会社の電子楽器、電子カメラ、映像機器、セララム、時計、電子文具、電子辞書、電卓等の同社製品全てをデザイン・ディレクション



## 寺内曜子

非常勤

生年月日  
昭和29年07月27日生

**略歴**  
昭和52年03月  
女子美術大学芸術学部造形学専攻卒業  
昭和53年03月  
女子美術大学芸術学部造形学専攻研究科修了  
昭和56年07月  
英国 Saint Martin's School of Art 彫刻専攻 Postgraduate Advanced Course 修了  
昭和58年09月-昭和59年08月  
ヘンリー・ムーア財団フェローとして、アーティスト・イン・レジデンス(ロンドン)  
平成02年02月-平成09年01月  
英国 Winchester School of Art 非常勤講師  
平成11年04月-平成13年03月  
実践女子短期大学非常勤講師  
平成14年10月  
愛知県立芸術大学美術学部油画専攻助教授  
平成19年04月  
愛知県立芸術大学美術学部油画専攻教授  
平成25年04月-日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
専攻分野:美術(彫刻・インスタレーション)  
「物」を創るというよりも、「事」から必然的に表れる形や状況を提示する方法で制作をしている。観客の立つ展示空間ごと巨大な作品に取り込んでしまう場所限定のインスタレーション「空中楼閣」で、見える世界がいかに見えないままにあるかを体験させる場を提供する等、素材や媒体にこだわらずに、私たちの世界認識の限界を具現化することを試行している。

**研究業績**  
「The Sculpture Show」Hayward Gallery  
「色彩とモノクローム」東京国立近代美術館  
「空間体験」国立国際美術館  
<個展> かんらん舎 / Victoria Miro / ギャラリー小柳 / Chisenhale Gallery / メンヒェングラッドパッハ市立美術館 他  
<パブリックコレクション> 国立国際美術館 / Victoria & Albert Museum 他多数

**社会活動**  
第47回神奈川県美術展審査員



## 中島安貴輝

(中島忠家) 非常勤

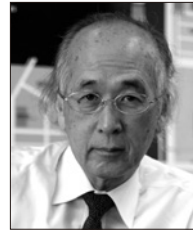
生年月日  
昭和18年01月30日生

**略歴**  
昭和41年03月  
日本大学芸術学部美術学科造形卒業  
昭和41年04月  
株式会社高島屋宣伝部勤務  
昭和47年  
ピクトリアル研究所設立  
昭和48年01月  
財団法人沖繩国際海洋博覧会協会  
企画調整室デザイン担当  
昭和51年01月  
デザイン事務所アートアンドグラフィック主宰  
平成05年04月  
愛知県立芸術大学非常勤講師  
武蔵野美術大学非常勤講師  
平成10年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成25年01月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
専攻分野:視覚言語、シンボル、タイポグラフィ、サインシステム、ロゴマーク  
研究テーマ:ゲーテンベルク、印刷技法、組版、紙、ピクトグラム、イデオグラム、ベクトログラフィ、錯視、形の意味性、視覚詩、文字デザイン、デザインの知的所有権

**研究業績**  
ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ入賞  
ニューヨークタイプレクターズクラブ入賞  
日本タイポグラフィ年鑑ベストワーク賞  
全国カタログ・ポスター展グランプリ  
日本サインデザイン協会 SDA 賞  
IOC ベストセレクションポスター  
パーマメントコレクション:ドイツ・ゲーテンベルクミュージアム、ドイツ・クリンクスポールミュージアム、武蔵野美術大学資料館

**社会活動**  
日本グラフィックデザイナー協会会員  
日本タイポグラフィ協会会員  
日本デザイン学会会員  
ドイツ・ゲーテンベルクゲゼルシャフト会員  
一般社団法人国際文化研究所理事  
日本キャン協会専門委員



## 西川 潔

非常勤

生年月日  
昭和21年05月27日生

**略歴**  
昭和44年03月  
東京教育大学教育学部美術学科卒業  
昭和46年03月  
東京教育大学教育学部研究科修士課程修了  
昭和54年07月  
筑波大学講師芸術学系  
平成08年04月  
筑波大学教授芸術学系  
平成09年03月  
博士(デザイン学)取得(筑波大学)  
平成16年04月  
国立大学法人筑波大学芸術専門学群長  
平成21年04月  
国立大学法人筑波大学副学長  
この間信州大学、長崎大学、愛知県立芸術大学、武蔵野美術大学の非常勤講師や銘伝大学、ブライトン大学の客員教授を務める

**研究領域**  
視覚伝達デザイン分野。特に環境に関わるサイン計画、環境グラフィック、色彩計画、屋外広告景観等の調査及び制作に努める。また Shared Space の研究にも取り組んでいる。

**研究業績**  
著書:「広告景観」2015 ぎょうせい 「屋外広告の知識・デザイン編」監修/執筆 2006 ぎょうせい 「医療施設のサイン計画デザインマニュアル」2002 学芸出版社 「ビレッジサイン/英国フォークロアのデザイン」(共著) 1987 玉川大学出版会  
学術論文:「交通機関のサインフェイスデザインリニューアル試案」(共著) 2005 筑波大学芸術学研究(JR東日本と共同研究成果の一部)  
制作:「横浜市立市民病院サイン計画ディレクション」共同 2019 「ひたち医療センターサイン・アート計画」2014 「東京都立健康長寿医療センターサイン・アート計画」2013 「文京区サイン計画」共同 2012 「筑波大学学生宿舍色彩計画」共同 2011 「つくば市サイン計画」共同 2009 (日本デザイン学会作品賞)  
社会活動:「首都圏中央環状線換気機デザイン選考委員」共同 2010 グッドデザイン大賞  
守谷市景観審議会会長  
日本デザイン学会名誉会員

Fine Art and Design



深谷基弘 (中山光美) 非常勤

生年月日  
昭和17年05月15日生

**略歴**  
昭和43年03月  
日本大学芸術学部美術学科卒業  
昭和43年04月  
高田秀三建築設計研究室勤務  
昭和46年04月  
深谷研究室(建築設計)主宰  
昭和47年06月  
日本大学芸術学部助手  
昭和52年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
昭和58年05月  
日本大学芸術学部助教授  
平成02年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
専攻分野: 建築—伝統技法  
〈伝えるということは、教える側にあるのではなく、仕事を覚えてやろう、盗んでやろうとする側の血の出るような一方的な努力のサイクルの中にある〉という伝統の本質と普遍性を棟梁達の生き様から学び確信した意義は大い。〈思いて取る、味わいて知る〉は「五重塔」の作者である幸田露伴の言葉に対峙した姿勢である。露伴に習い〈想いて盗る、実践をして識る〉を建築に対する基本姿勢としている。

**研究業績**  
著作  
「図解・木造建築伝統技法事典」 彰口社  
「図解・木造伝統工法・基本と実践」 彰口社  
論文  
「棟梁の技術思想に学ぶ」  
新建築連載全16回  
「棟梁に学ぶ家の総括=丸ごとつかめ」  
新建築  
作品  
日本建築学会三宅島研修所(旧・棟梁に学ぶ家)  
山村再生計画(不造住宅推進システムの構築)

**社会活動**  
日本建築学会  
新日本建築家協会  
棟梁に学ぶ家代表



前田富士男 非常勤

生年月日  
昭和19年02月04日生

**略歴**  
昭和41年03月  
慶應義塾大学工学部管理工学科卒業  
昭和43年03月  
慶應義塾大学文学部美学美術史学専攻卒業  
昭和46年03月  
慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了  
昭和49年03月  
慶應義塾大学大学院博士課程単位取得退学  
昭和49年11月  
神奈川県立近代美術館(鎌倉)学芸課  
昭和50年10月  
西ドイツ政府DAAD留学(西ドイツ・ボン大学)  
昭和53年04月  
北里大学教養部専任講師  
昭和60年04月  
慶應義塾大学文学部助教授  
平成03年04月  
ドイツ・ミュンヘン大学客員研究員  
平成22年04月  
中部大学人文学部教授  
平成27年04月  
中部大学客員教授/慶應義塾大学名誉教授

**研究領域**  
ヨーロッパ近代絵画史絵画論、美術史学方法論、芸術理論史、アート・ドキュメンテーション。とくにパウル・クレー研究、ゲーテの色彩論・形態学、20世紀初めにおけるデザイン理論や生命主義的芸術観、アーカイヴ論など。

**研究業績**  
ゲーテ『色彩論・完訳版』、工作舎、1999年。  
「パウル・クレー 絵画のたくらみ」(とんぼの本)、新潮社、2007年。「パウル・クレー 造形の宇宙」慶應義塾大学出版会、2012年。「『色彩からみる近代美術』、三元社、2013年。「ディルタイ全集第5巻 詩学・美学」、法政大学出版局、2015年。

**社会活動**  
アート・ドキュメンテーション学会会長  
形の文化会副会長  
DNP文化振興財団評議員



松下サトル (松下 悟) 非常勤

生年月日  
昭和32年12月19日生

**略歴**  
昭和56年03月  
東京芸術大学美術学部絵画科卒業  
昭和58年03月  
東京芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了  
昭和63年04月  
創形美術学校非常勤講師  
昭和63年04月  
女子美術大学非常勤講師  
昭和63年04月  
女子美術大学短期大学部非常勤講師  
平成24年04月  
了徳寺大学非常勤講師  
平成25年04月  
東洋美術学校非常勤講師  
平成26年04月  
多摩美術大学非常勤講師  
平成26年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
専攻分野: 版画  
日本の伝統的な水性木版画技法を使用して木版画を制作している。記号的な人物や静物・風景などを組み合わせて、レトロなイメージを模索している。

**研究業績**  
第49回日本版画協会展奨励賞  
Contemporary Japanese Printmakers  
大英博物館  
第2回さっぽろ国際現代版画ビエンナーレ展  
大日本印刷賞  
第3回川上澄生美術館木版画大賞展準大賞  
日本の木版画100年展名古屋美術館

**社会活動**  
日本版画協会会員  
版画学会会員



山中敏正 非常勤

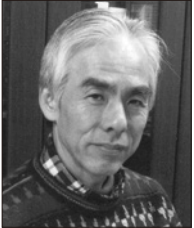
生年月日  
昭和32年生

**略歴**  
昭和55年03月  
千葉大学工学部工業意匠学科卒業  
昭和57年03月  
千葉大学工学研究科工業意匠学修了  
昭和57年04月  
旭光学工業株式会社(現リコー株式会社)工業デザイン室  
平成02年10月  
イリノイ工科大学特別研究員  
平成06年02月  
筑波大学芸術学系講師  
平成14年04月  
デルフト工科大学招待研究員  
平成17年03月  
博士(感性科学)(筑波大学)  
平成17年04月  
筑波大学人間総合科学研究科教授  
平成23年10月  
筑波大学芸術系教授

**研究領域**  
デザインプロセスにおける感性の働き方、感性情報の働きおよび感性による評価について、デザイン方法論と人間工学/認知科学/感性科学の立場から研究を進めている。また、情報デザイン/プロダクトデザインの実践に、感性科学の知見を応用している。

**研究業績**  
学術論文・著書  
LEVY Pierre, YAMANAKA Toshimasa, Kasnei Studies Description and Mapping through Kansei Study Keywords, Kasnei Engineering International Journal vol.8 No.2, Japan Society of Kansei Engineerig, 2009/05  
山中敏正:カメラデザインにおける設計要件の構造的分析, 日本デザイン学会, 1989  
山中敏正:プロダクトデザインの広がり 第2部 統合化技術としてのデザイン, 第3部 デザインの仕事は考えること, 工業調査会, 2000

**社会活動**  
日本デザイン学会会長  
日本産業デザイン振興会グッドデザイン賞審査員(2001, 2003)  
日本感性工学会参与



## 吉岡正人

非常勤

### 生年月日

昭和28年08月15日生

### 略歴

昭和55年03月  
武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業  
昭和57年03月  
筑波大学大学院芸術研究科修了  
昭和60年04月  
埼玉大学教育学部講師  
昭和61年04月  
埼玉大学教育学部助教授  
平成04年08月  
文化庁芸術家在外研修員として渡伊（～平成05年08月）  
平成09年04月  
東京学芸大学大学院連合学校博士課程S教員併任（～平成31年03月）  
平成13年04月  
埼玉大学教育学部教授（～平成31年03月）  
平成24年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成28年04月  
武蔵野美術大学非常勤講師（～平成31年03月）  
平成31年04月  
埼玉大学名誉教授

### 研究領域

専攻分野: 絵画(洋画)  
主に卵テンペラと油彩による絵画作品を制作している。平面としての強さと美しさを求めており、その絵画性をもって深い精神性の追求を目的としている。古典から近代の絵画を研究し絵の具の扱い方と平面性の関係を研究している。

### 研究業績

二紀展に於いて文部科学大臣賞他受賞  
第3回前田寛治大賞展大賞受賞(1995年)  
個展「バラツツオペレトリオ」(イタリア1998年)  
個展「日本橋三越本店」(1991年より7回)  
「思い出のファンタジー二人展」(バラツツオペレネチア国立美術館・イタリア)  
作品収蔵・文化庁、埼玉県立近代美術館他  
著書「モネ・名画に隠れた謎を解く」(中央公論新社・平成19年)他

### 社会活動

一般社団法人二紀会理事  
越生町教育委員会委員(平成7年～16年)



Musical Arts



伊藤弘之

専任

生年月日  
昭和38年04月01日生

**略歴**  
昭和61年03月  
山形大学教育学部卒業  
昭和62年08月  
東京音楽大学研究科中退  
平成01年06月  
カリフォルニア大学サンディエゴ校音楽学部  
大学院修士課程修了(MAを得る)  
平成06年09月  
カリフォルニア大学サンディエゴ校音楽学部  
大学院博士課程修了(PhDを得る)  
平成14年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成22年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
作曲。「揺れるイメージ」「フラジャイルな美しさ」と言うコンセプトのもと、独奏、室内楽、合唱、オーケストラと多様な編成で作品を書いている。邦楽器を用いた作品もある。細部まで緻密に構成し四分音を多用する音響づくりが特徴的である。現代の記譜法の研究、作曲ツールとしてのコンピュータの使用、コンサートのプロデュース活動なども行っている。

**研究業績**  
受賞歴: 芥川作曲賞、ヌオヴェシンクロニー国際作曲コンクール第1位、他  
作品: オケストラのための「ミラー II」(サントリー音楽財団委嘱、新日本フィルハーモニー交響楽団により初演)、「弦楽四重奏曲」(武生国際音楽祭委嘱、アルディッチィ弦楽四重奏団により初演)、他多数  
CD: 「伊藤弘之作品集:Swaying time, Trembling time」(ミュージックスタイル)、「伊藤弘之作品集:Swaying into Darkness」(フォンテック)、他  
論文: "Swaying Sensation and Fragile Beauty" in *Music of Japan Today* (Newcastle: Cambridge Scholars Publishing, 2008), 6-11.

**社会活動**  
芥川作曲賞選考委員  
日本音楽コンクール(作曲部門) 審査員  
武生国際作曲ワークショップ講師  
アンサンブル・コンテンポラリーα副代表



川上 央

専任

生年月日  
昭和43年08月08日生

**略歴**  
平成14年03月  
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程中退  
平成17年07月  
フランス国立音楽音響研究所(IRCAM) 招聘研究員  
平成24年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
生態音響学をベースにした音の研究。音とは物質の振動によるものであり、物質の振動には励起が必要である。この生態音響学的な考え方をベースにして、振動に関わる諸情報を分析し、コンピュータによってシミュレーションを行っている。また、バーチャル環境とリアル環境での音の知覚の違いを検討することによって、より人間の知覚に基づいた音の研究を行う。

**研究業績**  
・小西、福本、三浦、三戸、川上、「平均モーション法を用いたスネアドラム練習曲における感情演奏の動作解析」、音楽知覚認知研究、17(1&2), pp.35-40, 2012  
・Tardieu, J., Susini, P., Poisson, F., Kawakami, H., McAdams, S. (2009). The design and evaluation of an auditory way-finding system in a train station, *Applied Acoustics*, Vol.70(9), 1183-1193  
・Kawakami, H. (2009). Research on reduction of unpleasantness while continuous listening to Acoustic Signs. *Proceedings of the 10th Western Pacific Acoustics Conference*.

**社会活動**  
日本音響学会幹事  
日本音楽知覚認知学会常任理事



齊田正子

専任

生年月日  
昭和33年09月25日生

**略歴**  
昭和57年03月  
東京芸術大学音楽学部声楽科卒業  
昭和59年03月  
東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了  
昭和63年04月  
昭和音楽大学非常勤講師  
平成04年03月  
東京芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了(博士(音楽))  
平成12年04月  
日本大学芸術学部研究所助教授(非常勤)  
平成20年04月  
日本大学芸術学部任期制教授  
平成30年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
学生からの研究テーマとして、修士課程ではヴェルディのオペラ、博士後期課程では19世紀イタリアベリカントオペラを取り上げ、オペラにおける発声法及び歌唱法について研究を続けている。国際文化教育交流財団の奨学生としてイタリアにて(1984~86) 研鑽を積み日本における数々のオペラやコンサートへの出演を通じ、留学前からの課題としての現代における日本のオペラのあり方及び上演方法について、その発声法及び演奏法について研究を続けている。

**研究業績**  
1. 第35回ミュンヘン国際音楽コンクール声楽部門第2位入賞他、国内外のコンクールにて入賞  
2. エクソンモービル音楽賞奨励賞他数々の賞を受賞  
3. 藤原歌劇団公演オペラ「椿姫」ヴィオレッタ役でデビュー後、数々のオペラコンサートに出演

**社会活動**  
国際文化教育交流財団評議委員  
日本演奏連盟会員  
藤原歌劇団正団員



高久 暁

専任

生年月日  
昭和37年11月14日生

**略歴**  
昭和62年03月  
東京大学理学部地学科卒業  
平成元年03月  
東京大学文学部第一類美学芸術学専修課程卒業  
平成03年04月  
東京芸術大学大学院音楽研究科修了  
平成13年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成21年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
20世紀西洋芸術音楽史・演奏史。批判校訂版楽譜の作成も行う。過去に手掛けた研究主題として、近現代ギリシャ芸術音楽史研究、亡命移民ロシア人音楽家研究、日本での外来音楽家の活動に関する研究、近現代日本の作曲家研究、台湾での日本の音楽文化の影響についての研究など。またアジア諸国におけるピアノ文化に関心を持ち、歴史的研究やフィールドワークを行っている。

**研究業績**  
著書  
『日本戦後音楽史』(平凡社・共著)  
『青春の音楽-原田力男の仕事』(共著)  
『篠原眞の電子音楽』(Engine Books・共著)  
校訂・編集楽譜  
ニコライ・メトネル「忘れられた調べ」第1巻] op.38 (全音楽譜出版社)  
マルク=アンドレ・アムラン『コン・インディミッシモ・センチメント』(音楽之友社/Edition Peters)  
訳書  
サックス『トスカエニの時代』  
パバー『回想・モスクワの音楽家たち』(音楽之友社)  
クロググ『ギリシャ近現代史』(新評論)

**社会活動**  
日本音楽学会会員、東洋音楽学会会員、日本ギリシャ語・ギリシャ文学会会員  
郭芝苑音楽協進会(台湾) 理事、京都国際音楽コンクール顧問  
音楽評論活動



## 田代幸弘

専任

生年月日  
昭和33年06月15日生

**略歴**  
昭和57年03月 日本大学芸術学部音楽学科卒業  
昭和59年04月 日本大学芸術学部副手  
昭和63年04月 日本大学芸術学部助手  
平成05年04月 日本大学芸術学部専任講師  
平成11年04月 日本大学芸術学部助教授  
平成19年04月 日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
ピアノ奏法および教育法の研究  
バロックでは、バッハ、古典派では、ハイドゥン、ベートーヴェン、ロマン派では、ショパン、シューマン、ブラームス、近・現代では、ラフマニノフ、スクリャーピン、ドビュッシー、ラヴェルの楽曲を研究し、様式感、心理的高揚の表現法を探究する。ピアノ、ソロ曲に限らず、室内楽曲にまで幅を広げている。

**研究業績**  
・田代幸弘ピアノ・リサイタル 平成04年11月 FM東京ホール  
・田代幸弘ピアノ・リサイタル 平成11年12月 ルーテル市ヶ谷センター  
・田代幸弘ピアノ・リサイタル 平成17年12月 IMAホール  
・田代幸弘ピアノ・リサイタル 平成19年11月 オペラシティ・リサイタルホール  
・オデッサ第6回室内楽フェスティバル2台ピアノ・リサイタル 平成25年11月

**社会活動**  
・練馬区演奏家協会会長  
・公益財団法人日本ピアノ教育連盟評議員  
・北関東コンクール審査委員長  
・国際デュオ協会理事  
・日本演奏連盟会員



## 土野研治

専任

生年月日  
昭和30年10月07日生

**略歴**  
昭和53年03月 国立音楽大学音楽学部声楽科卒業  
昭和53年04月 埼玉県立越谷養護学校教諭  
平成09年03月 認定音楽療法士(日本音楽療法学会)  
平成13年04月 昭和音楽大学音楽芸術運営学助教授  
平成14年04月 国立音楽大学非常勤講師  
平成17年04月 神奈川県立保健福祉大学非常勤講師  
平成18年04月 日本大学芸術学部助教授  
平成19年04月 日本大学芸術学部准教授  
平成22年04月 日本大学芸術学部教授  
平成29年04月 武蔵野音楽大学非常勤講師

**研究領域**  
発達障がい児の音楽療法を中心に実践研究を行う。音楽療法における「声」や「身体」を研究テーマとしている。また仏教的ホスピス ビハラーでの音楽療法も研究課題としている。バリトンリサイタルを開催し自己表現力を探究している。

**研究業績**  
障害児の音楽療法～声・身体・コミュニケーション(春秋社)  
心ひらくピアノ 自閉症児と音楽療法士の14年(春秋社)  
音楽療法を知る-その理論と技法-(杏林書院)  
東京ホワイトノンドコーラスの指導を通して日本音楽療法学会19巻第1号 2019年  
土野研治 独唱会 平成28年5月 音楽の友ホール

**社会活動**  
日本音楽療法学会副理事長  
日本音楽療法学会編集委員長(学会誌)  
日本芸術療法学会理事



## 萩原貴子 (緒方貴子)

専任

生年月日  
昭和45年09月25日生

**略歴**  
平成06年03月 東京藝術大学音楽学部器楽科卒業  
平成03年06月 ミュンヘン国立音楽大学中退  
平成09年03月 東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程修了  
平成09年09月 武蔵野音楽大学非常勤講師  
平成12年04月 東京藝術大学非常勤講師  
平成12年04月 洗足学園音楽大学非常勤講師  
平成27年09月 日本大学芸術学部非常勤講師  
平成28年04月 日本大学芸術学部教授  
平成28年04月 洗足学園音楽大学客員教授

**研究領域**  
フルート奏法及び、フルート教育法研究。バロックから現代までの幅広いレパートリーに対応した演奏表現の実践。  
“人の心に響く” “音を出す”ということが何であるか、特に、管楽器奏法の基礎である呼吸法、物理的に理にかなった体の動かし方と結びつけることを研究テーマにしている。

**研究業績**  
第61回日本音楽コンクールに於いて、当時史上最年少優勝。加藤賞受賞。ソリストとして国内外の主要オーケストラや演奏家とコンチェルトや室内楽を演奏する。  
CD 美空ひばりオン・フルート「愛燦燦」(日本コロムビア)  
CD カルメンファンタジー2001(日本コロムビア)  
CD モーツァルトフルート四重奏曲集 with ギルツブルク・モーツァルト弦楽四重奏団～トルコ行進曲～(日本コロムビア)  
CD アジアに吹く風(NHK-BSサウンドトラック)など録音活動は全24枚に及ぶ。  
バンドジャーナル連載  
ワンポイントレッスン

**社樹活動**  
全日本学生音楽コンクール審査員  
全日本吹奏楽コンクール審査員  
大学評価・学位授与機構音楽部会委員  
アジアフルート連盟理事



## 大寺雅子

専任

生年月日  
昭和49年02月12日生

**略歴**  
平成08年03月 武蔵野音楽大学音楽学部音楽教育学科 卒業  
平成12年08月 Florida State University, School of Music, Master's Program in Music Therapy (フロリダ州立大学大学院音楽学部音楽療法専攻修士課程・米国) 修了  
平成19年03月 東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻博士後期課程 修了  
平成22年04月 東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻音楽音響医学分野 助教  
平成23年03月 放送大学大学院文化科学研究科文化科学専攻修士課程臨床心理学プログラム 修了  
平成27年04月 四国大学短期大学部幼児教育保育科 准教授 四国大学学生相談室 相談室長  
平成31年04月 日本大学芸術学部音楽学科 准教授

**研究領域**  
専門領域は臨床心理学と音楽療法。高齢者を対象とした音楽療法の事例研究や音楽療法をめぐる諸問題に関する理論研究を行ってきた。また、大学生を対象とした学生相談に携わった経験から、芸術系学生を対象とした心理的支援に関する研究に取り組んでいる。

**研究業績**  
編著 医学的音楽療法-基礎と臨床- 平成26年07月 北大路書房  
論文 音楽療法研究における音楽のとらえ方をめぐる信念対立の構造の解明-契機志向に関する音楽論の定式化を通して- 平成26年03月 構造構成主義研究・6巻  
論文 Pharmacological and psychosomatic treatments for an elderly patient with severe nausea and vomiting in reaction to postoperative stress 平成27年10月Clinical Journal of Gastroenterology, Vol.8, no. 5

**社会活動**  
臨床心理士、公認心理師、日本音楽療法学会認定音楽療法士、米国資格認定委員会認定音楽療法士(MT-BC)。米国音楽療法協会学術誌 Music Therapy Perspectives 編集委員。

Musical Arts



三戸 勇氣

専任

生年月日

昭和53年08月11日生

略歴

平成13年03月 日本大学芸術学部音楽学科卒業  
平成15年03月 日本大学大学院芸術学研究科音楽芸術専攻修士課程修了  
平成18年03月 日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻博士課程修了(芸術学博士 取得)  
平成18年04月 文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業 ポスト・ドクトラル・フェロー(平成22年03月31日まで)  
平成22年04月 一橋大学大学院法学研究科情報技術助手(平成23年03月31日まで)  
平成24年04月 日本大学芸術学部助教  
平成27年04月 日本大学芸術学部専任講師  
平成31年04月 日本大学芸術学部准教授

研究領域

音楽心理学をベースとした音の研究。  
音楽の演奏における感情表現は、演奏において重要なポイントのひとつである。しかし、研鑽過程の演奏家では、この「感覚」を理解できないことが少なからず生じている。そこで、「感情」と、その感情を表現する「動作」、そしてそこから表出される「音」の関係を検討することにより、誰もがより良い演奏を目指していくための指標を提示し、演奏音そのものをデザインする契機となると考えた。その研究成果から今後の演奏音をデザインする過程までを検討を行う。

研究業績

・ "Differences in the performance motion of several keyboard instruments", International Symposium on Performance Science 2019, 2019  
・ 「音楽演奏における音のデザインの可能性」, 日本音響学会誌, 74巻11号, pp.613-617, 2018

社会活動

・ 日本音響学会 音のデザイン分野 委員  
・ 日本音楽知覚認知学会 幹事  
・ 日本知覚認知学会 会員  
・ 舞踊学会 会員



板倉 駿夫

非常勤

生年月日

昭和21年04月12日生

略歴

昭和45年03月 東京芸術大学音楽学部器楽科卒業  
昭和45年04月 (財)日本フィルハーモニー交響楽団入団  
昭和47年04月 (財)読売日本交響楽団入団  
平成13年04月 日本大学芸術学部研究所教授(非常勤)  
平成15年04月 日本大学芸術学部教授  
平成26年04月 日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

管楽器における奏法の基礎、筋肉の動き、呼吸法、口蓋の変化、動きについての研究。また、金管奏者にとってのメンテナーである高音域での奏法についての研究。管楽アンサンブルにおける各楽器群の音色、バランス、様式についての研究。古典より現代までの作曲家による作品の中より、特に管弦楽、吹奏楽、室内楽、独奏作品を基として、演奏様式、合奏での音色、役割、表現法、楽曲分析などの研究。

研究業績

「トランペット・コルネット教本」  
ドレミ楽譜出版社  
「うまくなるう！トランペット」  
音楽之友社  
「クラシック・名曲プロムナードⅠ・Ⅱ」監修  
ドレミ楽譜出版社  
「ワンポイント・レッスン」  
ハンドジャーナル連載  
「新しい楽器学と演奏法」  
ヤマハ株式会社編(共著)

社会活動

日本管打楽器コンクール審査員  
日本音楽コンクール審査員  
日本管打吹奏楽学会  
日本トランペット協会副会長  
宮崎日日新聞社音楽コンクール審査員



稲川 榮一

非常勤

生年月日

昭和20年08月06日生

略歴

昭和44年03月 東京芸術大学音楽学部器楽科卒業  
昭和45年11月 読売日本交響楽団へ入団  
昭和48年09月 ケルン市立ギルトツェニツヒ管弦楽団へ入団  
昭和49年06月 ヘルリン藝術大学卒業  
昭和55年09月 国立R. シューマン音楽大学非常勤講師  
昭和56年09月 ドイツ連邦共和国軍音楽教育隊非常勤講師  
昭和64年09月 読売日本交響楽団プランニング・ディレクター  
平成07年04月 東京芸術大学音楽学部専任講師  
平成25年04月 東京芸術大学名誉教授

研究領域

専門楽器の奏法、古典から現代までのレパートリー研究、楽器開発。小編成室内楽から管弦楽、吹奏楽等大編成におけるアンサンブル法。

研究業績

ドイツ各地、日本各地でチューバ・リサイタルを開催。ケルン金管5重奏団を結成、ビッテン市現代音楽祭に出演、読売日本交響楽団及びニッポン・シンフォニーと協奏曲を共演。ロニー金管5重奏団結成。ケルン市より栄誉音楽家の称号を得る。チューバ教本(ドレミ出版社)ワンポイントレッスン(音楽の友社)CD/ロニー金管5重奏団「プラスアンサンブルの世界」"クリスマス物語" DVD/吹奏楽指導法「これからの指揮法・合奏指導法」(まじがるふいふ社)

社会活動

日本管打楽器コンクール審査員  
フランス・アルザス国際音楽コンクール審査員  
ドイツ・マルクノイキルヒェン国際音楽コンクール審査員、コンセラー・マロニエ21 審査員  
ドイツ・テトモルト音大にてマスターコース特別講師  
オランダ・マーストリヒト国際チューバ・フォーラム特別講師  
楽器開発(ヤマハ)(アレキサンダー)(アントン)(ミラフォン)(ヨゼフ・モンケ)各社



井上 淑子

(高久淑子)

非常勤

生年月日

昭和23年10月23日生

略歴

昭和46年03月 桐朋学園大学音楽学部卒業  
昭和46年04月 桐朋学園大学音楽学部助手  
昭和48年04月 桐朋学園大学非常勤講師(平成21年03月まで勤務)  
昭和46年04月 桐朋学園大学付属子供のための音楽教室弦楽科講師(現在に至る)  
昭和48年04月 お茶の水女子大学文教育学部非常勤講師(平成26年03月まで勤務)  
昭和59年04月 日本大学芸術学部非常勤講師(現在に至る)

研究領域

ヴァイオリン楽曲の様々な形態(協奏曲、ソナタ、無伴奏曲等々)についての演奏及び指導法の研究。又演奏される機会の少ない曲や練習曲も取り上げ上記研究の一助としている

研究業績

令和元年06月井上淑子ヴァイオリンリサイタル(横浜みなとみらいホール)をはじめ、昭和51年以来定期的にリサイタルを開催。昭和51年より現在に至るまで横浜市イギリス館にて二重奏ソナタを主とする60回余のコンサートを開催。平成21年以來版画やフラワー展示等とのコラボレーションによるコンサートを開始し年一回程度継続中。演奏以外では、神奈川県立音楽堂「音楽鑑賞のタベ」等に東京ハイドン合奏団のコンサートミストレスとしてレギュラー出演し、多数の古典派楽曲の初演にもたずさわる。(平成09年第一回大宮真琴音楽賞受賞)

社会活動

横浜音楽文化協会会員。  
各種オーデイションの審査及び課題曲の公開レッスン担当。  
地域密着型のコンサートを企画し、定期的に出演している。



## 今泉 久

非常勤

**生年月日**  
昭和28年08月27日生

**略歴**  
昭和51年03月  
日本大学芸術学部音楽学科卒業  
昭和53年03月  
日本大学芸術学部芸術研究所修了  
昭和58年04月  
日本大学芸術学部助手  
昭和63年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成08年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成18年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
指揮と打楽器を研究領域とする。指揮についてはこれまでオーケストラ、吹奏楽、オペラ、打楽器アンサンブル、フルートオーケストラ、合唱等の指揮活動を行ってきた。打楽器については独奏曲、打楽器合奏曲、オーケストラ等の打楽器パートの演奏法の研究をしている。「今泉久とパーカッション・グループ「打弾打団」」を主宰している。

**研究業績**  
演奏会  
第2回打楽器リサイタル  
練馬文化センター小ホール 1987  
新星日本交響楽団演奏会  
五反田ゆうぼうとホール 1994  
東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団特別演奏会 新宿文化センター大ホール2002  
今泉久とパーカッション・グループ「打弾打団」演奏会 浜離宮朝日ホール 2004  
フランス近代の室内管弦楽の愉しみ  
石橋メモリアルホール 2004

**社会活動**  
日本管打・吹奏楽学会会員  
吹奏楽コンクール審査員  
日本クラシック音楽コンクール審査員



## 岩宮眞一郎

非常勤

**生年月日**  
昭和27年11月22日生

**略歴**  
昭和50年03月  
九州芸術工科大学芸術工学部音響設計学科卒業  
昭和53年03月  
九州芸術工科大学芸術工学部専攻音響設計学科専攻修了  
昭和52年05月  
九州芸術工科大学芸術工学部助手(音響設計学科)  
平成03年01月  
九州芸術工科大学芸術工学部助教授(音響設計学科)  
平成10年04月  
九州芸術工科大学芸術工学部教授(音響設計学科)  
平成15年10月  
九州大学大学院芸術工学研究院教授(音響部門)  
平成30年03月  
九州大学退職  
平成30年04月  
九州大大学名誉教授、日本大学芸術学部特任教授

**研究領域**  
音の主観的印象と音の物理特性の関係の体系化、テレビや映画などの映像作品における音が果たす役割、音と映像の調和感をもたらす要因、メッセージを伝えるサイン音のデザイン手法、製品音の快適化、音環境と人間の関わり、日本の音文化の特徴、音のプロフェッショナルに必要な聴能形成訓練に関する研究に取り組んできた。音が人間の感性にアピールするチカラを解明したいと思っている。

**研究業績**  
音の生態学－音と人間のかかわり－(コロナ社、2000)  
音のデザイナー－感性に訴える音をつくる－(九州大学出版会、2007)  
音楽と映像のマルチモーダル・コミュニケーション 改訂版(九州大学出版会、2011)  
サイン音の科学－メッセージを伝える音のデザイン論－(コロナ社、2012)  
音のチカラ－感じる、楽しむ、そして活かす－(コロナ社、2018)

**社会活動**  
日本音響学会評議員  
日本音楽知覚認知学会監事  
日本サウンドスケープ協会理事



## 上原興隆

非常勤

**生年月日**  
昭和18年08月09日生

**略歴**  
昭和41年03月東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。  
昭和43年日独交換留学生(DAAD)として西独に留学。ひき続き、ポーランド、イタリアで研鑽を積む。通算在欧5年。日本音楽コンクール入賞。国際ロベルトシューマンコンクール入賞。  
昭和49年より昭和58年まで愛知県立芸術大学にて講師、助教授を歴任。  
昭和58年より平成21年まで東京学芸大学にて助教授、教授を歴任。その間、他にお茶の水女子大学、フェリス学院大学、桐朋学園大学等で非常勤講師を歴任。

**研究領域**  
ピアノ楽曲全般にわたる中、特にドイツ音楽の古典ロマン派の楽曲を得意とする。特にベートーヴェン、シューマン、ブラームス等の演奏曲目多数。

**研究業績**  
・ハンガリー政府主催第4回インターフォーラムにて演奏(プロコフィエソナタ6番等)  
・第125回毎日ゾリステン(ベートーヴェンのソナタ等)  
・演奏生活20周年3夜連続リサイタル  
ベートーヴェンのタ  
シューマンのタ  
ブラームスのタ  
・続3夜連続リサイタル  
シューベルトのタ  
シューマンのタ  
ベートーヴェンのタ  
・後期のベートーヴェンのソナタ群のリサイタル

**社会活動**  
日本ピアノ教育連盟審査員  
毎日新聞社主催学生音楽コンクール審査員  
ちばコンクール審査員  
ソレイユコンクール審査員



## 笠羽映子

非常勤

**生年月日**  
昭和24年06月25日生

**略歴**  
昭和47年03月  
東京芸術大学音楽学部楽理科卒業  
昭和51年03月  
東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了  
昭和56年03月  
パリ第4大学音楽学研究科博士課程修了  
昭和58年04月  
早稲田大学社会科学部専任講師  
昭和60年04月  
早稲田大学社会科学部助教授  
平成02年04月  
早稲田大学社会科学部教授

**研究領域**  
西欧近・現代の芸術音楽史及び作品研究  
ドビュッシーからブーレーズに至るフランスの作曲家の作品研究及び音楽思想の研究を軸に、幅広く西欧音楽芸術の変遷を考察しつつ、日本における音楽芸術の諸問題や芸術・文化の国際交流などをも探究している。

**研究業績**  
学術論文  
《La musique de Debussy au Japon》  
(Cahiers Debussy No 10)  
《Retour sur Le Martyre de Saint Sébastien》  
(Cahiers Debussy No 24)  
Claude Debussy, 《Le Martyre de saint Sébastien》  
(Œuvres Complètes de Claude Debussy, SérieVI, volume 4, édition de Pierre Boulez et Eiko Kasaba, Éditions Durand, 2009)  
訳書  
ドビュッシー『ドビュッシー書簡集』  
ルシエル「伝記クロード・ドビュッシー」(以上音楽之友社)  
ストラヴィンスキー『音楽の詩学』(未來社)  
ブーレーズ/ケージ『往復書簡』(みすず書房)

**社会活動**  
日本音楽学会会員  
日本フランス語フランス文学会会員  
Société Française de Musicologie 会員



Musical Arts



北岡 晃子

非常勤

生年月日

昭和41年09月08日生

略歴

平成02年05月  
テキサスキリスト教大学音楽学部ピアノ科卒業  
平成02年09月—平成03年09月  
カリフォルニア大学ロスアンゼルス校 (UCLA)  
大学院音楽学部修士課程在籍  
平成04年05月  
南カリフォルニア大学大学院音楽学部修士課程修了  
平成12年04月—平成13年03月  
仁愛女子短期大学非常勤講師  
平成12年05月  
ボストン大学大学院音楽学部音楽芸術博士課程修了  
平成15年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成21年04月  
宮城大学共通教育センター准教授  
平成24年04月  
東京福祉大学准教授

研究領域

芸術に関する英語文献を解読して、音楽作品の創作、表現、技術、鑑賞、評論を研究する。日常から、音楽学、理論、音楽教育、情報音楽、音楽療法など、音楽家としての知識・教養を与えるものから作品分析や演奏解釈まで、幅広い内容と多様な形式の英語文献に触れ、通訳・翻訳も数多く手がける。特にピアノ音楽の研究講演と演奏に力を注ぎ、国内外で活動している。

研究業績

論文「Study of Beethoven's String Quartet Op.131 No.1」  
「The Piano Works of Akio Yashiro」  
ブラソスパーリ交響楽団演奏会「モーツァルトピアノ協奏曲」

社会活動

日本ピアノ教育連盟中央運営委員  
日本音楽学会会員  
Pi Kappa Lambda 会員  
国際ピアノデュオ協会会員



佐々木 伸

非常勤

生年月日

昭和31年01月06日生

略歴

昭和53年03月  
武蔵野音楽大学卒業  
昭和55年07月  
藤原歌劇団入団  
第20回日伊声楽コンクール(東京)1位入賞後  
ミラノに6年間在住  
平成03年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成20年  
洗足学園音楽大学非常勤講師

研究領域

演奏家育成のための歌唱法指導を研究領域とするため、学生を数々の演奏会へ招致するなど、より実践的な指導を実施する。また門下生にはコンクールにて入賞等の実績を収める。演奏家育成に際し、学生個々の特性を活かした5段階の歌唱法指導が必要と考え、基礎部としての呼吸法の見直しにはじまり、それぞれの芸術性と個性を観客に理解してもらうための演奏法及び舞台マナーまでを教示する。28年間の歌唱法指導の経験に基づき、自身執筆論文でも取り上げた、イメージ伝達指導法も交えながら、学生育成に努める。

研究業績

第20回日伊声楽コンクール(東京)1位入賞。  
イタリアにてベニア・ミーノ・ジエリ国際コンクール2位入賞及びTV・ラジオ等に出演。  
オペラ「蝶々夫人」にタイトルロール出演等、オペラ公演に多数出演。論文「声楽家育成における発声テクニックのイメージ伝達」。  
門下生のコンクール実績一部抜粋:全日本学生音楽コンクール入選・日本クラシック音楽コンクール入賞/入選・日本声楽コンクール入選/読売新人演奏会出演等。

社会活動

藤原歌劇団団員  
日本クラシックコンクール審査員



澤崎 眞彦

非常勤

生年月日

昭和19年07月15日生

略歴

昭和46年03月  
東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了  
昭和46年04月  
東京学芸大学教育学部助手  
平成05年11月  
東京学芸大学教育学部教授  
平成22年04月  
東京学芸大学名誉教授

研究領域

芸術教育:音楽教育学・日本音楽教育史  
日本の音楽教育の史的展開について、学校教育を対象として研究を行っている。特に、明治5年以降今日までを対象とし、音楽教育界をはじめ音楽界の動向、教育思想、教育行政、更には社会的背景等をも含めたものである。その中でも、音楽教育(唱歌教育)成立への過程、制度の確立、音楽教育観、教材の変遷などを主な研究対象としている。また、日本人と洋楽との出会いについて、版画(長崎絵、横浜絵、錦絵等)なども研究の対象に含めている。

研究業績

編著 「唱歌」 大空社  
共編著 「唱歌大辞典」 東京堂出版 「なつかしの音楽教科書」 ヤマハミュージックメディア  
監修・解説 CD「新訂尋常小学唱歌」 東芝EMI  
論文 「明治初期における唱歌教育の試み—「音楽取調掛」設置前にみる—」 音楽教育学の展望Ⅱ(上) 日本音楽教育学会「日本の音楽教育・人間とその軌跡—幾尾純と唱歌教育(1~10)—」 音楽教育研究第16巻第1~11号 音楽之友社  
「歌唱教材の変遷」「教材学」現状と展望(下)・日本教材学会  
「音楽教材の変遷」「教材辞典」 日本教材学会  
「教材と教材研究」「教材学概論」 図書文化

社会活動

日本教材学会会員・理事  
音楽学習学会会員



高木 綾子 (松永綾子)

非常勤

生年月日

昭和52年09月02日生

略歴

2000年03月  
東京藝術大学音楽学部卒業  
2003年03月  
東京藝術大学大学院音楽研究科器楽専攻修了  
2005年04月  
武蔵野音楽大学非常勤講師  
2009年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
2010年04月  
東京藝術大学音楽学部常勤講師  
2011年04月  
東京藝術大学音楽学部准教授  
2017年04月  
桐朋学園大学音楽学部非常勤講師

研究領域

フルートの奏法の基礎をベースに、楽曲の分析、理解を深めると共に、さらなる音楽性豊かな演奏を目指す為、独創性のある音作りを語学の面から研究。より自然で力みのない演奏スタイルを求め、楽器と一体化した音作りと身体の関係性を研究課題としている。

研究業績

日本音楽コンクール1位  
ジャン・ピエール・ランバル国際フルートコンクール3位  
神戸国際フルートコンクール3位  
新日録音楽賞フレッシュアーティスト賞  
CD12枚製作  
演奏  
NHK交響楽団を始め国内の主要オーケストラとの共演は元より、パリ室内管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団など海外のオーケストラのソリストとして共演。海外の音楽祭にもゲストとして招かれている。

社会活動

日本木管コンクール審査委員長  
日本音楽コンクール審査委員  
アジアフルート連盟理事





## 寺田悦子 (渡邊悦子) 非常勤

生年月日  
昭和25年生

**略歴**  
昭和46年05月  
ウィーン国立アカデミーピアノ科卒業  
昭和48年05月  
ジュリアード音楽院大学院ピアノ科修了  
昭和49年08月  
インディアナ大学ピアノ科アーティストディプロマ在籍(昭和52年まで)  
平成12年04月  
日本大学芸術学部研究科助教授(非常勤)  
平成15年04月  
日本大学芸術学部研究科教授(非常勤)

**研究領域**  
バロックから近現代までの幅広いレパートリーにおいて各時代様式を踏まえた演奏スタイルとピアノという楽器の機能を最大限に生かした独自の音色の確立をめざす。特にショパンやシューマン等に代表されるロマン派の楽曲の演奏には定評があり、東京における定期的なリサイタルの他、これまでにN響を始め国内の代表的なオーケストラとの協演、外国でのリサイタルや協演も数多い。近年はデュオピアノの演奏も多く、またCDも数多くリリースしている。

**研究業績**  
第2回アルトゥーロ・ローレンツォ国際コンクール金賞受賞・日本ショパン協会賞  
第6回リーズ国際ピアノコンクール入賞リサイタル  
東京文化会館大ホール  
東京文化会館小ホール「ウィーンへの回帰」サントリーホール大ホール(6回)  
紀尾井ホール(平成12年以降毎年2回定期的に開催)共演  
N響、日本フィル、読響、都響、東フィル、東響  
他 日本の各オーケストラ  
「ブラハの春」ブラハ放送交響楽団  
イスラエルフィル、ドレスデンフィル、他オーケストラ

**社会活動**  
NHK毎日新聞社主催日本音楽コンクール審査員及び楽壇委員  
全日本学生コンクール全国大会審査員  
東京音楽コンクール審査員  
ピティナコンクール全国大会審査員  
フィンランド、ドイツ等ヨーロッパにおいてマスタークラスを行う



## 袴田和泉 非常勤

生年月日  
昭和31年12月12日

**略歴**  
昭和54年03月  
東京芸術大学音楽学部器楽科卒業  
昭和56年03月  
東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了  
昭和60年08月  
ハンガリー国立リスト音楽アカデミー修了(政府給費留学生)  
昭和63年02月  
ドイツ国立フライブルグ音楽大学大学院アフフバウⅡソリストコース修了  
平成03年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成11年04月  
熊本大学助教授(平成19年に准教授に配置換)  
平成20年08月  
熊本大学教授  
平成31年04月  
熊本大学大学院教授

**研究領域**  
バロックから近現代に至る幅広いピアノ曲(室内楽を含む)の演奏法及び、教育法。楽譜から読み取った内容を音によって表現し、いかにして楽曲の真髄に近づけるかを求め続けている。スクリャーピンの作品には特に心を惹かれ、作曲語法の変遷を辿る演奏会を開催している。また近年はモーツァルトの演奏にも高い評価を得ている。

**研究業績**  
ハンガリー、ドイツ、スイス、フランス各地で多数のソロリサイタル及び、室内楽の演奏会に出演。  
袴田和泉ピアノリサイタル「スクリャーピンの人生と音楽追ってVol.1～Vol.6」  
南西ドイツ放送、スイスロマン放送の出演  
CD「時を超えて響くピアノ」ベルウッド

**社会活動**  
日本演奏連盟会員  
公益財団法人日本ピアノ教育連盟会員  
全日本ピアノ指導者協会会員  
九州音楽コンクール審査員  
熊本県新人演奏会実行委員会委員



## 原田 圭 非常勤

生年月日  
昭和51年07月11日生

**略歴**  
平成12年03月  
東京芸術大学音楽学部声楽科卒業  
平成15年03月  
東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了  
平成20年03月  
東京芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了(博士(音楽))  
平成23年04月  
東京芸術大学声楽科教育研究助手  
平成23年04月  
上野学園大学非常勤講師  
平成25年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成26年04月  
東京芸術大学声楽科非常勤講師  
平成29年04月  
千葉大学教育学部音楽科非常勤講師

**研究領域**  
オペラにおいてはモーツァルトの作品を主軸にその歌唱法、舞台表現を研究。歌曲においてはドイツ歌曲、日本歌曲を中心に歌と語りの関係を重視し、その表現法を研究。オラトリオ作品においてはバッハ、ヘンデル等のバロックから現代まで、多くの宗教的作品の演奏様式とその歌唱表現について研究。

**研究業績**  
大学在学中に安宅賞受賞。東京文化会館新進音楽家オーディション声楽部門合格、デビューコンサートに出演。ウィーンにおいてリサイタル開催(シューベルト歌曲集「冬の旅」全曲)。第16回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位入賞、中田喜直賞受賞。第77回日本音楽コンクール声楽部門入選。新国立劇場「黒船」、東京二期会「魔笛」、日生劇場「夕顔」等のオペラや「第九」、「レクイエム」、「受難曲」等のソリストとしても多数出演している。  
CD モーツァルト・シンガーズ・ジャパン「ドン・ジョヴァンニ」(オクタヴィア・レコード)  
CD オークストラ・ニッポニカ間宮芳生オペラ「ニホンザル・スキトオリメ」(第17回佐川吉男音楽賞受賞)(オクタヴィア・レコード)

**社会活動**  
東京二期会会員  
榎本文化財団出演者選考委員



## 平野 昭 非常勤

生年月日  
昭和24年09月21日生

**略歴**  
昭和54年03月  
武蔵野音楽大学大学院音楽研究科音楽学専攻修了  
昭和54年04月  
武蔵野音楽大学音楽学科学研究員  
昭和56年04月  
武蔵野音楽大学教育文化研究所助手  
平成元年04月  
尚美学園短期大学講師・翌年助教授  
平成08年04月  
沖縄県立芸術大学音楽学部助教授  
平成11年04月  
沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科教授  
平成12年04月  
静岡文化芸術大学文化政策学部教授  
平成21年04月  
静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科長  
平成23年04月  
慶應義塾大学文学部美学美術史学教授

**研究領域**  
西洋音楽史学及び美学。音楽学全般と音楽評論。専門研究対象は18世紀及び19世紀の音楽様式変遷、とりわけ古典派とロマン派の器楽曲の様式研究。J.S.バッハから新ウィーン楽派にいたるドイツ・オーストリアの音楽家作品研究だけではなく、社会学的観点から音楽受容史と文化史の脈絡を読み直している。ベートーヴェン研究を生涯課題とし、特に交響曲、弦楽四重奏曲、ピアノソナタ創作に共通する表現語法と理念を探究したい。

**研究業績**  
編著訳書:『音楽キーワード事典』(春秋社)『ベートーヴェン』(新潮社)、『鳴り響く思想:現代のベートーヴェン像』『ベートーヴェン事典』(東京書籍)、『ベートーヴェン大事典』(平凡社)、『人と作品:ベートーヴェン』(音楽之友社)他。  
論文:『19世紀のベートーヴェン受容:楽譜出版から見てくるもの』、『21世紀のベートーヴェン像:新しい評価の可能性』、『もうひとつのディアベリ変奏曲』、『ベートーヴェン神話の形成とその音楽』。

**社会活動**  
日本音楽学会会員、国際音楽学会会員、日本18世紀学会会員、三田芸術学会会員。浜松市楽器博物館運営協議会委員、日本製鋼文化財団洋楽委員。芸術文化振興基金専門委員、神奈川県芸術文化プログラム委員、音楽評論活動。

## Musical Arts



楊麗貞 (蛭子麗貞) 非常勤

### 生年月日

昭和24年03月07日生

### 略歴

昭和46年03月  
桐朋学園大学音楽学部卒業  
昭和49年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成03年04月  
桐朋学園大学音楽学部非常勤講師  
平成05年04月  
日本大学芸術学部研究所教授(非常勤)  
平成22年04月  
日本大学芸術学部任期制教授  
平成31年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師

### 研究領域

古典から近現代まで幅広い音楽の研究に取り組んでいる。その中でロマン派音楽、特にショパンにおいては、大半の曲を演奏会で取り上げ思考を重ねている。演奏するにあたり、それぞれの作曲家の生きて来た背景、音楽感を考えてみる。また、実際の演奏上の奏法、レガート、強弱、ニュアンス、美しい音色、タッチ、充実感のある音、歌心…と、ピアノの可能性を十分に引き出す魅力ある演奏を追求していきたい。

### 研究業績

第36回日本音楽コンクール第1位  
第1回日本ショパン協会賞受賞  
リサイタル  
東京文化会館、紀尾井ホール、カザルスホール、N響、都響、読響、日本フィル、新日フィル、東フィル等主要オーケストラと共演  
公開講座開催  
CD「ショパン名曲集」 ビクター  
CD「24の前奏曲」 アートユニオン  
CD「ワルツ集」 キング  
CD「ショパンアルバム」 ライヴノーツ

### 社会活動

日本音楽コンクールを始め、各コンクール・オーディション審査員  
毎年チャリティコンサートを企画、出演  
日本演奏連盟会員  
(公財)日本ピアノ教育連盟会員  
日本ショパン協会理事

Performing Arts



大久保 恵児

専任

生年月日  
昭和28年02月11日生

**略歴**  
昭和52年03月  
日本大学芸術学部演劇学科卒業  
以後、ホログラフ作家を目指し渡米。  
昭和55年  
(株)ノーマンインターナショナル(セールスプロモーション)入社  
昭和57年  
(株)共立 舞台照明契約社員  
以後フリーランスとして多数の音楽イベントツアー、ミュージカル等々にオペレーター・プランナーとして従事する。  
平成12年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成18年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成19年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成24年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成30年04月  
日本大学芸術学部教授(再雇用)

**研究領域**  
各ジャンルに於ける舞台照明デザイン。舞台上で使用される光に関わる視覚表現全般についてのデザインを対象としている。

**研究業績**  
串田和美演出「ユビユ王」、照明デザイン  
加藤直演出「周辺飛行」<ボクたちの安部公房>—イメージの展覧会より—照明デザイン  
加藤直演出「地図マニア」—ボクたちのNowhere Land 韓国公演(韓国ソウル 中央大学校アートセンター大劇場) 照明デザイン。  
加藤直演出「地図マニア・扉編」(日中韓合同公演) 照明デザイン

**社会活動**  
照明学会会員



小林 直弥

専任

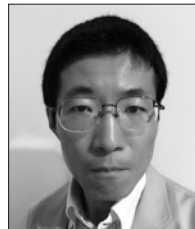
生年月日  
昭和44年07月10日生

**略歴**  
平成04年03月  
日本大学芸術学部演劇学科卒業  
平成04年04月  
日本大学芸術学部演劇学科補助員  
平成08年03月  
日本大学大学院芸術学研究所舞台芸術専攻修了  
平成08年04月  
日本大学芸術学部副手  
平成12年04月  
舞踊文化研究所主任研究員  
平成14年03月  
日本大学大学院芸術学研究所芸術専攻満期退学  
平成14年04月  
日本大学芸術学部助手(助教)  
平成18年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成21年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成26年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
日本の演劇史及び芸能史、また民俗芸能の立場から日本芸能や日本舞踊をはじめとする我が国の舞踊文化について研究している。また、中国や韓国をはじめ、広くアジアの舞踊・芸能との身体的かつ歴史的な観点からの比較研究や実践的な文化交流を行いながら、これからの日本の舞踊文化における創作舞踊領域の可能性について実践的な作品創作も行いながら研究している。

**研究業績**  
『創作舞踊の展開—日本舞踊領域を用いた舞踊創造の可能性—』日本大学芸術学部紀要第67号  
創作日本舞踊台本と上演記録、創作舞踊詩「ワノクタ」「弥勒」「夏椿—沙羅双樹—」「月下美人」  
日本大学芸術学部紀要(創作編)第43号

**社会活動**  
日本演劇学会会員  
舞踊学会会員  
民族芸術学会会員  
藝能学会会員  
社団法人日本舞踊協会会員



櫻井 歓

専任

生年月日  
昭和47年07月02日生

**略歴**  
平成08年03月  
東京大学教育学部教育学科教育学コース卒業  
平成11年03月  
東京大学大学院教育学研究科総合教育学専攻教育学コース修士課程修了  
平成16年03月  
東京大学大学院教育学研究科総合教育学専攻教育学コース博士課程満期退学  
平成17年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成20年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成30年04月  
日本大学芸術学部教授

**研究領域**  
近代日本の思想・哲学のテキストより、人間形成(人格の発達や変容、教育)の思想を読み解く研究を続けている。とりわけ西田幾多郎(1870-1945)のテキストを人間形成論として、近代日本における個の形成の思想として読む試みをライフワークとしている。学問的な出自を教育学に持つ立場から、演劇的行為の人間形成的意義、そもそも人が人となることの演劇的性格などに関する哲学的考察にまで思考の射程を広げようとしている。

**研究業績**  
『西田幾多郎 世界のなかの私』[新版](朝文社、2010年)  
『「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性』(世織書房、2015年、共著)  
『「おのずから」より「みずから」へ——「自律」概念への場所論的アプローチ』[日本大学芸術学部紀要]第62号(2015年)  
『西田幾多郎による書の制作と贈与』[北陸宗教学文化]第27号(2014年)  
『歴史的生命の表現としての芸術——後期西田哲学にみる自己形成概念の二重性』[日本大学芸術学部紀要]第52号(2010年)

**社会活動**  
日本教育学会会員  
教育思想史学会会員  
教育科学研究会「道徳と教育」部会世話人



千早 正美

専任

生年月日  
昭和25年11月11日生

**略歴**  
昭和48年03月  
日本大学芸術学部演劇学科卒業  
昭和60年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成06年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成12年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成29年04月  
日本大学芸術学部教授(再雇用)

**研究領域**  
専門分野: 演出、舞台監督、劇場技術  
上演芸術における舞台監督(舞台監督論・テクニカルディレクター論)の在り方を研究している。また、多目的ホールの概念から専門ホールへの移行、創造空間への試み、コミュニティー文化の核としてのホールを中心に公立文化ホールから公共劇場へのテアトロロジーを考察している。

**研究業績**  
「大学における照明教育について」舞踊学  
「スタッフへの道—舞台監督を志す人へ—」テアトロ  
「実舞台における照明デザインの考え方〜構想と設計〜」日本大学芸術学部紀要  
「光学技術と舞台芸術」化学工学  
「光と演出・中村吉蔵『剃刀』における照明の一考察」日本大学芸術学部紀要  
「科学技術用語辞典」(共著)三修社

**社会活動**  
公益社団法人日本照明家協会理事  
日本舞台監督協会  
舞踊公演等における演出、舞台監督

Performing Arts



原 一平

専任

生年月日

昭和25年07月14日生

略歴

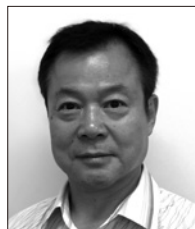
昭和49年03月  
日本大学芸術学部演劇学科卒業  
昭和51年03月  
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了  
昭和55年04月  
日本大学芸術学部助手  
昭和59年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成03年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成09年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成29年04月  
日本大学芸術学部教授(再雇用)

研究領域

〈かぶき〉を戯曲構造の面からとらえ、鶴屋南北を始めとする18世紀以降の演劇史を専攻研究。また、民俗芸能としての地芝居・人形浄瑠璃の実情調査も行っている。さらに、京劇を始めとする中国伝統演劇にも研究領域を拡げたい。

研究業績

共著「アジアの芸術論－演劇理論集」 勉誠社  
共著「現代／実用・日本舞踊曲大全集」 組本社  
論文「大鹿歌舞伎の芸態－『六千両後日文章』を例に－」(長野県下伊那郡大鹿村教育委員会調査報告書)  
地芝居、アマチュアカぶき、学生かぶき等の演出、演技指導、出演など多数  
中国・中央戯劇学院客員教授、中国戯曲学院客員教授  
日中演劇交流・話劇人社理事



范 旅 (FAN LYU)

専任

生年月日

昭和34年07月20日生

略歴

昭和59年07月  
国立北京舞踊学院卒業  
昭和59年09月  
中国広東省歌舞劇院入団  
昭和63年09月  
留学のため来日  
平成07年03月  
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了  
平成07年04月  
日本大学芸術学部演劇科副手  
平成11年04月  
日本大学芸術学部助手  
平成14年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成19年04月  
日本大学芸術学部准教授  
平成24年04月  
日本大学芸術学部教授

研究領域

アジアの文化と伝統芸能の視点から、東洋的な身体表現法を中心に、その歴史と体系、現状と形態を研究する。また従来の東洋的な表現特徴を分析しながら西洋の身体論と比較し、現代における舞踊表現の可能性と作品創作法を探る。

研究業績

論文  
「胡楽・胡舞～日・中芸能史研究の課題として～」日本大学芸術学部紀要第32号  
「時代に翻弄された京劇舞台の裏表」日本大学芸術学部紀要第56号  
「身体表現の視点から“演劇の未来の表現”をどう創造するか」平成30年度学部長指定研究創作  
身体表現演劇『蛛網』総合演出・振付  
舞踊創作『ミズカガミ』/演出・振付  
現代舞踊作品『極』『砂塵』『輪』等  
身体表現演劇『ecstasy～方円の恍惚』総合演出・振付

社会活動

アジア演劇教育研究センター日本支部連絡担当



藤崎周平

専任

生年月日

昭和32年06月29日生

略歴

昭和55年03月  
日本大学芸術学部演劇学科卒業  
平成02年12月  
日本大学芸術学部助手  
平成06年12月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成13年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成19年04月  
日本大学芸術学部教授

研究領域

現代演劇における演技及び方法の研究。  
近代以降の主にナチュラルリズムの表現のための基幹となったスタニスラフスキーの方法論及び、その派生であるメソッド演技の実践研究。それらの方法を土台とした演技訓練法の開発など。

研究業績

A・チャーホフ作『かもめ』演出における一考察 日本大学芸術学部紀要23号  
Animal Exercise—その内容と実践について— 日本大学芸術学部紀要33号  
「役」と「演じる役者」の関係について 日本大学芸術学部紀要45号  
演劇の「専門」学科における「基礎」教育をめぐる問題 演劇学会紀要44号  
新演技の基礎のキノ(単著)

社会活動

日本演劇学会理事  
東京演劇大学連盟理事



丸茂祐佳 (丸茂美恵子)

専任

生年月日

昭和29年11月19日生

略歴

昭和52年03月  
日本大学芸術学部演劇学科卒業  
平成元年04月  
東京国立文化財研究所芸能部調査員(非常勤)  
平成07年03月  
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了  
平成07年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成09年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成12年03月  
韓国国立韓国芸術総合学校舞踊院招聘講師  
平成13年03月  
日本大学より博士(芸術学)取得  
平成15年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成19年04月  
日本大学芸術学部教授

研究領域

動作分析を中心に日本舞踊の本質と理論を探っている。近年はモーションキャプチャを用いた舞踊研究に従事し、日本舞踊の身体的科学的な解明を試みた。それらの成果を発展させ、現在、舞踊と美術、文系と理系の融合によって日本舞踊の身体の源流を探り、日本舞踊学の確立を目指している。

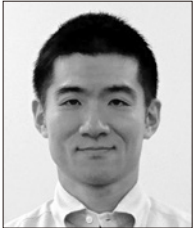
研究業績

単著  
「二世花柳壽應 一期一會」花柳壽應  
「舞曲扇林—日本舞踊 基本と本質—」私家版  
「おどりの譜—日本舞踊 古典技法の復活—」国書刊行会  
「舞踊 正派若柳流史 第Ⅱ期」正派若柳会  
「日本舞踊 西川流史」西川流宗家  
論文  
「日本舞踊の基礎動作『オクリ』に現れる女らしさの特徴解析」舞踊学27

社会活動

文化審議会委員(文化功労者選考分科会)  
文化庁芸術祭選奨選考委員  
国立劇場舞踊公演専門委員などを歴任





## 小沢 徹

専任

生年月日  
昭和55年04月06日生

**略歴**  
平成15年03月日本大学文理学部体育学科卒業  
平成17年03月日本大学大学院文学研究科教育学専攻博士前期課程修了  
平成20年03月日本大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程修了

**研究領域**  
運動生理学、健康科学。脳波を用いて、アスリートの脳活動やタイミング調節に関与する脳活動の研究を行ってきた。現在では、大学生における身体活動と身体組成および機能の関係について研究を行っている。

**研究業績**  
・若年者における身体組成の変化と身体活動量の関係 日本大学芸術学部紀要68号  
・大学生における現在の体格と理想の体格の調査 日本大学芸術学部紀要66号  
・体育実技授業による受講生の身体組成および身体機能の変化 日本大学芸術学部紀要64号  
・日本舞踊における「腰」に関する動作の考察—スポーツ動作との比較— 日本大学芸術学部紀要59

**社会活動**  
日本健康行動科学会評議員  
Society for Neuroscience 会員  
舞踊学会会員



## 中野成樹

専任

生年月日  
昭和48年08月25日生

**略歴**  
平成07年03月  
日本大学芸術学部演劇学科卒業  
平成08年04月  
日本大学芸術学部演劇学科副手  
平成14年03月  
日本大学大学院芸術研究科舞台芸術専攻修了  
平成21年04月  
有明教育芸術短期大学専任講師  
平成26年04月  
有明教育芸術短期大学准教授  
平成28年04月  
日本大学芸術学部演劇学科専任講師  
平成30年04月  
日本大学芸術学部演劇学科准教授

**研究領域**  
舞台演出：戯曲よりドラマツルギーの抽出とその立体化。具体的には①戯曲読解 ②演技指導 ③空間処理 ④時間編集の方法論。  
現代演劇：①いま観ることのできる演劇 ②現代をモチーフとした戯曲の上演 ③近代劇に対する戯曲・演技・美術・音響効果などの形式の分析・解説。  
小劇場：大に対する小の発想、表現、認識などの分析・解説。①大に対する小 ②中央に対する辺境 ③表に対する裏、など。

**研究業績**  
平成22年～24年  
アジア舞台芸術祭「Waiting～」  
平成25年～29年  
としまアート夏まつり「おぼけ教室」他  
平成25年10月  
フェスティバル／トーキョー「四家の怪談」  
平成28年05月  
日本・シンガポール共同制作「DRUMS」  
平成29年10月  
フェスティバル／トーキョー「半七半八」  
以上全て作・構成・演出

**社会活動**  
日本演劇学会会員



## 小田幸子 (渡辺幸子)

非常勤

生年月日  
昭和24年03月14日生

**略歴**  
昭和47年03月  
立教大学文学部日本文学科卒業  
昭和47年04月  
法政大学大学院人文科学研究科日本文学専攻修士課程入学  
昭和56年03月  
法政大学大学院博士課程単位修得  
平成10年03月  
法政大学より(博士論文提出)文学博士号授与  
平成04年04月  
聖徳大学助教授  
平成12年04月  
東京文化財研究所芸能部調査員  
平成14年04月  
日本女子大学非常勤講師  
平成20年04月  
明治学院大学非常勤講師  
平成29年12月  
第39回観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞

**研究領域**  
能狂言研究・演劇批評  
能狂言の作品研究および演出史。  
型付・装束付等の演出資料をもとに、能の古態を究明し、現在に至る変化の相を辿る。平成12年以降、古典劇を取り入れた現代劇に関する批評を執筆。復典・新作・古演出のドラマツルグなど、古典と現代、研究と舞台を橋渡しする活動を行なう。

**研究業績**  
学術論文  
「能の舞台装置—作り物の歴史的考察—」  
「能の演技と演出—装束付・型付をめぐる諸問題—」  
「修羅能出立の変遷」  
「女能のエロティシズム」  
「シェイクスピア狂言の可能性—「国盗人」を中心に—」

**社会活動**  
平成22～24年 文化庁主催芸術祭 審査員(演劇部門)  
平成26～令和元年 芸術文化振興基金運営委員会伝統芸能・大衆芸能専門委員  
令和元年～ 国立能楽堂専門委員



## 織田紘二

非常勤

生年月日  
昭和20年03月01日生

**略歴**  
昭和42年03月  
国学院大学文学部日本文学科卒業  
昭和42年04月  
特殊法人国立劇場入社。芸能部制作室  
平成元年04月  
芸能部制作室・公演監事室室長  
平成11年04月  
調査養成部部長  
平成15年04月  
芸能部部長  
平成19年10月  
独立行政法人日本芸術文化振興会理事  
平成22年04月  
同 顧問

**研究領域**  
研究対象というほどのこともないが、長年たずさわってきた歌舞伎の演出の中を広げてみたいし、戯曲研究にも力を注いでみたい。伝統芸能全般に渡り、ありうべき創作の可能性を探ってみたいとも思う。現在の伝統芸能の姿の中から、新しい方向を目指して伸びる芽も必要だが、何が正しい伝統なのかを見極める目も必要であり不可欠だ。正統を評価するより高い能力を身に付けることが、目指す領域である。

**研究業績**  
「歌舞伎モノがたり」淡交社  
「ぜんぶ芸のはなし」淡交社  
「新版歌祭文」白水社  
「松緑芸話」講談社  
「三島由紀夫芝居日記」中央公論社  
「芸と人—戦後歌舞伎の名優たち」演劇出版社

**社会活動**  
公益社団法人日本演劇協会専務理事  
公益社団法人日本舞踊協会副会長  
芸能学会理事  
「日本博」企画委員  
伝統歌舞伎保存会理事  
琉球舞踊保存会顧問



Performing Arts



加藤みや子 (駐地みや子) 非常勤

生年月日  
昭和23年05月14日生

**略歴**  
昭和43年04月  
桑沢デザインスクール卒業  
昭和52年10月～同53年10月  
文化庁在外派遣研修員としてNY、パリで研修。帰国後、加藤みや子ダンススペースを設立。  
平成01年04月  
日本大学芸術学部非常勤講師  
平成16年09月  
日本女子体育大学非常勤講師  
平成19年04月  
お茶の水女子大学非常勤講師  
平成19年12月  
文化庁在外特別派遣研修員として米、仏、独で研修。アーティストインタビューを重ねる。  
平成25年04月  
日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師  
平成25年09月  
日本女子体育大学非常勤講師

**研究領域**  
振付家ソロダンサーとして多くの先駆的な作品を発表し、内外に認められ多くの作品を発表。ヨーロッパ、アメリカ等巡演。08年にはブラジルの五都市を国際交流基金主催事業として巡回する。コラボレーションを作品に取り組み、Hot Head Worksを立ち上げ、ジャンルを越えてアーティストが集結するフェスティバルのディレクションをする。  
ダンスアーカイブの活動の中に過去の発見と今が繋がっている事を実感し検証している。一方、未来に向い五感フル活用のワークショップを地域や学校で展開。創造力を育む教育の大切さを伝えている。

**研究業績**  
東京新聞主催全国舞踊コンクール三部門第一位文部大臣賞江口隆哉賞ニムラ舞踊賞等受賞  
「からだの知性が次代の文化を創造する」  
gapan forram 21

**社会活動**  
国加藤みや子ダンススペース主宰  
現代舞踊協会常務理事  
全国舞踊コンクール創作部門審査員  
ニムラ舞踊賞審査員



神永光規 非常勤

生年月日  
昭和23年09月05日生

**略歴**  
昭和47年03月  
日本大学芸術学部演劇学科卒業  
昭和49年03月  
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了  
昭和53年04月  
日本大学芸術学部助手  
昭和57年03月  
日本大学芸術学部専任講師  
平成元年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成07年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成29年04月  
日本大学芸術学部教授(再雇用)

**研究領域**  
専攻分野: 演出論・日本近代演劇史  
劇性が多様化し、骨太な人間が創出するドラマが稀薄となっている今日、近代人が刻んだ劇の世界を検証することは大切である。そこから自己実現への道筋が見えてくるからである。演出者とは、自他の関係において潜在下の能力をいかに惹き出すかの一点に極まる。ドラマが現代に劇場性をとり戻し、その力をいかに発揮するか普遍的問いかけとしている。韓国を中心にアジアのコモンセンスを追求している。

**研究業績**  
「演出者・岡倉士朗の軌跡」  
日本大学芸術学部紀要  
「農民劇作家・大島萬世」『芸術学』  
「講座日本の演劇 近代の演劇Ⅰ・Ⅱ」(共著) 勉誠社  
「講座日本の演劇 現代の演劇Ⅱ」(共著) 勉誠社  
「20世紀の戯曲Ⅱ 現代戯曲の展開」(共著) 社会評論社

**社会活動**  
東洋演劇学会(在ソウル)設立など日韓演劇学術交流



貫 成人 非常勤

生年月日  
昭和31年07月05日生

**略歴**  
1980年 東京大学文学部哲学科卒業  
1985年 東京大学大学院人文科学研究科哲学専修博士課程単位取得満期退学  
1988年 埼玉大学教養学部専任講師  
1990年 同助教授  
2000年 専修大学文学部教授

**研究領域**  
[1] 舞踊に関しては、①舞踊の構成、また、観客としての舞踊体験のメカニズムについての、現象学や哲的美学、認知心理学、引き込み理論などの諸観点からの分析、②日欧の舞踊をめぐる社会史・経済史・政治史などの分析にもとづく舞踊史の再構築、③上演実態調査などにもとづく日欧など各国文化政策、アートマネジメントの研究。[2] 身体文化論(哲学、各地域の身体文化史など)、歴史理論(物語論、世界システム論、複雑系理論など)、現象学、哲学史研究。

**研究業績**  
「経験の構造: フッソール現象学の新しい全体像」(勁草書房、2003年8月)  
「歴史の哲学 物語を超えて」233+xxiv、2010年8月、勁草書房  
「バレエとダンスの歴史: 欧米劇場舞踊史」鈴木晶編、平凡社、2012年3月14日310頁、「コンテンポラリーダンス」229-253頁)  
「身体の拡散とダンスの豊穣化」『Who Dance? 振付のアクチュアリティ』早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、2015年12月20日、82～92頁。  
Übersetzbarkeit von Tanz: Der Fall Butoh, in Tanz anderswo: Intra- und interkulturell, hrsg. von K. Kruschkova und N. Lipp, Lit Verlag, 2004, S.121-133.

**社会活動**  
2010、2014、2018年度 京都賞選考専門委員会委員  
2015年～青山ダンスDNA実行委員会理事  
2015年 ドイツ学術交流会(DAAD)奨学生選考委員  
「照明家協会雑誌」「ダンスマガジン」「読売新聞」などに舞踊評執筆



宮尾慈良 非常勤

生年月日  
昭和23年11月09日生

**略歴**  
昭和51年03月  
早稲田大学大学院文学研究科芸術学専攻修士課程修了  
昭和55年06月  
ハワイ大学大学院博士課程留学  
ハワイ・イースト・ウエスト・センター研究員  
平成03年04月  
東京女学館大学助教授  
平成09年04月  
早稲田大学文学部非常勤講師  
慶応義塾大学文学部非常勤講師  
平成12年03月  
博士(芸術学)取得

**研究領域**  
日本演劇の歴史は、アジアから渡来した外来文化と固有文化の混交からなりたってきた。豊かな文化や新たな芸能は、今日では世界演劇を代表する能、狂言、文楽、歌舞伎などに発達した。現在、視点を変えて、アジア演劇のなかで、日本演劇は独自性をもつかどうかを考察してみる。アジア演劇における精神性を研究するには、民俗に根ざした芸能の伝承形態を分析することによって、明確にすることができると考える。

**研究業績**  
「アジアの人形劇」三一書房  
「アジア舞踊の人類学」PARCO出版  
「宇宙を映す身体 - アジアの舞踊」新書館  
「アジア演劇人類学の世界」三一書房  
「アジア人形博物館」大和書店  
「舞踊の民族誌」彩流社  
「東南アジア演劇史の研究」鼎書房  
「比較芸能論」彩流社

**社会活動**  
ユネスコ・アジア文化センター視聴覚教材共同製作事業委員

The Arts



赤澤立三

非常勤

生年月日  
昭和15年生

**略歴**  
昭和39年03月  
日本大学芸術学部音楽学科卒業  
昭和45年05月  
日本大学芸術学部助手  
昭和54年06月  
日本大学芸術学部専任講師  
昭和60年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成05年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成22年06月  
日本大学芸術学部非常勤講師

**研究領域**  
ピアノ教育を中心とした器楽教育の教材研究、指導方法及び比較研究を主とする。特にロシア(旧ソヴィエト)におけるピアノ教育事情の調査研究に重点をおき、その関連の研究論文、紹介記事を学会、専門誌等に多数発表する。併せて導入期における諸問題にも関心を持って考察している。

**研究業績**  
「R.レティ著:ベートーヴェン・ピアノソナタの構築と分析」(共訳) 音楽之友社  
「最新ピアノ講座」(共著) 音楽之友社  
「グリーグピアノ名曲集」(監修・校訂) ドレミ楽譜出版社  
「ソヴィエトのピアノメソッドにみる教育観について」(研究論文) 日本音楽教育学会  
「ソヴィエト・児童音楽学校のピアノ科カリキュラムを巡って」(共編) ムジカノーヴァ誌連載  
EPTA(ヨーロッパピアノ教育連盟)ストックホルム(スウェーデン)大会において「日本におけるピアノ教育の軌跡と現況について」を講演(2012.9)。

**社会活動**  
一般社団法人西東京市文化芸術振興会副会長、代表理事  
西東京市文化芸術振興推進委員会委員長



草原真知子

非常勤

生年月日  
昭和23年02月18日生

**略歴**  
1983年10月  
ACM/SIGGRAPH日本代表事務所、CG・メディアアート・キュレーター  
1986年04月-2002年03月  
日本電子専門学校、IAMAS 他非常勤講師  
1994年04月  
東京工芸大学芸術学部助教授  
1998年04月  
神戸大学大学院自然科学研究科助教授  
2001年09月  
博士号(工学、東京大学)  
2002年04月  
UCLA芸術学部客員教授  
2003年04月  
早稲田大学文学学術院教授  
2018年04月  
早稲田大学名誉教授

**研究領域**  
メディアアート、デジタルメディア、先端メディア技術、映像文化史、メディア考古学。幻燈など映像装置と社会・大衆文化の関係。

**研究業績**  
・「デジタルメディア時代のアート」デジタル・スタディーズ第2巻 メディア表象 東京大学出版会 2016, pp.213-231  
・Early Works of Masaki Fujihata, Masaki Fujihata, Laznia Centre for Contemporary Art, 2017, pp.46-67  
・Proto-Media Art: Revisiting Japanese Postwar Avant-garde Art, A Companion to Digital Art, Wiley, 2016, pp.111-145  
・Bridging art, technology, and pop culture: some aspects of Japanese new media art, Routledge Handbook of New Media in Asia, 2016, pp.66-79  
・The "Baby Talkie," Domestic Media, and the Japanese Modern, Media Archaeology, Univ. California Press, 2011, pp. 123-147

**社会活動**  
日本映像学会理事  
社団法人デザイン&テクノロジー協会理事  
日本バーチャルリアリティ学会評議員



峰村澄子

非常勤

生年月日  
昭和16年12月19日生

**略歴**  
昭和41年03月  
日本大学芸術学部音楽学科卒業  
昭和47年06月  
日本大学芸術学部助手  
昭和52年04月  
日本大学芸術学部専任講師  
昭和60年04月  
日本大学芸術学部助教授  
平成07年04月  
日本大学芸術学部教授  
平成24年07月  
日本大学名誉教授

**研究領域**  
専攻分野: 作曲  
現代音楽の創作をしてゆく中で、これまで日本の伝統音楽(雅楽・能楽等)についての研究をしつつ、また民族性に強い関心を持っている。創作にその特性を生かしながら咀嚼して独自の語法により作品を書いている。現在は、民族性の中の「言葉」と旋律(音楽表現)、「リズム論」に強い関心を持っている。

**研究業績**  
「峰村澄子歌曲集」音楽之友社  
「風韻〜ヴァイオリンとピアノのための〜」日本作曲家協議会(楽譜出版)  
「謡〜クラリネットとピアノのための〜」国際芸術連盟(第4回日本現代音楽展出品・楽譜出版)  
「峰村澄子・室内楽作品集『舞』」(CD出版)  
「クラリネット、チェロ、ピアノのための三重奏曲」日本作曲家協議会(2000年の作曲家出品・楽譜出版)  
峰村澄子作品展(個展)Ⅰ〜Ⅷ 東京文化会館他  
「ファンタジア〜4手連弾のためのわらべうた」音楽之友社

**社会活動**  
日本現代音楽協会会計監査役  
国際ピアノデュオ協会会長、理事長  
国際芸術連盟室内楽コンクール審査委員及び作曲コンクール審査委員  
国際ピアノデュオコンクール(作曲部門)審査委員長(演奏部門)審査委員

五十音順 (敬称略)

●博士前期課程と●博士後期課程を担当する教員が見分けられるようになっています。

Pは掲載頁の場所を示します。

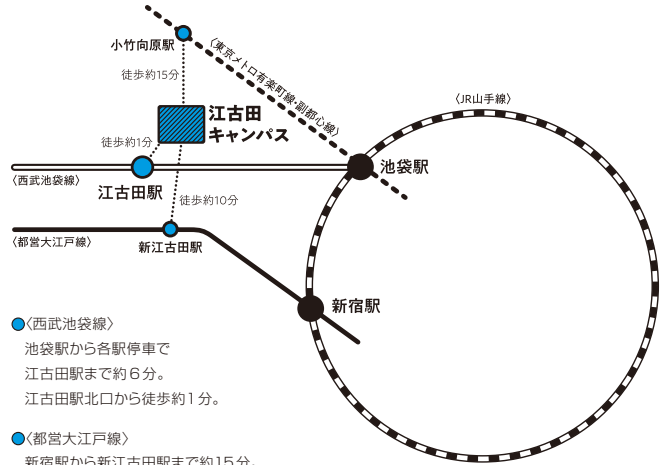
博士前期 博士後期 P

Table listing faculty members under '博士前期' and '博士後期' with corresponding page numbers (P). Includes names like 青木 敬士, 青木 研次, etc.

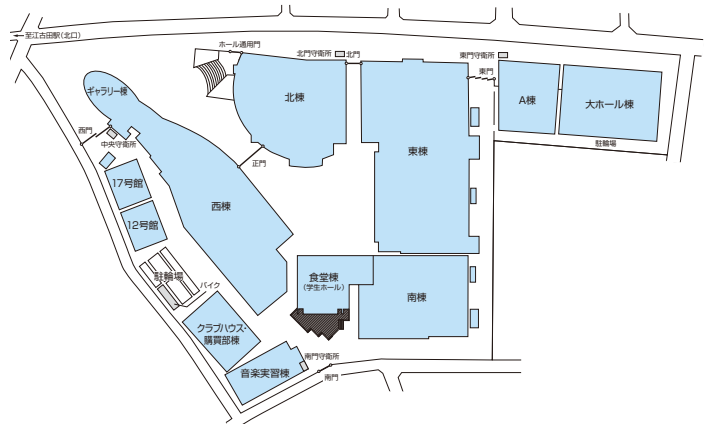
博士前期 博士後期 P

Table listing faculty members under '博士前期' and '博士後期' with corresponding page numbers (P). Includes names like ソコフ山下聖美, 山下聖美, etc.

江古田キャンパス



- (西武池袋線) 池袋駅から各駅停車で江古田駅まで約6分。江古田駅北口から徒歩約1分。
●(都営大江戸線) 新宿駅から新江古田駅まで約15分。新江古田駅A2出口から徒歩約10分。
●(東京メトロ有楽町線・副都心線) 池袋駅から小竹向原駅まで約6分。小竹向原駅2番出口から徒歩約15分。



# GSA

*Art Direction, Design & Digital Operation  
by Masashi Kimura,*

*Department of Design*

*Text : General Affairs Section & Academic  
Affairs Section*

*Printing Company : TASP*

*Many thanks to*

*The People Who Understand*

*the Art & Design*

*Nihon University Graduate School of Art  
October 2019.*



# GSA

[www.art.nihon-u.ac.jp](http://www.art.nihon-u.ac.jp)

日本大学大学院芸術学研究科

東京都練馬区旭丘 2-42-1 〒176-8525

Telephone.03・5995・8202 Facsimile.03・5995・8209

**NIHON UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF ART**

2-42-1, Asahigaoka Nerima-ku, Tokyo 176-8525 JAPAN